令和7年版

消防年報



三 木 市 消 防 本 部

令和8年刊行

はじめに

この年報は、令和7年中における三木市の主な消防事情について収録し、今後の消防行政の参考に資するとともに、広く一般に紹介するため編集したものです。

なお、この年報は、予算関係は会計年度とし、火災・救急・救助関係にあっては暦年をもって表し、その他は必要に応じ当該表の右上に基準日を表示しています。

皆様にご高覧いただき、本市消防業務に対するご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

令和8年8月吉日

三木市消防長　　大東　成吉

目　次

概要編

三木市の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
一目統計 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
消防の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
消防の沿革 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4～15
消防組織 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16
事務分掌 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
管内図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18
消防庁舎の概要 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
消防相互応援協定 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
令和７年度主要行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20～21

総務編

事務事業の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
消防施設整備事業 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 22
消防予算年度別比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
消防予算に対する市民負担 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
消防予算節別比較 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
職員の配置状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25
職員年齢構成及び階級別消防吏員数 ・・・・・・・・・・・・・・ 26
職員資格取得状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27
職員研修 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 28
消防表彰等状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

予防編

予防行政の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
防火団体等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 30
予防広報 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
火災予防講習会等 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 31
防火対象物の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 32
防火対象物の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
地区別防火対象物の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
消防用設備等の設置状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 34
中高層建築物の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35
用途別同意件数と工事別処理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・ 36

建築同意処理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
予防関係届出状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 37
製造所等の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
危険物製造所等の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
危険物製造所等の設置状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
地区別危険物施設設置状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39
危険物製造所等の申請･届出処理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・ 40
製造所等の各種調査及び検査状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40
液体危険物タンクの完成検査前検査実施状況 ・・・・・・・・・・・・ 41
手数料収入額 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
移譲事務関係の届出及び検査状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
三木防火協会の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
会員数と予算の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42
令和７年度の主要行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

警防編

消防車両配置状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 43
消防機械器具保有状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
消防車両等修理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44
管内消防水利の現況（消火栓） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
管内消防水利の現況（防火水そう） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
各種届出等受理状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
消防活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
訓練実施状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 46
消防訓練等指導状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
気象情報発令状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 47
月別気象状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
月別降水量 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
月別平均風速 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48
水防資器材備蓄状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 49

火災編

過去の主な火災 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
令和７年中の主な火災 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 50
火災概要（対前年比）・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51
火災件数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
地区別火災件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 52
月別火災件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
時間別火災件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 53
署別火災件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
四季別火災件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 54
火災損害額の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
火災損害額 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55
初期消火の状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 55

出火原因別件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 56
火災による死者数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57
消防部隊出動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 57

救急編

救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
発生地区別出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
署別救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 58
救急出場件数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
事故種別救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 59
月別救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
曜日別救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 60
時間別救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 61
現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着） ・・・・・・・ 61
病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容） ・・・・・・・・・ 62
事故種別救急搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
傷病程度別救急搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 62
発生場所別救急出場件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
年齢別事故種別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
性別科目別搬送人員 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63
高速道路における救急活動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64
応急処置件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 64

救助編

救助出動件数の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
救助活動件数・救助人員の推移 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
救助出動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65
署別救助出動件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
地区別救助出動件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 66
発生場所別救助出動件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 67

指令編

１１９番受信件数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
１１９番通報件数（回線区分別） ・・・・・・・・・・・・・・・・ 68
通信指令系統 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
通信系統図 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 69
高機能消防指令システム機器一覧 ・・・・・・・・・・・・・・・・ 70～71
消防通信施設状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
デジタル無線 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
アナログ無線 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
火災出動体制 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 72
消防無線通信施設 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 73～74

消防団編

消防団の現況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
機構 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
令和７年度消防団の主な行事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 75
消防団員在職年数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
消防団員年齢調べ ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 76
消防団分団・階級別実員数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 77
消防団ポンプ現勢一覧表 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 78～81
消防団員報酬・退職・新任状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
報酬 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
退職事由 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
退職団員の在職年数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
年齢別新入団員数 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
消防団員出動状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 82
消防団員関係表彰状況 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 83

三木市の概要

三木市は、兵庫県の中南部、日本標準時子午線上に位置し、まちの中央部を東西へ加古川の支流、美嚢川が流れる沖積平野や台地、丘陵から成り立つ恵まれた自然環境と優れた伝統に培われたまちです。

昭和２９年６月１日に美嚢郡三木町、別所町、細川村、口吉川村が合併して市制を施行、兵庫県で１６番目の市として発足し、同年７月１日に志染村が合併し、平成１７年には美嚢郡吉川町と合併しました。

三木市は、古い歴史と自然に恵まれ、古事記や播磨風土記には、億計(おけ)、弘計(をけ)２皇子の古代ロマンの物語が記されています。また、戦国時代には、東播８郡２４万石を領した別所氏の居城があり、三木合戦によって荒廃した町は、豊臣秀吉の復興策によって商工業が活発化し、今日の金物産業の発展の基礎をつくりました。別所氏の居城であった三木城跡と織田方によってつくられた包囲網の付城跡・土塁は平成２５年３月に国史跡指定となっています。

また、三木市は山田錦（酒米）の主生産地となっており、三木金物ブランドとともに更なる発展が期待されます。

一方、市域内を中国及び山陽自動車道が通過するなど、全国的にも交通の要衝として注目され、西日本一多くのゴルフ場が立地する他、「三木ホースランドパーク」、「道の駅よかわ」（山田錦の館、吉川温泉よかたん等）など、観光資源も多彩なものがあります。

優れた交通立地を活かし、「県立三木総合防災公園」や「ひょうご情報公園都市」が整備され、将来が期待されるところです。



市　の　木　「　松　」

「松」は、三木市を取り巻く山の樹木の大部分を占め、常に山の緑を保ち、市民の気持ちをなごやかにしてくれる貴重な存在です。また、年中変わらない緑葉の若々しさ、枝ぶりの優雅さ、幹皮の力強さは、三木市の調和ある発展を象徴しています。

（昭和４６年６月に制定）



市　の　花　「さつき」

「さつき」は、三木市内に数多く見られ、花は多彩、変化に富んでいます。さつきが群生し、競い合って咲いている様子は、まさに豊かに発展しようとしている三木市を表しています。

（昭和４６年６月に制定）

一目統計

令和８年４月１日現在



面積

176.51ｋ㎡



人口

男性	34,819人
女性	37,155人
合計	71,974人



世帯数

35,107世帯



消防予算

1,150,419千円



署所

消防本部	1
消防署	1
分　署	2



消防職員

定員	93人
実員	97人
（再任用職員3名含む）	
平均年齢	34.8歳



消防団・分団

分団数	38分団
班数	103班



消防団員

定員	1,080人
実員	1,027人
平均年齢	44.1歳



消防車両

ポンプ車	6台	水槽車	1台
救急車	5台	はしご車	1台
救助工作車	1台	指揮車	1台
化学車	1台	その他の車両	12台



消防水利

消火栓	2,303基
防火水槽	770基



防火対象物

特定用途防火対象物	
	641棟
非特定用途防火対象物	
	2,001棟
合計	2,642棟



立入検査回数

一般	825回
危険物	145回
合計	970回



自主防災組織

自由が丘消防隊	1隊



危険物施設

製造所	3施設
貯蔵所	161施設
取扱所	105施設
合計	269施設

令和７年中



火災

発生件数	53件
損害額	40,981千円



救急

発生件数	4,549件
搬送人員	4,177人



救助

発生件数	103件
活動件数	64件
救助人員	42人



その他の災害

305件

警戒・偵察・風水害等



１１９番受信

6,979件

問い合わせ・間違い等含む

消防の推移

（令和7年12月31日基準）

区分／年次	管内人口	世帯数	消防職員数	消防団員数		火災件数	損害額	死者数	救急出場件数
				三木	吉川		（千円）		
S30	38,876	7,793		1,807		14	359		
62	82,772	22,874	81	1,110	506	64	35,074	2	1,511
63	84,089	23,164	81	1,110	506	65	119,307	3	1,616
H1	84,401	23,800	81	1,110	506	59	100,458	3	1,612
2	85,115	24,307	80	1,111	506	69	126,846		1,728
3	85,731	24,739	81	1,112	506	53	146,294	1	1,725
4	85,983	25,217	83	1,113	506	59	109,055		1,636
5	85,886	25,516	83	1,113	506	54	74,671	2	1,754
6	86,134	25,919	86	1,113	506	70	143,646	1	1,813
7	87,177	26,696	85	1,113	506	58	108,945	3	2,374
8	87,852	27,284	86	1,113	506	66	75,083	3	2,259
9	88,193	27,826	88	1,113	506	50	94,043	2	2,173
10	88,070	28,286	90	1,113	506	47	123,228	5	2,393
11	87,615	28,525	90	1,113	506	57	91,708		2,305
12	87,165	28,728	90	1,113	506	61	125,153	2	2,478
13	86,675	29,057	90	1,113	506	63	66,033	3	2,536
14	86,351	29,400	90	1,006	506	77	68,434	4	2,631
15	85,647	29,756	90	1,006	506	54	153,585	1	2,764
16	85,568	30,034	90	972	506	34	45,214		2,783
17	85,045	30,364	90	1,375		47	125,700	5	3,094
18	84,642	30,760	90	1,363		47	108,378	1	3,040
19	83,989	31,081	90	1,369		44	128,088	3	3,077
20	83,711	31,511	90	1,367		50	174,107	2	2,980
21	82,060	31,089	92	1,342		53	119,764		3,008
22	82,383	32,007	91	1,337		48	34,189		3,195
23	81,829	32,228	91	1,337		72	103,355	2	3,323
24	81,304	32,276	91	1,337		42	72,553	3	3,314
25	80,391	32,387	91	1,332		45	28,148		3,384
26	79,768	32,566	91	1,340		35	53,772		3,416
27	79,282	32,881	91	1,331		35	21,879	1	3,597
28	78,803	33,078	91	1,326		28	18,774	1	3,755
29	78,414	33,389	90	1,328		39	99,498	3	3,784
30	77,552	33,729	93	1,321		28	80,258	1	4,036
R1	77,238	33,947	93	1,321		22	40,779		4,038
R2	76,565	34,234	98	1,344		30	17,761	2	3,622
R3	75,571	34,207	103	1,329		26	21,963	2	3,764
R4	74,872	34,459	102	1,321		47	74,269	4	4,460
R5	74,028	34,631	97	1,215		38	74,983		4,420
R6	73,084	34,866	99	1,069		28	84,873		4,544
R7	72,283	35,099	97	1,050		53	40,981	2	4,549

（注）消防職員数及び消防団員数は実数

消防の沿革

昭和２２年	４月	消防団令が制定公布され、消防団が誕生。
昭和２３年	７月	消防組織法が施行(Ｓ２２．１２．２３公布)。消防事務が市町村に移管され、自治体消防制度が発足、各町村長が所管する消防団を設置。
昭和２９年	６月	旧美嚢郡のうち、三木町・別所村・細川村・口吉川村の１町３村の合併により三木市が誕生。(同年７月１日に三木市と志染村が合併)昭和２９年７月消防組織は旧町村単位の５団を統合、三木市連合消防団を設置。
	７月	三木市連合消防団長に魚住丑之助氏就任。
	１０月	消防ポンプ自動車(トヨタ)１台購入、連合消防団に配備。
	１２月	消防団常備部車両１台・人員８名を設置。
昭和３０年	１２月	三木市役所内に常備部消防詰所を整備設置。
昭和３３年	４月	第２代連合消防団長に津村武雄氏就任。
昭和３４年	１０月	第3代連合消防団長に山口静男氏就任。
昭和３６年	１月	消防団常備部に消防ポンプ自動車１台購入を配備。
	３月	水槽付消防ポンプ自動車(トヨタ)１台購入、消防団常備部に配備。
昭和３７年	４月	三木市火災予防条例を制定。
昭和３８年	１０月	三木市連合消防団を発展的解消し、三木市消防団が発足。 初代消防団長に山口静男氏就任。
	１２月	消防団常備部に消防ポンプ自動車(ニッサン)を配備。
昭和３９年	２月	日本消防協会長表彰により表彰旗を授与。
	１０月	中短波無線電話、基地局１台、移動局３台を消防署に設置。
昭和４０年	４月	三木市消防本部、消防署を設置、常備消防が発足。水槽付消防ポンプ自動車１台普通消防ポンプ自動車１台、消防職員２１名で業務を開始。 消防団常備部は解散する。消防長事務取扱に衣巻顕明氏（市長）、消防本部次長兼消防署長に今井真治氏就任。三木市消防団員定数１，５６６名と定める。
	５月	第２代消防団長に大林嘉三氏就任。
	１０月	三木市消防団・県知事表彰受賞、楯を授与。
	１２月	三木市加佐字草加野及び三木市細川町脇川(通称草加野)の両地区の消防行政を小野市消防本部に委託。
昭和４１年	４月	消防職員４名採用(総数２５名)三木市消防団員定数１，５００名と定める。
	９月	１３日午前２時１０分覚知。三木市立豊地小学校から出火し、２階建校舎延べ面積１，５３９㎡が全焼。原因不明。
昭和４２年	２月	消防ポンプ自動車(いすー・Ａ－２級)１台を購入、消防署に配備。
	４月	第２代消防長に金鹿秀夫氏（助役）就任。
	６月	日本損害保険協会から消防ポンプ自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
	７月	加古川市、小野市と「消防相互応援協定」を締結。
	１０月	三木市消防団員定数１，４５０名と定める。
	１２月	第３代消防長に大原義治氏(市長)就任。
昭和４３年	３月	細川地区消防団に消防ポンプ自動車１台(トヨタ・Ａ－２級)を配備。 細川機動隊が発足。消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、竿頭綬を授与。
	４月	三木市消防団、組織・機構改革６０分団を２９分団に統合整備。

昭和４３年	４月	三木市消防団員定数１，４００名と定める。消防職員３名採用(総数２８名)
	６月	第４代消防長に今井真治氏就任。
	１０月	神戸市と「消防相互応援協定」を締結。
		中短波無線電話機移動用１台購入、消防署に設置。
昭和４４年	１月	救急自動車(トヨタ)１台を購入、消防署に配備し、救急業務を開始。
	４月	消防職員３名採用(総数２９名)
	１０月	三木市消防団員定数１，３８０名と定める。
昭和４５年	３月	化学消防自動車(三菱ふそう・Ａ－２級)１台を購入、消防署に配備。
	４月	消防職員２名採用(総数３０名)
	５月	三木第２分団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。
	７月	吉川町、東条町と「消防相互応援協定」を締結。
	１０月	三木市消防団員定数１，２８０名と定める。
	１２月	消防庁舎建設工事着手(三木市本町２丁目９番１号)
		口吉川地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。
		口吉川機動隊が発足。消防救助隊発隊。(隊員１５名)
昭和４６年	４月	消防職員２名採用(総数３１名)
	６月	消防指令台を消防署に設置、運用開始。
		超短波無線電話機基地局(ほんぶ)１台、移動局４台新設、消防署に設置。
	７月	消防本部新庁舎が竣工、業務開始。(鉄筋コンクリート造・３階建)
	８月	志染地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。
		志染機動隊が発足。
	１０月	組織・機構改革。消防署に機械係を新設。
		三木市消防団員定数１，２００名と定める。
昭和４７年	４月	第５代消防長に五百蔵利治氏就任。消防職員５名採用。(総数３４名)
	１０月	別所地区消防団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を配備。
		別所機動隊が発足。三木市消防団員定数１，１４０名と定める。
昭和４８年	３月	屈折はしご付消防ポンプ自動車(三菱・Ａ－１級)１台を購入、消防署に配備。
	４月	消防職員４名採用(総数３９名)
	１０月	消防職員１名採用(総数４０名)
	１１月	三木第６分団に小型動力ポンプ付積載車(トヨエース)を更新配備。
昭和４９年	４月	消防職員５名採用(総数４５名)
	７月	三木青年会議所から救急自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
	８月	消防指令車１台を購入、消防本部に配備。
		三木市消防団・県知事表彰を受賞、表彰旗を授与される。
昭和５０年	３月	消防本部及び消防団・消防庁長官表彰を受賞、表彰旗を授与。
	４月	消防職員４名採用(総数４８名)
昭和５１年	４月	消防職員５名採用(総数５３名)
	９月	消防署広野分署庁舎建設工事に着手。(三木市志染町広野５丁目１番)
	１２月	消防ポンプ自動車(ニッサン・Ａ－２級)１台を購入、消防署に配備。
昭和５２年	１月	水槽付消防ポンプ自動車(三菱ふそう・Ａ－２級)１台を購入、消防署に配備。
	３月	三木市消防署広野分署新庁舎が竣工。水槽付消防ポンプ自動車１台、普通ポンプ自動車1台、救急自動車１台、及び消防吏員１５名で業務を開始。
		組織・機構改革。消防署に消防第１係及び消防第２係を新設。
		超短波無線前進基地局(ひろの)１台、移動局２台、広野分署に設置。

昭和５２年	３月	査察広報車１台を購入、消防本部に配備。
		１３日午後１時４０分覚知。三木市志染町四合谷から出火し、強風にあおられ造成予定地であった高男寺周辺の山林３０ｈａを焼失、翌朝に鎮火。
	４月	組織・機構改革。消防署に消防課を新設、消防本部総務課と２課制とした。
		第６代消防長に戸田良一氏就任。消防職員６名採用（総数５８名）
	９月	日本消防協会から救急自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
	１０月	消防ポンプ自動車１台をロータリークラブから寄贈を受け、消防署に配備。
		三木第４分団・三木第８分団に消防ポンプ自動車(ニッサン・Ａ－２級・ＢＤ－Ｉ型)を更新配備。
昭和５３年	３月	消防パトロール車１台を購入、消防本部に配備。
	４月	消防職員４名採用(総数６２名)
	１０月	日本損害保険協会から、消防ポンプ自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
昭和５４年	４月	組織・機構改革。総務課に企画係・庶務係・予防第１係及び予防第２係、消防課に警備第１係・警備第２係・機械第１係・機械第２係に組織改正。
		消防職員４名採用(総数６４名)
	８月	加東消防事務組合と「消防相互応援協定」を締結。
昭和５５年	２月	水槽付消防ポンプ自動車1台を購入、消防署に更新配備。
	４月	第７代消防長に北川真昭氏就任。消防職員６名採用(総数６９名)
昭和５６年	３月	山之内製薬（株）から救急自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
	４月	組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・庶務係・予防係・危険物係及び消防係、消防署に警備第１係・警備第２係・機械第１係・機械第２係・消防第１係・消防第２係・通信第１係・通信第２係・救急第１係及び救急第２係に組織改正。
		た消防職員４名採用(総数７２名)
昭和５７年	１月	緊急用資材搬送車１台を購入、消防本部に配備。
	４月	第８代消防長に上野成生氏就任。消防職員３名採用(総数７５名)
	１１月	美嚢郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」に調印。
	１２月	三木ライオンズクラブから救急自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
昭和５８年	２月	石対交付金事業により、現場指揮自動車１台を購入、消防本部に配備。
	３月	超短波無線前進基地局(よかわ)１台を整備、吉川町役場に設置。
	４月	三木市消防署吉川分署を開設し、化学消防自動車１台、普通ポンプ自動車１台、救急自動車１台及び消防吏員１２名で業務を開始。
		組織・機構改革。消防本部総務課に企画係・管理係・予防係及び危険物係を、消防署消防課に警備第１係・警備第２係・消防第１係・消防第２係・機械係・通信第１係・通信第２係・救急第１係及び救急第２係に組織改正。
		消防職員６名採用(総数８０名)
		中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援に関する協定を締結。
	５月	第３代消防団長に小山伊一氏就任。
昭和５９年	１月	水槽付ポンプ自動車及び消防ポンプ自動車各１台を購入、消防署に配備。
	３月	日本自動車工業会から救急自動車１台寄贈を受け、広野分署に配備。
	５月	８日午後９時６分覚知。三木市別所町下石野屋外物品集積所から出火し、古タイヤ約２０，０００本が焼失、翌朝に鎮火。
昭和６０年	１月	化学消防ポンプ自動車(日野)１台を購入、消防署に更新配備。
	３月	消防本部の通信指令室・食堂及び待機室を改装整備。
	４月	第９代消防長に谷川齊氏就任。消防職員２名採用(総数８０名)

昭和６０年	５月	三木市・小野市の両市境界上の消火栓新設等に関する覚書を締結。
	１０月	三木市消防団員定数１，１１３名と定める。
	１１月	三田市、稲美町と「消防相互応援協定」を締結。
	１２月	加古川市と「消防相互応援協定」を一部改正、締結。
昭和６１年	３月	消防本部の消防・救急指令台を更新配備。
	７月	大和ハウス工業㈱から水槽付ポンプ自動車(日野)１台寄贈を受け、広野分署に配備。
	８月	資材搬送車１台を購入、吉川分署に配備。
	１２月	消防指令車１台を購入、消防本部に配備。
昭和６２年	３月	消防本部無線基地局を更新設置。
	８月	消防本部の査察車１台を購入、更新配備。
昭和６３年	３月	「舞鶴自動車道における消防相互応援協定」を締結。
	４月	組織・機構改革。消防本部に予防課を新設、総務課と２課制とし、総務課に企画係・管理係を、予防課に予防係・危険物係を置く組織改正。 消防職員２名採用(総数８１名)
	６月	日本防火協会から三木市少年婦人防火委員会へ防火広報車「火の用心」号１台の寄贈を受ける。
	７月	「中国道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定」を一部改正締結。
	８月	「兵庫県広域消防相互応援協定」を締結。
	１２月	超短波無線基地(全国共通波・県内共通波)１台を整備、消防署に設置。
平成　元年	１１月	親と子の防火のつどい「幼年・少年・婦人防火安全大会」を開催。幼年・婦人防火クラブ員・消防関係者約５６０名が参加。パレードの後、文化会館において王子動物園の亀井一成氏を講師に招き講演会を開催。
	１２月	資機材搬送車１台を購入、広野分署に更新配備。
平成　２年	８月	日本消防協会から三木市消防団に広報車１台寄贈を受け、団本部に配備。
平成　３年	３月	救急自動車１台を購入、吉川分署に更新配備。 救助工作車１台を購入、消防署に配備。
	４月	消防職員２名採用(総数８１名)
	１２月	資機材搬送車１台を購入、消防署に更新配備。
平成　４年	３月	はしご付消防自動車(日野・３０m級)１台を購入、広野分署に配備。 (屈折はしご付ポンプ自動車は廃棄)
	４月	消防職員２名採用(総数８３名)
	１０月	広野分署の無線前進基地局を更新設置。
平成　５年	２月	兵庫衛星通信ネットワーク管理運営に関する協定書を締結。
	４月	兵庫衛星通信ネットワーク設備を導入。
	９月	神戸市救急救命士養成所に三木市から職員１名を派遣。養成研修を開始。
	１０月	準高規格救急自動車(トヨタ)１台を購入、消防署に更新配備。
	１１月	１５日午後２時３２分消防本部覚知。中国自動車道上り４１ＫＰ付近でタンクローリーが中央分離帯に衝突炎上、ガソリン・軽油等２０，０００Ｌが燃え、神戸市からヘリ等特別応援を要請、三木市・神戸市から１３台が出場。
平成　６年	４月	消防職員３名採用(総数８６名) 組織・機構改革。消防署消防課に高度救急担当を新設。 救急救命士国家試験に合格。救命士誕生。(神戸市救急救命士養成所１名)
	１０月	美嚢郡吉川町と三木市との間における「消防事務委託に関する協定書」の一部

平成　６年	１０月	改正に調印。
	１１月	市民に対する応急手当の普及啓発を推進するため、普通救命講習会を開始。
平成　７年	１月	１月１７日午前５時４６分震度７の兵庫県南部地震が発生し、三木市内も全域にわたり被害を受けた。消防本部は、２５日まで神戸市応援を行う。
平成　８年	３月	消防ポンプ自動車(ＣＤ－Ⅰ型)１台を購入、広野分署に更新配備。 東播磨内陸地域５公立病院と「兵庫県東播磨内陸地域救急救命士に対する医師の具体的指示等に関する協定書」に調印。 小型動力ポンプ付水槽車(Ⅱ型)１台を消防署に更新配備。 消防ポンプ自動車(ＣＤ－Ⅰ型)１台を吉川分署に更新配備。 三木第４分団・三木第８分団に消防ポンプ自動車(ＣＤ－Ⅰ型)に更新配備。
	４月	第１０代消防長に大貫盛行氏就任。消防職員２名採用(総数８６名) 組織・機構改革。消防署消防課に防災指導担当を新設。 「中国自動車道のうち兵庫県の区域における消防相互応援協定の一部を改正する協定書」に調印。
	９月	兵庫県消防防災航空隊の発足、三木市から隊員として職員１名を派遣。
	１０月	高規格救急車１台・救急救命士６名体制で三木市高度救急業務を開始。 消防組織法に基づく三木市消防本部消防職員委員会を設置。 三木市災害対応総合情報ネットワークシステムが整備完了、運用開始。
	１１月	山陽自動車道の神戸ジャンクションから三木、小野インター間が開通、日本道路公団等と消防相互応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。
	１２月	三木第６分団消防器具庫竣工。(鉄筋ＡＬＣ造、２階建延べ８１㎡)
平成　９年	３月	「山陽自動車道消防相互応援協定」及び「山陽自動車道消防相互応援協定に基づく覚書」を日本道路公団及び兵庫県と締結。 消防指令車1台を購入、消防本部に更新配備。(トヨタクラウン・２０００cc)
	４月	消防職員２名採用(総数８８名) 組織・機構改革。消防署広野分署に救急担当を新設。
	７月	吉川分署配備の救急車に高度救急資器材を積載し、準高規格救急自動車に整備。
	１２月	高規格救急自動車１台を購入、広野分署に更新配備。 (いすゞスーパーメディック)
平成１０年	１月	高規格救急自動車１台・救急救命士４名体制で広野分署高度救急業務開始。
	４月	組織・機構改革。消防本部に「警備課」を新設、消防署消防課を「消防第１課」「消防第２課」に改正。 消防職員４名採用(総数９０名) 代表消防本部を経由して携帯電話からの１１９番通報を受信開始。
	５月	山陽自動車道の西神線開通。「三木ジャンクション」から「神戸西インター」までの間、関係機関と応援協定を締結、消防及び救急業務を開始。
	９月	アポロキャップを採用。
	１０月	日本損害保険協会から水槽付消防ポンプ自動車１台寄贈を受け、消防署に配備。
	１２月	山陽自動車道消防相互応援協定の一部を改正する協定を関係市町と締結。
平成１１年	４月	組織・機構改革。消防署吉川分署に救急担当を新設。
	７月	３台目の高規格救急自動車１台を購入、吉川分署に更新配備。(トヨタグランビアハイメディック)救急救命士３名体制で吉川分署高度救急業務開始。
	１２月	新消防庁舎移転建設検討委員会・幹事会を消防本部内に設置。

平成１１年	１２月	コンピューター西暦２０００年問題対策委員会を設置、危機管理計画作成。
平成１２年	６月	新消防庁舎基本構想を策定。
	９月	「ガス漏れ及び爆発事故等の防止対策に関する覚書」を大阪ガスと締結。
	１０月	消防ポンプ自動車(ＣＤ－Ｉ型)１台を購入、消防署に更新配備。 (ミツビシキャンター) 広野分署梯子付消防自動車のオーバーホール完了。(日本機械工業Ｋ・Ｋ)消防 細川機動隊にポンプ自動車(ＢＤ－Ｉ型)１台を更新配備。 (トヨタランドクルーザー) 神戸市救急救命士養成所へ三木市から事務職員１名を派遣。
	１２月	資材搬送車1台を購入、消防署に更新配備。(ミツビシトラック)
平成13年	４月	別所町コミュニティ消防センター竣工。(鉄骨造２階延べ面積８４㎡) 喫煙室を設置し、消防本部庁舎における分煙を実施。
	５月	査察車を購入、消防本部に更新配備。(ミツビシミニキャブ)
	７月	４台目の高規格救急車を購入、消防署に更新配備。(消防１１号車を更新)
	１０月	三木市消防団に兵庫県知事から竿頭綬を授与。
	１２月	資材搬送車１台を購入、吉川分署に更新配備。(ミツビシトラック)
平成１４年	１月	口吉川第4分団桾原班･三木第5分団加佐西班に小型動力ポンプ軽四輪積載車 を配備。
	３月	細川第６分団脇川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。 事務連絡車１台を購入、吉川分署に更新配備(ミツビシミニキャブ)
	４月	消防職員１名採用(総数９０名) 三木市消防団員定数改正。１，１１３名を１，００６名と定める。 組織・機構改革。予防課に「設備担当」消防課に「調査担当」を新設。
	１１月	石対交付事業により、小型動力ポンプ(Ｃ－１級)２台を購入、広野分署・吉川 分署に配備。 三木市消防本部（署）防災センター設計者選定委員会設置。
平成１５年	３月	新消防庁舎建設に伴う調整池工事完了。 新消防庁舎用地（防災拠点施設整備事業用地）取得。（２１，４３９㎡） 新消防庁舎建設に伴う建築提案設計の実施及び作品の決定。 消防吏員服制準則一部改正に伴い、三木市消防吏員服制規則(別表２)を全面改 正。
	４月	第１１代消防長に岡本忠文氏就任。消防職員２名採用(総数９０名)
	１１月	三木第２分団・口吉川第２分団大島班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
	１２月	別所第３分団西這田北班・口吉川第２分団槇班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を 配備。
平成１６年	１月	消防指揮車(三菱デリカ)１台を購入、消防署に更新配備。
	３月	新消防庁舎建設に伴う実施設計。 兵庫県立広域防災センター竣工式に伴い、消防本部から１２名、車両４台が一斉 放水訓練に参加、また、口吉川第２分団槇班による小型ポンプ操法を披露。
	４月	兵庫県消防防災航空隊に、隊員として職員１名を派遣。 消防団にアポロキャップを採用し全団員に貸与。
	７月	１８日未明に発生した福井県北部の豪雨災害に、１８日から１９日の２日間、緊 急消防援助隊として、消防隊１隊(５名)・救急隊１隊(３名)を派遣した。 （東播ブロックから明石市・加古川市・高砂市・三木市の各消防本部を派遣） 緊急消防援助隊法制化以降、初の出動となった。

平成１６年	１０月	２０日に発生した台風２３号により豊岡市で豪雨災害が発生、兵庫県下広域応援隊として、２１日から２２日の２日間、救急隊１隊(３名)が出動した。 （東播ブロックから明石市・加古川市・加西市・加東行政・高砂市・三木市の各消防本部が出動）
	１２月	志染機動隊・別所町第３分団花尻班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
平成１７年	３月	三木第５分団加佐東班・細川第１分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
	４月	消防職員２名採用(総数９０名)
	８月	財団法人日本宝くじ協会から、防災整備事業助成として消火・通報訓練指導車の寄贈を受け、消防本部に配備。
	１０月	「消防事務委託」を受託していた、美嚢郡吉川町と合併。 三木市消防団員定数改正。１，００６名を１，４２８名と定める。
	１１月	携帯電話からの１１９番緊急通報が直接受信方式に変更。
	１２月	高規格救急自動車(ニッサン エルグランド パラメディック)１台を購入。消防署に更新配備。
平成１８年	２月	別所第４分団下石野班・口吉川第２分団大島班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。三木第５分団加佐東班・口吉川第５分団東中班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級)を更新配備。
	３月	水槽付消防ポンプ自動車(水Ｉ－Ａ)１台を購入、吉川分署に更新配備。 延田興業から高規格救急自動車(トヨタ グランビア ハイメディック)の寄贈を受け、広野分署に配備。 毎月１０日を住宅用火災警報器推進デーと定め、住宅用火災警報器推進隊(平成２３年５月まで)を発足。
	４月	第１２代消防長に竹中誠一氏就任。消防職員３名採用(総数９０名)
	９月	行幸啓に伴う現地警備を実施。
	１０月	のじぎく兵庫国体のソフトテニス・サッカー・馬術競技会場及び、のじぎく兵庫大会障害者サッカー大会に職員延べ１３０名、車両延べ５２台を持って現地警備を実施。 第２０回全国消防操法大会が三木市の兵庫県広域防災センターで開催される。
	１１月	消防本部（署）庁舎の実施設計の変更。
平成１９年	２月	岩宮・花尻・保木班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。口吉川機動隊・三和平田・殿畑班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
	３月	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(Ⅱ型)を購入。消防署に配置。
	４月	第１３代消防長に常深譲氏就任。消防職員５名採用(総数９０名)
	５月	第４代消防団長に中西君一氏就任。
	８月	消防庁舎建設の工事始まる。
	１０月	神戸市消防局警防部救急救助課へ三木市から事務職員１名を派遣する。 はしご付消防自動車のオーバーホールを実施。
平成２０年	３月	東這田・殿畑・西這田南･久次・南畑・桃坂班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。窟屋・豊岡班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
	３月	まとい会の五百蔵幸三氏より、広報車１台と軽四輪消防車２台の寄贈を受け消防署と広野分署に配備。 自治体消防制度６０周年記念式典に消防長、消防団長、消防副団長が参加。
	４月	組織、機構改革。「総務課」に管理係・企画係・指令係を、「警防第１．２課」に消防係・警防係を、また「救急救助課」を新設し救急係・救助装備係を置く。 消防職員３名採用(うち、１名は消防本部発足後、初の女性消防職員)

平成２０年	４月	新消防庁舎完成。 庁舎(鉄筋コンクリート造・２階建て延べ面積２，７８７㎡) 備蓄倉庫・一般車両倉庫(鉄骨造平屋建て面積４９５㎡) 訓練塔(鉄筋コンクリート造５階建て延べ面積２９４㎡) 高機能消防指令システムⅠ型(ＮＥＣ)整備。 新消防庁舎竣工式と市民見学会を実施。
	５月	北播消防協議会総会をグリーンピア三木で開催する。
	１１月	口吉川機動隊に普通小型動力ポンプ積載車を配備。平井班、興治班、窟屋班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。細川第２分団・前田班・古川班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
平成２１年	４月	第１４代消防長（理事兼防災監）に井上茂利氏就任。 消防職員４名採用(総数９２名) 三木市消防団員定数改正。１，４２８名を１，３６０名と定める。
	８月	御坂班・戸田班に小型動力ポンプ付軽四輪積載車を配備。三木第２分団に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	１１月	平成２１年度秋季兵庫県下消防長会をグリーンピア三木にて開催。
平成２２年	２月	兵庫県下消防長会警防事務担当者会議を消防本部にて開催。
	３月	広野分署に水槽付消防ポンプ自動車(水Ⅱ)を更新配備。
	４月	第１５代消防長に髙谷尚志氏就任。 消防職員３名採用(総数９１名)
	９月	総務省消防庁から無償貸与を受けた消防団救助資機材搭載車両を志染機動隊に更新配備。 別所機動隊に普通小型動力ポンプ積載車を配備。
	１２月	消防団員リーダー研修として、各地区から消防団員が各種防災知識の習得ならびに実技訓練を実施する。 吉川分署に高規格救急自動車を更新配備。
平成２３年	３月	東日本大震災の被災地に、３月１１日から４月２１日の４２日間、兵庫県緊急援助隊として消火隊１隊を派遣し、３３名の隊員が捜索・情報収集・火災警戒活動にあたる。
	９月	三木第６分団に普通小型動力ポンプ積載車を配備。
	１０月	和田班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。渡瀬法光寺班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	１１月	細川第１分団・毘沙門班・新田班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
平成２４年	１月	資材搬送車を１台購入。消防署に更新配備。
	２月	東播地区消防本部ＮＢＣ災害対応訓練を三木山総合運動公園で実施。東播７消防本部・三木警察、延べ７５名参加し(県広域消防相互応援協定に基づき)災害対応能力向上、連携強化を図った。
	３月	消防団にワッペンを採用し機動隊に貸与。 救助工作車Ⅱ型を消防署に更新配備。
	４月	消防職員２名採用(うち、１名は消防本部発足後、初の救急救命士有資格者) 消防団に９隊目の吉川機動隊が発足。
	１０月	７名の隊員が指揮支援要員の委嘱を受け、指揮支援要員体制の整備。 兵庫県広域防災センター、神戸空港島内訓練会場で実施された緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練に救急部隊として参加。 消防救急デジタル無線実施設計業務委託。

平成２４年	１１月	グリーンピア三木グリーンピアホールにおいて、三木防火協会創立５０周年記念式典を開催。
	１２月	一般社団法人日本損害保険協会から高規格救急自動車の寄贈を受け、消防署に更新配備。
		三木第３分団久留美班、別所第５分団和田班、吉川第５分団貸潮班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
平成２５年	３月	小和田神社で機動隊合同林野火災防ぎょ訓練を実施。
		日本消防協会より消防団多機能型車両の寄贈を受け、吉川機動隊に配備。
	４月	第１６代消防長に森本英樹氏就任。
		消防職員４名採用(総数９１名)
	７月	３か年計画で消防救急無線デジタル化整備工事に着手。
	１０月	吉川第７分団上荒川班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を更新配備。
	１１月	吉川第８分団冨岡班、志染第１分団戸田班、別所第２分団東這田班、吉川第４分団西奥班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を更新配備。
		東京ドームで開催された消防団１２０年・自治体消防６５周年記念大会に団長以下１８名が参加。
平成２６年	４月	消防職員5名採用(総数91名)
		兵庫県消防防災航空隊に隊員として職員１名を派遣。
	６月	広野分署耐震診断及び耐震補強計画実施設計業務委託。
	７月	第２５回北播消防操法大会が兵庫県消防学校で行われ、別所第３分団花尻班が小型ポンプの部で優勝。
	１０月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が和歌山県で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。
		志染第４分団東吉田班、別所第４分団下石野班、吉川第１分団福吉班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を配備。
	１１月	口吉川第５分団西中班、東中班に小型動力ポンプ軽四輪積載車を配備。
平成２７年	１月	吉川分署に消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ型ＣＡＦＳ装置付）を更新配備。
	３月	東洋物産工業から高規格救急自動車（トヨタ　ハイエース　ハイメディック）の寄贈を受け、広野分署に配備。
	4月	消防職員７名採用(総数９１名)
		三木市消防本部発足５０周年を迎える。
	5月	北播消防協議会総会をメゾン・ド・リヴァージュで開催する。
	6月	三木市内コンビニ全店舗にＡＥＤ設置事業を開始。
		広野分署庁舎耐震補強工事及び庁舎改修工事に着手。
	10月	緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が京都府で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。
	11月	三木市消防本部５０周年記念誌を発刊。
		細川第５分団高篠班、吉川第１分団稲田班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
		小型動力ポンプ付軽四輪積載車を高木班に更新配備。
	１２月	広野分署に消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ｉ型ＣＡＦＳ装置付）を更新配備。
平成２８年	２月	広野分署庁舎耐震補強工事及び庁舎改修工事完了。
	４月	第１７代消防長に藤原秀行氏就任。
		消防職員３名採用(総数９１名)
		熊本地震の被災地に、４月１６日から２２日の７日間、兵庫県緊急消防援助隊として後方支援隊１隊を派遣し、６名の隊員が活動にあたる。

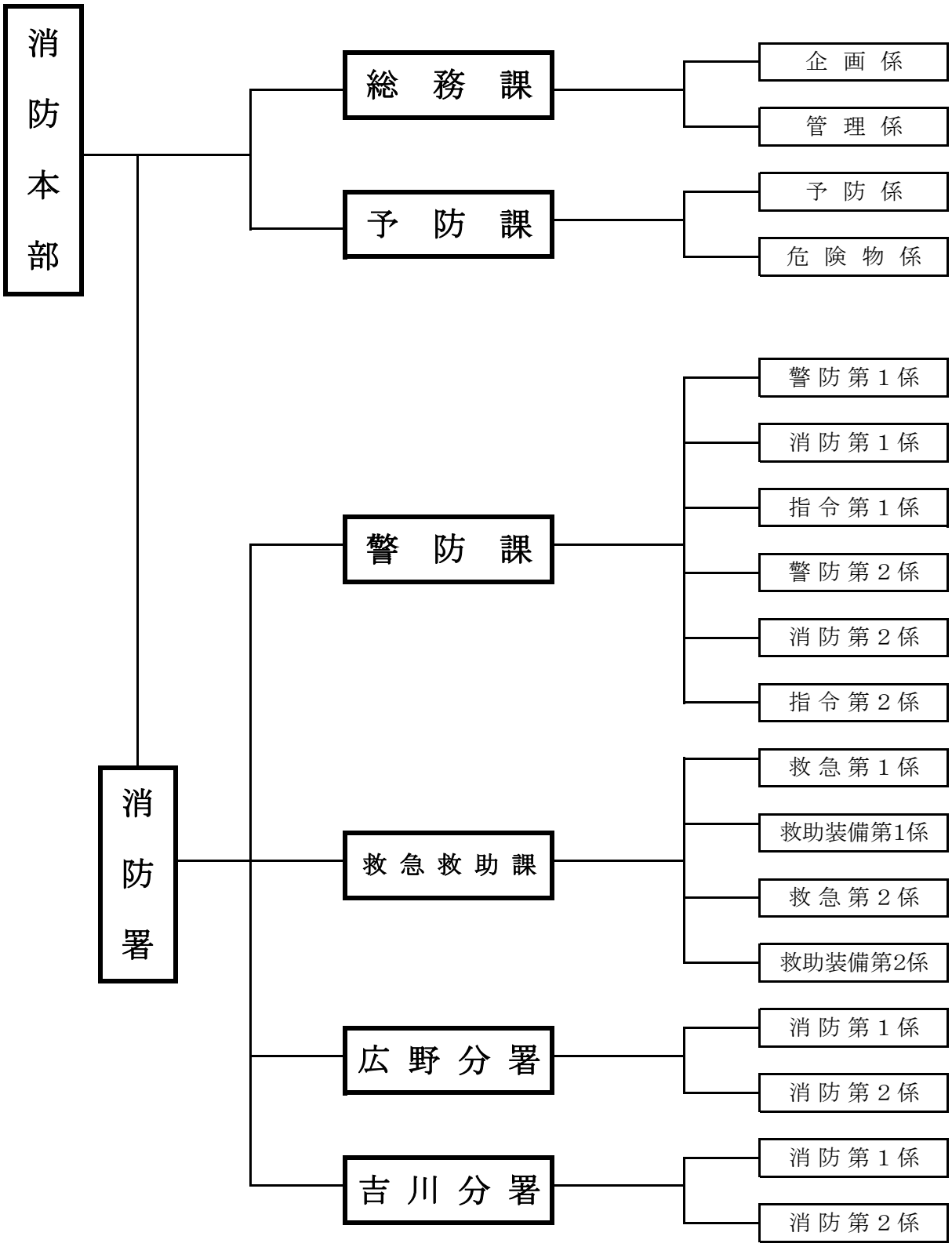
平成２８年	４月	平成２５年から整備を進めてきた消防救急デジタル無線を運用開始。
	１０月	三木第１分団与呂木班、細川第１分団、口吉川第２分団槙班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
		吉川第６分団山上班、吉川第８分団冨岡班に軽四輪積載車を新規及び更新配備。
		緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が奈良県で行われ、東播ブロックの後方支援部隊として参加。
		消防署に高規格救急自動車を更新配備。
	１１月	消防署にはしご付消防自動車を更新配備。
平成２９年	４月	消防職員３名採用（総数９１名）
		兵庫県消防学校に研修教官として職員１名を派遣。
		組織・機構改革。消防本部「指令係」を消防署「警防課指令係」に組織改正。
	１０月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が大阪府で行われ、東播ブロックの消火部隊として参加。
		志染第２分団井上班、吉川第２分団奥谷班に小型動力ポンプ(Ｂ－３級)を配備。
	１２月	消防署に消防ポンプ自動車（ＣＤ－Ⅰ型ＣＡＦＳ装置付）を更新配備。
平成３０年	2月	三木第４分団にＣＤ－Ⅰ型消防ポンプ自動車を更新配備。
	3月	極東開発工業株式会社三木工場に三木市消防団企業連携消防団を発足。
	4月	消防職員６名採用(総数９４名うち再任用２名)
		組織・機構改革。消防署「警防第１課、警防第２課」を「警防課」に組織改正。
		警防課長を新設し、「警防１部、警防２部」に組織改正。
	9月	三木第１分団宿原班、三木第７分団鳥町班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
	11月	緊急援助隊近畿ブロック合同訓練が福井県で行われ、東播ブロックの後方支援部隊として参加。
	12月	消防署広野分署に、大規模停電発生時に備えた７２時間電源確保を目的に非常用発電設備を設置。
平成３１年	3月	三木第8分団にCD－Ⅰ型消防ポンプ自動車を更新配備。
		消防署に大型水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。
	4月	消防職員６名採用(総数９５名うち再任用２名)
		高機能指令システムの更新に伴う実施設計業務を委託。
		ゴルフ場におけるドクターヘリ運用の覚書を市内ゴルフ場と締結。
令和　元年	5月	消防力の適正配置等に関する調査分析業務を委託。
	6月	第７８回東播地区警防主管者会議を三木市消防本部で開催。
		消防本部（署）外壁クラック補修工事に着手。
	9月	三木第３分団岩宮班、三木第５分団加佐西班、別所第１分団小林班、吉川第２分団東田班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
		消防本部（署）外壁クラック補修工事完了。
	10月	小型動力ポンプ付軽四輪積載車を三木第５分団加佐西班、吉川第２分団東田班に更新配備。
	12月	消防署にＣＤ－Ⅰ型水槽付消防ポンプ自動車を更新配備。
		日本消防協会から防災活動車（ＳＵＶ型）の寄贈を受け、消防本部に更新配備。
令和　２年	2月	消防署に高規格救急自動車を新規配備し、救急予備車（消防１１号車）運用開始。
		消防力の適正配置等に関する調査分析委託完了。
	4月	消防職員７名採用(総数９９名うち再任用６名)
		高機能消防指令システムの更新整備を開始。

令和　２年	10月	大栄環境株式会社三木リサイクルセンターに三木市消防団企業連携消防団を発足。
		細川第５分団桃津班、吉川第３分団北水上班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
		小型動力ポンプ付軽四輪積載車を三木第５分団加佐東班に更新配備。
	２月	細川機動隊にＣＤ－Ⅰ型消防ポンプ自動車を更新配備。
令和　３年	３月	三木市消防団に総務大臣から感謝状を授与。
	４月	第１８代消防長に林一成氏就任。
		消防職員６名採用（総数１０３名うち再任用７名）
		兵庫県消防学校に研修教官として職員１名を派遣。
		消防署「吉川分署」の警防人員を１４名から１８名に増員。
		新高機能消防指令システム（ＮＥＴ１１９・三者間同時通訳・現場映像送信装置を追加）の運用開始。
		消防隊員用個人防火装備を更新。
	９月	消防署に高規格救急自動車を更新配備。
		陰圧式搬送装置「アイソレーター」を導入し運用開始。
		消防署に資機材搬送車を更新配備。
	10月	吉川第7分団上荒川班に小型動力ポンプ(B－3級)を更新配備。
	12月	緊急消防援助隊近畿ブロック合同訓練が兵庫県で行われ、東播ブロックの消火隊として参加。
令和　４年	４月	消防職員３名採用（総数１０２名うち再任用８名）
		市危機管理課に職員１名を派遣。
		第５代消防団長に筒井悟氏が就任。
	11月	兵庫県知事表彰により表彰旗を授与。
	12月	細川第５分団金屋班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
		消防署広野分署に高規格救急自動車を更新配備。
令和　５年	４月	消防職員４名採用（総数９７名うち再任用５名）
		兵庫県消防防災航空隊に職員１名を派遣。（令和７年度まで）
		消防署吉川分署庁舎移転工事に着手。（三木市吉川町鍛治屋１４３番地）
		三木市消防団条例改正。年額及び出動報酬を消防庁が定めた報酬等の基準に基づいた額とする。
	１０月	各種届出における電子申請手続きの運用開始。
	１２月	三木第１分団平井班、志染第１分団三津田班、口吉川町第３分団南畑班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
令和　６年	１月	能登半島地震の被災地に、１月１５日から２月２１日の３８日間、兵庫県緊急消防援助隊として、後方支援隊１隊と特殊装備隊１隊を派遣し、２２名の隊員が活動にあたる。
	４月	消防職員４名採用（総数９９名うち再任用５名）
		市危機管理課に職員１名を派遣。
		はしご付消防自動車の点検整備（オーバーホール）を実施。（１月～４月）
		三木市消防団員定数を条例改正。消防団員定数の１，３６０名を１，０８０名と定める。
	７月	市制７０周年記念式典
	１０月	志染第１分団御坂班、志染第４分団安福田班、吉川第３分団南水上班に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
	１２月	小型動力ポンプ付軽四輪積載車を吉川第３分団南水上班に更新配備。
令和　７年	３月	消防署に高規格救急自動車を更新配備。
	４月	第１９代消防長に大東成吉氏就任。
		消防職員５名採用（総数９６名うち再任用３名）
		兵庫県消防学校へ職員２名を派遣。（３年１名、１年１名）

		三木市消防施設整備事業事務処理要綱改正。一部の施設等に対し、補助金の増額を行う。
令和　７年	6月	吉川分署新消防庁舎竣工式と市民見学会を実施。（６月５日）
		敷地面積：３，９７２．９６㎡
		庁舎（鉄骨造平屋建て延べ面積５５０．７５㎡）
		吉川機動隊器具庫兼倉庫（鉄骨造平屋建て延べ面積８５．５０㎡）
		訓練塔（鉄骨造２階建て延べ面積４９．６０㎡）
		新吉川分署運用開始（６月１２日）
	７月	救急安心センターひょうご「＃７１１９」の運用開始。
	１１月	加古川市との「消防相互応援協定及び覚書」を一部改正締結。
	１１月	小野市との「消防相互応援協定及び覚書」を一部改正締結。
	１１月	広野分署庁舎改修工事を開始（令和８年３月完了：個室化、女性専用室、消毒室）
令和　８年	１月	三木市火災予防条例の改正に伴い林野火災警報・注意報の運用を開始。
		吉川第８分団上中班に小型動力ポンプ（Ｂ－４級）を更新配備。
		火災予防条例改正。
	３月	消防本部に指揮車を更新配備。
		三木第２分団に小型動力ポンプ（Ｂ－３級）を更新配備。
	４月	消防職員５名採用（総数９７名うち再任用４名）
		マイナ救急本運用開始。

消防組織

令和8年4月1日現在



事務分掌

総　務　課

企　画　係	消防施設整備、補助事務、広報、公聴、県消防協会、団員任免、表彰・災害補償・退職報償事務・教養訓練、北播消防協議会、団事務組織、制度の企画、消防力の整備指針
管　理　係	庶務事務連絡調整、渉外事務、文書収受発送配布、予算編成執行調整、決算、収入支出命令、職員給与、物品調達、職員任免・定員・服務・表彰・懲戒事務、人事管理、職員服制・福利厚生・教養訓練計画、消防職員委員会、消防年報編集、職員公務災害、庁舎維持管理

予　防　課

予　防　係	設備設置指導、事前協議、消防同意、予防統計、火災予防査察、予防条例、防火管理講習、火災予防運動、消防訓練、住宅用火災警報器設置推進、防火団体の育成指導、防火教室
危険物係	県移譲事務、立入検査、危険物の許認可及び検査、火災予防条例、危険物統計、防火協会、火災予防思想の普及、消防広報

警　防　課

警防第1･2係	危機管理情報収集、水防計画、水防資機材整備、火災に関する警報・注意報、開発指導、統計、消防水利施設配置計画・管理補修、消防水利の基本計画、災害現場の情報収集及び広報、警防計画、相互応援協定、緊急消防援助隊等広域災害への体制整備
消防第1･2係	災害防ぎょ活動、水防業務、救急救助活動、地水利調査保全、通信・気象情報、機械器具整備保全、火災原因調査、消防訓練、り災証明、火災統計、震災対策並びに警防業務の推進、防火教室、自主防災組織の訓練等指導、自主防火防災対策の推進
指令第1･2係	通信施設の設置運用、災害受報及び出動指令、非常招集計画、通信統制・災害情報、気象情報、通信機械器具整備保全、有無線電話の維持管理、災害対応総合ネットワークシステム管理、ＮＥＴ１１９利用者情報管理登録

救 急 救 助 課

救急第1･2係	救急業務計画・運用、救急関係機関との協議調整、救急教育訓練、救急資器材配置保管、救急法指導、救急統計、高度救急業務推進、応急手当普及、救急資器材整備
救助装備第1･2係	救助業務計画・運用、救助教育訓練、救助統計、消防機械器具の運用及び整備保安、消防自動車の登録検査、機関員及び整備員の養成、機械器具改善、燃料、安全運転、事故防止対策、消防車両の更新及び維持管理

広　野　分　署

消防第1･2係	災害防ぎょ及び救急救助活動、水防業務、通信及び気象情報、機械器具の運用及び整備保全、火災原因及び損害、消防訓練、調査、地水利調査、救急救助訓練、救急救助業務、自主防災組織の訓練等指導

吉　川　分　署

消防第1･2係	災害防ぎょ及び救急救助活動、水防業務、通信及び気象情報、機械器具の運用及び整備保全、火災原因及び損害、消防訓練、調査、地水利調査、救急救助訓練、救急救助業務、自主防災組織の訓練等指導

管内図


三木市消防署
吉川分署
三木市消防本部
三木市消防署
三木市
三木JCT
三木東IC
三木
小野IC
三木
市役所
ひょうご
東条IC
吉川IC
中国自動車道
吉川JCT
舞鶴自動車道
神戸三田IC
長尾IC
大沢IC
神戸北IC
428
175
山陽自動車道
神戸電鉄粟生線
神戸淡路鳴門自動車道
三木市消防署
広野分署

消防庁舎の概要

庁舎名	所在地	建築年月日 構造	面積（㎡） 敷地	 建築	 延
三木市消防本部 三木市消防署	三木市福井 1933番15	平成20年 3月31日 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 地上2階	10,390.000	1,553.357	2,786.852
三木市消防署 広野分署	三木市志染町 広野5丁目1	昭和52年 3月 7日 鉄筋ｺﾝｸﾘｰﾄ造 地上2階	1,828.145	402.705	559.140
三木市消防署 吉川分署	三木市吉川町 鍛治屋143	令和 7年 5月30日 鉄骨造 平屋建	3,972.960	550.750	550.750

消防相互応援協定

（令和８年３月３１日現在）

市町村等	締結年月日	改正年月日
加古川市	昭和４２年　７月　１日	令和　７年１１月３０日
小野市	昭和４２年　７月　１日	令和　７年１１月３０日
神戸市	昭和４３年１０月　１日	平成３１年　１月　７日
三田市	昭和６０年１１月　１日	平成２２年１２月　６日
北はりま消防組合(西脇市・加西市 加東市・多可町)消防相互応援協定	平成２３年　６月　６日	
中国道のうち兵庫県の区域	昭和５８年　４月　１日	平成２９年　２月　６日
舞鶴若狭自動車道における 消防相互応援協定	昭和６３年　３月　２４日	平成３０年　４月　５日
兵庫県広域消防相互応援協定	昭和６３年　８月　１日	令和　５年　３月　７日
山陽自動車道消防相互応援協定	平成　９年　３月　２６日	平成３０年　４月　１日

令和７年度主要行事

月　日	行　　事	内　　容
4月6日	三木市消防大会	三木市文化会館駐車場及び三木市文化会館小ホールにて、消防関係者966名が参加し、開催した。部隊出動では消防車両の行進、操法の披露、一斉放水を実施、式典では消防功労者及び退職消防団員に表彰及び感謝状を代表授与した。子どもを含め見学者も多く、消防ふれあいコーナーも盛況であった。
4月20日	消防団教養訓練実施	三木市消防本部において、消防団員の教養訓練を実施。訓練礼式、消防ポンプの操作等を行い、団員の技術向上と士気の高揚を図った。
5月13日 ～14日	水防訓練	消防緊急指令システムと三木市水防計画に基づく初動体制の確立、各担当部署の連絡体制の確認訓練、水防工法を実施した。
6月8日 ～14日	危険物安全週間	危険物災害の未然防止を図るため、「危険物無事故へ挑むゴング鳴る」を危険物安全週間推進標語に、大栄環境株式会社三木リサイクルセンターにおいて消防総合訓練を実施するとともに、ポスター・懸垂幕等による広報活動、危険物施設への立入検査を行い、危険物の取り扱い等に伴う基準適合について指導を実施し、危険物の安全管理の徹底に努めた。
7月19日	第53回消防救助技術近畿地区指導会	兵庫県立広域防災センター救助訓練施設で開催された近畿地区指導会にロープブリッジ渡過3名が出場し、全員が入賞した。
8月7日 ～8日	甲種防火管理新規講習	三木市消防本部で2日間にわたり講習会を開催。事業所等から58名が受講し、講習修了証を交付した。
9月7日 ～13日	「救急医療週間」 「救急の日」及び「一日救急隊長救急車同乗実習」	救急医療及び救急業務に対する市民の正しい理解と認識を深めるために、啓発ポスターを市内事業所に配布したり、懸垂幕やのぼり旗による広報を実施した。9月9日の「救急の日」には北播磨総合医療センターから看護師を招き一日救急隊長として救急車同乗実習を行い、FMみっきぃ出演を通じて救急医療の現状や救急車の適正利用の普及啓発を行った。
9月10日 ～11日	救急技術練成会	プロトコールの理解と実践、メディカルコントロール体制下における適切な救急活動等を確認するとともに、根拠ある活動が図れることを目的とし、半ブラインド型での実戦的なシミュレーション隊活動訓練を実施した。
9月28日	第43回防災フェスティバル 三木市総合防災訓練	第43回防災フェスティバルでは、市民約2,100人が参加し、「火災のない明るいまちづくり運動」の一環として開催し、企業及び市民一人ひとりの防火防災に対する正しい知識の習得と、防災技術の向上を図ることにより自主防災体制を確立し、三木市から災害の絶滅を期することを目的として実施した。三木市総合防災訓練では地震災害を想定し兵庫県消防防災航空隊との連携訓練も行った。
11月9日 ～15日 3月1日 ～7日	秋の火災予防運動 春の火災予防運動	『急ぐ日も　足止め火を止め　準備よし』を統一標語に、三木市総合保健福祉センターにおいて消防総合訓練を実施するとともに、火災予防啓発ポスター入賞作品展示を実施し、火災の未然防止と啓発を行った。

令和７年度主要行事

月　日	行　　事	内　　容
11月10日 ～14日	トライやるウィーク	学校、家庭、地域社会連携のもと、心の教育の充実を図ることを目的として実施されたトライやるウィークで、市内3中学校から6名の中学生を受け入れ、防火・防災に関する知識と防災技術の習得及び各種訓練体験を行った。
12月10日 ～11日	警防錬成会	準耐火造一般倉庫の屋内から出火という想定で一般公開を行い12隊39名の隊員が参加した。 また、新たな試みとして火災対応救助訓練を取り入れた。
12月27日 ～1月5日	年末年始火災特別警戒	看板設置・広報パトロール及び消防団夜間特別警戒を実施した。
1月24日	第７２回文化財防火デーに伴う消防訓練	地域の貴重な財産である文化財を火災から守り、市民への火災予防の周知徹底及び防災意識の高揚並びに消防職員の初動体制の確立、消防団との連携を確認するため、久留美「慈眼寺」で訓練を実施した。
2月4日	東播地区消防本部（局）ＮＢＣ対応訓練	兵庫県広域消防相互応援協定に基づく、東播地区消防本部（局）の災害対応能力の向上及び連携強化を図るため、高砂市株式会社カネカ高砂工業所構内で訓練を実施した。
年　間	住宅用火災警報器推進	住宅用火災警報器の設置推進と維持管理の啓発を図るため、職員により主要行事を実施した際に、広報活動を実施した。

総 務 編



事務事業の現況

市民の安全で安心な暮らしを守るため、「災害に強いまちづくり」を重点施策とし、住民の期待に応えるべく、時代に即した消防体制の充実を始め、救急業務の高度化、高齢化を迎えての防災対策、消防施設整備に取り組んでいます。

令和７年度実施事業として、吉川分署の移転、建替え及び広野分署の改修工事で庁舎の整備を実施しました。また、消火栓ボックス、消防器具庫の整備など地域防災体制の充実を図りました。さらに、消防職、団員の資質向上のため、兵庫県消防学校への派遣教育、救急救命士の養成、各種資格の取得及び研修訓練を実施し、防災体制の確立に努めました。

消防施設整備事業

（令和７年度）

事　業　名	数量	設　置　場　所
消火栓ボックスセット新設	1	井上（１）
ホース干し修繕	1	南水上（１）
消防器具庫新設	1	豊岡（１）
消防器具庫修繕	3	金会（１）、吉安上（１）、湯谷（１）
消防器具庫修繕（機動隊）	3	三木第８分団（１）、別所（１）、細川（１）
消火栓移設工事	1	加佐（１）
消火栓修繕	2	小林（１）、稲田（１）
小型動力ポンプ（B－３級）	2	上中班（１）、三木第２分団（１）
指揮車	1	本署
水槽付き消防ポンプ自動車	1	吉川分署
吉川分署庁舎建設工事	1	吉川分署
旧吉川分署解体撤去実施設計委託	1	旧吉川分署
旧吉川分署解体撤去工事	1	旧吉川分署
広野分署改修工事実施設計委託	1	広野分署
広野分署改修工事	1	広野分署

消防予算

消防予算年度別比較

（単位：千円）

年度	市一般会計予算	消防予算	比率	常備消防費	非常備消防費	消防施設費	水防費	災害対策費
28	31,020,000	1,093,345	3.5	755,788	99,839	212,558	152	25,008
29	30,880,000	956,757	3.1	755,903	102,881	77,367	136	20,470
30	31,610,000	1,035,888	3.3	807,104	102,424	103,936	136	22,288
R元	32,770,000	1,059,498	3.2	805,440	102,879	129,912	136	21,131
2	33,230,000	1,432,494	4.3	812,380	117,783	401,397	136	100,798
3	33,430,000	950,544	2.9	794,497	109,567	10,564	125	35,791
4	34,380,000	995,392	2.9	814,647	102,856	43,890	88	33,911
5	35,520,000	1,143,976	3.2	817,480	187,858	105,784	130	32,724
6	39,050,000	1,591,129	4.1	873,559	195,269	489,244	174	32,883
7	41,000,000	1,150,419	2.8	852,473	126,522	121,483	588	49,353

消防予算に対する市民負担

区分／年度	消防予算（千円）	人　口	世帯数	負担	
				市民一人当り（円）	一世帯当り（円）
H28	1,093,345	78,516	33,159	13,925	32,973
29	956,757	78,100	33,435	12,250	28,615
30	1,035,888	77,552	33,729	13,357	30,712
R1	1,059,498	76,929	34,033	13,772	31,131
2	1,432,494	76,121	34,242	18,819	41,834
3	950,544	75,571	34,207	12,578	27,788
4	995,392	74,411	34,459	13,377	28,886
5	1,143,976	73,656	34,700	15,531	32,968
6	1,591,129	72,738	34,983	21,875	45,483
7	1,150,419	71,974	35,107	15,984	32,769

消防予算節別比較

（単位：千円）

目	節 ／ 年度	令和７年度	令和６年度	前年度に対する増減
常備消防費	給料	352,919	356,557	△3,638
	職員手当等	257,983	251,134	6,849
	共済費	117,362	117,717	△355
	報償費	205	170	35
	旅費	1,200	1,110	90
	交際費	10	10	0
	需用費	39,424	35,993	3,431
	役務費	12,044	12,417	△373
	委託料	44,959	78,055	△33,096
	使用料及び賃借料	8,398	7,437	961
	工事請負費			
	原材料費	5	5	0
	備品購入費	5,604	3,120	2,484
	負担金補助及び交付金	11,503	9,130	2,373
	公課費	857	704	153
	小計	852,473	873,559	△21,086
非常備消防費	報酬	47,471	47,471	0
	報償費	42,887	106,684	△63,797
	旅費	39	89	△50
	需用費	3,100	2,743	357
	役務費	1,407	1,301	106
	委託料			
	使用料及び賃借料	80	74	6
	備品購入費	359	363	△4
	負担金補助及び交付金	30,646	36,103	△5,457
	公課費	533	441	92
	小計	126,522	195,269	△68,747
消防施設費	需用費	1,131	1,482	△351
	役務費	289	356	△67
	委託料	5,000	14,300	△9,300
	使用料及び賃貸料			
	工事請負費	0	452,200	△452,200
	原材料費	200	0	200
	公有財産購入費			
	備品購入費	110,022	16,209	93,813
	負担金補助及び交付金	4,708	4,690	18
	公課費	133	7	126
	小計	121,483	489,244	△367,761
水防費	需用費	450	35	415
	原材料費	29	0	29
	備品購入費	109	139	△30
	小計	588	174	414
災害対策費	報酬	96	96	0
	報償費	60	60	0
	旅費	65	65	0
	需用費	15,395	12,474	2,921
	役務費	1,625	1,698	△73
	委託料	4,831	8,866	△4,035
	使用料及び賃借料	2,780	2,875	△95
	工事請負費	2,725	0	2,725
	備品購入費	180	259	△79
	負担金補助及び交付金	21,596	6,490	15,106
	公課費			
	小計	49,353	32,883	16,470
合計		1,150,419	1,591,129	△440,710

△印は減少

消防職員

職員の配置状況

（令和８年４月１日現在）

所属＼階級			消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	合計
総数			1	14	36	22(3)	14	10	97(3)
消防本部	消防長		1						1
	次長			1					1
	総務課	企画係		2	3	1	1		16
		管理係			2	1			
		派遣			1			5	
	予防課	予防係		1	3	1	1		11
		危険物係			3	2			
小計			1	4	12	5	2	5	29
消防署	署長			1					1
	警防課	警防係		6	2		1		22(1)
		消防係			4	1	2	1	
		指令係			1	2(1)	2		
	救急救助課	救急係		1	4	2(1)	1		13(2)
		救助装備係			2	2(1)	1		
	広野分署			1	4	6	1	2	14
	吉川分署			1	7	4	4	2	18
小計			0	10	24	17(3)	12	5	68(3)

※( )は再任用

職員年齢構成及び階級別消防吏員数

（令和８年４月１日現在）

階級／年齢	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士	小計
１８歳						2	2
１９歳						2	2
２０歳						2	2
２１歳							0
２２歳						3	3
２３歳					4		4
２４歳					5	1	6
２５歳					4		4
２６歳				4			4
２７歳				5	1		6
２８歳				5			5
２９歳				2			2
３０歳			2	1			3
３１歳			4	2			6
３２歳			2				2
３３歳			3				3
３４歳			3				3
３５歳			4				4
３６歳			1				1
３７歳							0
３８歳			1				1
３９歳			1				1
４０歳			3				3
４１歳			3				3
４２歳			3				3
４３歳			3				3
４４歳							0
４５歳		1	1				2
４６歳		1					1
４７歳		1					1
４８歳		1					1
４９歳							0
５０歳		2					2
５１歳		2					2
５２歳		3	1				4
５３歳			1				1
５４歳							0
５５歳							0
５６歳		1					1
５７歳							0
５８歳	1						1
５９歳		2					2
６０歳以上				3(3)			3(3)
総数	1	14	36	22(3)	14	10	97(3)
平均年齢	58	51	38	32(3)	24	20	34.8(62.3)

※( )は再任用

職員資格取得状況

（令和８年４月１日現在）

種別＼階級			合計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
職員数			97	1	14	36	22	14	10
予防	消防設備士		3	1	0	1	1	0	0
	危険物取扱者	乙種	57	1	10	27	11	7	1
		丙種	9	0	6	1	2	0	0
	予防技術資格者 ※（ ）は予防技術検定合格者	防火査察	9(47)	0	4(9)	4(26)	1(9)	(3)	0
		消防用設備等	6(16)	0	4(5)	1(8)	1(2)	(1)	0
		危険物	8(28)	0	5(9)	3(14)	(4)	(1)	0
通信	２級陸上特殊無線技士		92	1	14	36	22	14	5
技術	自動車運転免許	大型	66	1	13	34	17	1	0
		中型	2	0	1	1	0	0	0
		中型8ｔ限定	1	0	0	1	0	0	0
		準中型	0	0	0	0	0	0	0
		準中型5t限定	1	0	0	0	1	0	0
		普通	25	0	0	0	4	13	8
救急	救急隊員		53	0	4	16	17	11	5
	救急救命士		41	1	10	20	6	3	1
	指導救命士		4	0	2	2	0	0	0
	認定救急救命士	気管挿管	39	1	10	20	5	3	0
		薬剤投与	39	1	10	20	5	3	0
		ビデオ喉頭鏡	36	1	10	20	3	2	0
		拡大二行為	37	1	9	20	4	3	0
	応急手当指導員		84	1	10	34	20	14	5
救助	小型移動式クレーン修了者		36	1	11	23	1	0	0
	玉掛け技能講習修了者		35	1	10	22	2	0	0
	２級小型船舶操縦士		7	0	2	5	0	0	0
	２級湖川小出力限定免許		6	0	0	5	1	0	0
	潜水士		17	0	3	10	4	0	0
総務	衛生管理者		2	0	1	0	1	0	0
	衛生推進者		9	1	7	0	1	0	0

※再任用含む

職員研修

消防業務の多様化に伴い、高度な専門的知識及び幅広い見識を持った職員を育成するため、消防学校教育及び各種の研修会等に職員を派遣しています。

（令和７年度）

研修名			期間	人数
兵庫県消防学校	初任教育		6ヶ月	5
	専科教育	特殊災害科	10日	1
		予防査察科	5日	1
		火災調査科	10日	1
		救急科	38日	5
		救助科	22日	1
		災害現場指揮科	3日	1
	幹部教育	初級幹部科	10日	1
	実火災体験型訓練		1日	2
	救急救命士養成課程		7ヶ月	1
兵庫県災害医療センター救急救命士研修			6日	6
兵庫県立加古川医療センター救急救命士研修			6日	6
医療従事者蘇生トレーニングコース（ＩＣＬＳ）			1日	3
多数傷病者への対応標準化トレーニングコース（ＭＣＬＳ）			2日	1
ＭＣＬＳマネージメントコース			1日	2
兵庫ＪＰＴＥＣプロバイダーコース（ＪＰＴＥＣ）			2日	1
惨事ストレス研修			2日	1
救助潜水士資格取得訓練			4日	5
ＪＩＲＡＡロープアクセス講習（ロープレスキュートレーニング）			4日	2
危険物取扱者保安講習			1日	3
高圧ガス保安講習			1日	4
安全運転管理者講習			1日	2
管理職研修（兵庫県自治研修所）			2日	3
監督職研修（兵庫県自治研修所）			3日	2
監督職研修（播磨内陸広域行政協議会）			2日	2
消防職員安全衛生管理者研修			2日	1
衛生推進者養成講習会			1日	2
クレーム対応力向上研修			1日	1
面接官研修			1日	1
小型移動式クレーン運転技能講習会			3日	4
玉掛け技能講習			3日	6
パソコン研修			2日	2

消防表彰等状況

（令和７年度）

種別＼階級		合計	消防司令長	消防司令	消防司令補	消防士長	消防副士長	消防士
消防庁長官表彰	永年勤続功労章	1		1				
全国消防長会会長表彰	消防特別功労者	0						
	３０年永年勤続功労章	2		2				
全国消防協会会長表彰	全国優良消防職員	0						
兵庫県知事表彰	功労章	2		2				
	永年勤続功労章	1			1			
	親子二代の賞	1		1				
三木市長表彰	４０年永年勤続職員	2		2				
	３０年永年勤続職員	0						
	２０年永年勤続職員	2			2			
三木市消防長表彰	優　良　職　員	2			1	1		
三木市消防署長表彰	優　良　職　員	7				4	3	

予防編



予防行政の現況

社会情勢や生活様式の変化、また高齢化の進展により全国的に火災の形態も年々、複雑多様化の傾向にあります。

このような状況を踏まえ、住宅防火を推進するため、各地区の防災訓練、文化祭や防災フェスティバル、広報誌等を通じ防火の啓発に努めています。また、事業所の予防査察を推進し、防火管理業務、危険物施設の安全管理の適正化、法令改正の周知等を図り、火災等の災害の未然防止、拡大の抑制に努めています。

防火団体等の現況

（令和７年度）

団体名		会員数 隊員数	結成 年月日	活動状況
三木防火協会		225	S37. 7.16	防災フェスティバル 一日消防士研修会
幼年消防クラブ	別所幼年消防クラブ	94	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
	志染幼年消防クラブ	59	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
	エンゼル幼年消防クラブ	143	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
	ひろの幼年消防クラブ	159	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
	あけぼの幼年消防クラブ	100	S58.11.17	避難訓練・地震教室・救急教室
	えびす幼年消防クラブ	165	S59. 6. 5	避難訓練・地震教室・救急教室

予防広報

市民に広く防火防災を呼びかける広報媒体として活用しています。

（令和７年度）

種　　別	回数(回)	種　　別	枚数(枚)
広報「みき」掲載	12	防火ポスター配布	2,000
「防火の日」新聞広告	15	救急の日ポスター配布	180
防火広報パトロール	217		

火災予防講習会等

事業所や自治会等の団体を中心に、防火知識の高揚に努めています。

（令和７年度）

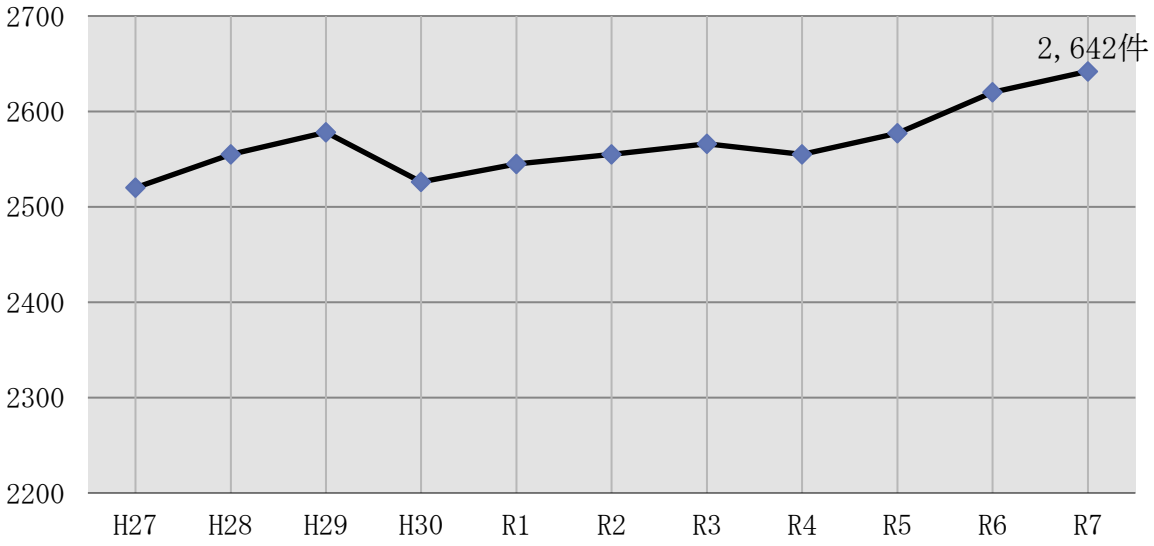
種　　別	回数(回)	参加者(人)	備　　考
消防訓練等指導	85	5,165	学校・病院・事業所等
防火団体指導	17	2,013	防火クラブ
自治会等指導	21	1,625	自治会・自主防災組織
甲種防火管理新規講習	1	58	R7.8.7～R7.8.8

防火対象物の状況

（令和７年度）

用途＼区分			防火対象物数	査察実施件数
合計			2,642	825
１項	イ	劇場・映画館等	9	9
	ロ	公会堂又は集会場	127	9
２項	イ	キャバレー・カフェー等		
	ロ	遊技場又はダンスホール	3	3
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等		
	ニ	カラオケボックス等	2	2
３項	イ	待合・料理店等	2	
	ロ	飲食店	55	14
４項		百貨店・マーケット・店舗	111	54
５項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	17
	ロ	寄宿舎･下宿又は共同住宅	420	16
６項	イ	病院・診療所又は助産所	49	18
	ロ	養老・救護・更生施設等	39	23
	ハ	老人デイサービスセンター等	70	66
	ニ	幼稚園･特別支援学校	7	13
７項		小・中・高校・大学等	97	80
８項		図書館・博物館・美術館	7	5
９項	イ	蒸気浴場 ・ 熱気浴場		
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	3
10項		車両停車場・船舶発着場	2	
11項		神社・寺院・教会等	61	5
12項	イ	工場又は作業場	567	146
	ロ	映画・テレビスタジオ		
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	37	13
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	
14項		倉庫	329	81
15項		前各号に該当しない事業所	389	194
16項	イ	特定防火対象物複合用途	150	35
	ロ	上記以外の複合用途	71	8
16の2		地下街		
16の3		準地下街		
17項		重要文化財等	16	11
18項		延長50m以上のアーケード		
19項		市町村長の指定する山林		
20項		総務省令で定める舟車		

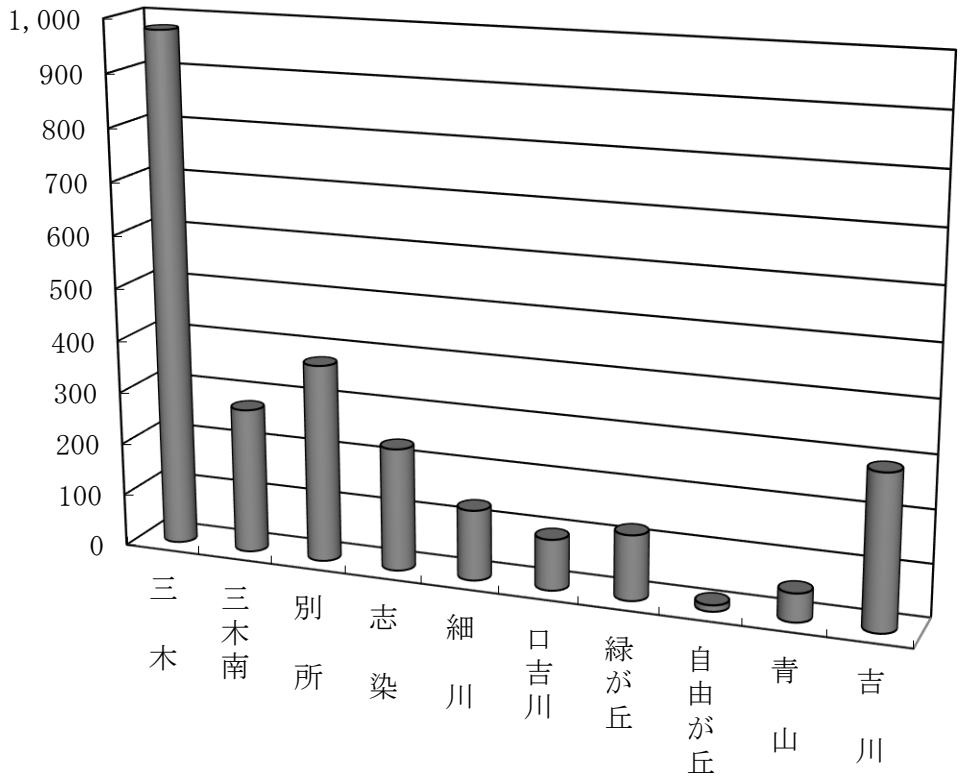
防火対象物の推移



年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
棟数	2,520	2,555	2,578	2,526	2,545	2,555	2,566	2,555	2,577	2,620	2,642

地区別防火対象物の現況

（令和７年度）



地区	三木	三木南	別所	志染	細川	口吉川	緑が丘	自由が丘	青山	吉川
棟数	964	274	397	170	141	107	127	91	63	308

消防用設備等の設置状況

（令和７年度）

用途 ＼ 防火対象物の消防用設備等			防火対象物数	自動火災報知設備	屋内消火栓設備	スプリンクラー設備	屋外消火栓設備
合計			2,642	1,200	311	71	41
１項	イ	劇場・映画館等	9	8	7	3	1
	ロ	公会堂又は集会場	127	47	8		
２項	イ	キャバレー・カフェー等					
	ロ	遊技場又はダンスホール	3	3	3		
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等					
	ニ	カラオケボックス等	2	2			
３項	イ	待合・料理店等	2	2			
	ロ	飲食店	55	21	3		
４項		百貨店･マーケット･店舗	111	71	9	12	
５項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	52	4	1	1
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	420	67	2		
６項	イ	病院・診療所又は助産所	49	27	5	11	
	ロ	養老・救護・更生施設等	39	52	1	37	
	ハ	老人デイサービスセンター等	70	51	1	1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	7	7	4		
７項		小・中・高校・大学等	97	73	40		
８項		図書館・博物館・美術館	7	4	2		
９項	イ	蒸気浴場・熱気浴場					
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	4	2		
10項		車両停車場・船舶発着場	2				
11項		神社・寺院・教会等	61	1			
12項	イ	工場又は作業場	567	314	122		32
	ロ	映画・テレビスタジオ					
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	37	12			
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	1			
14項		倉庫	329	157	32	1	6
15項		前各号に該当しない事業所	389	100	53		
16項	イ	特定防火対象物複合用途	150	86	7	5	1
	ロ	上記以外の複合用途	71	25	5		
16の2		地下街					
16の3		準地下街					
17項		重要文化財等	16	13	1		
18項		延長５０m以上のアーケード					
19項		市町村長の指定する山林					
20項		総務省令で定める舟車					

中高層建築物の現況

建築物の大規模化と用途の多様化が進んでいる状況を表しています。

（令和８年３月３１日現在）

区分 ＼ 用途			防火対象物数								
			総数	地上					小計	うち地下１階	うち地下２階
				３階未満	３階	４階	５階	６階以上			
合計			2,642	2,178	314	72	63	15	60	58	2
１項	イ	劇場・映画館等	9	7	2				5	5	
	ロ	公会堂又は集会場	127	125		2			1	1	
２項	イ	キャバレー・カフェー等									
	ロ	遊技場又はダンスホール	3	3							
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等									
	ニ	カラオケボックス等	2	2							
３項	イ	待合・料理店等	2	2							
	ロ	飲食店	55	54	1				1	1	
４項		百貨店・マーケット・店舗	111	106	4	1			5	5	
５項	イ	旅館・ホテル又は宿泊所	17	9	5	1		2	1	1	
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	420	259	91	19	47	4			
６項	イ	病院・診療所又は助産所	49	36	7	2	3	1	1	1	
	ロ	養老・救護・更生施設等	39	28	7	2		2	4	4	
	ハ	老人デイサービスセンター等	70	65	4	1			1	1	
	ニ	幼稚園・特別支援学校	7	5	2						
７項		小・中・高校・大学等	97	62	15	16	2	2	1	1	
８項		図書館・博物館・美術館	7	6	1						
９項	イ	蒸気浴場・熱気浴場									
	ロ	上記以外の公衆浴場	4	4					1	1	
10項		車両停車場・船舶発着場	2	2							
11項		神社・寺院・教会等	61	59	2				1	1	
12項	イ	工場又は作業場	567	527	32	4	1	3	5	5	
	ロ	映画・テレビスタジオ									
13項	イ	自動車車庫又は駐車場	37	34		2	1				
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫	1	1							
14項		倉庫	329	301	25	2	1		1	1	
15項		前各号に該当しない事業所	389	322	55	8	3	1	27	25	2
16項	イ	特定防火対象物複合用途	150	99	42	7	2		3	3	
	ロ	上記以外の複合用途	71	44	19	5	3		2	2	
16の2		地下街									
16の3		準地下街									
17項		重要文化財等	16	16							
18項		延長５０ｍ以上のアーケード									
19項		市町村長の指定する山林									
20項		総務省令で定める舟車									

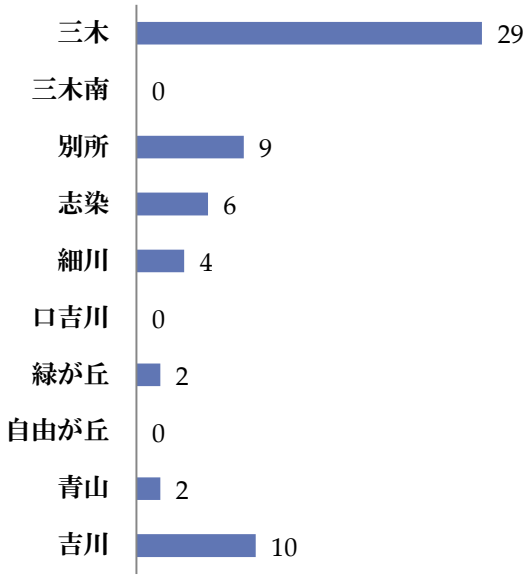
用途別同意件数と工事別処理状況

（令和７年度）

用途＼区分			合計	新築	増築	改築	用変	その他
合計			62	50	11		1	
１項	イ	劇場・映画館等						
	ロ	公会堂又は集会場	2	2				
２項	イ	キャバレー・カフェー等						
	ロ	遊技場又はダンスホール						
	ハ	性風俗関連特殊営業を営む店舗等						
	ニ	カラオケボックス等						
３項	イ	待合・料理店等						
	ロ	飲食店						
４項		百貨店・マーケット・店舗	2	2				
５項	イ	旅館･ホテル又は宿泊所	1		1			
	ロ	寄宿舎・下宿又は共同住宅	7	7				
６項	イ	病院・診療所又は助産所						
	ロ	養老・救護・更生施設等						
	ハ	老人デイサービスセンター等						
	ニ	幼稚園・特別支援学校						
７項		小・中・高校・大学等						
８項		図書館・博物館・美術館						
９項	イ	蒸気浴場・熱気浴場						
	ロ	上記以外の公衆浴場						
10項		車両停車場・船舶発着場						
11項		神社・寺院・教会等	1		1			
12項	イ	工場又は作業場	3	2	1			
	ロ	映画・テレビスタジオ						
13項	イ	自動車車庫又は駐車場						
	ロ	飛行機・ヘリコプター格納庫						
14項		倉庫	13	9	4			
15項		前各号に該当しない事業所	6	4	2			
16項	イ	特定防火対象物複合用途	2	1			1	
	ロ	上記以外の複合用途						
16の2		地下街						
16の3		準地下街						
17項		重要文化財等						
18項		延長５０m以上のアーケード						
		住宅	7	7				
		長屋住宅	12	12				
		納屋	5	3	2			
		危険物施設						
		工作物						
		その他	1	1				

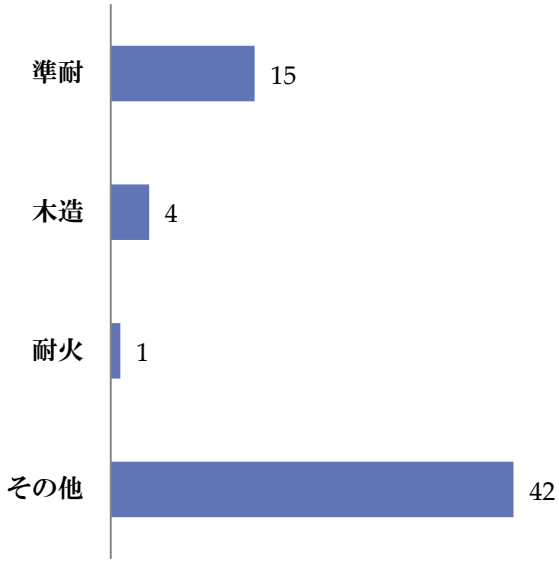
建築同意処理状況

地　区　別　建　築　同　意　状　況



令和７年度　６２件

構　造　別　建　築　同　意　状　況



令和７年度　６２件

予防関係届出状況

（令和７年度）

届出の種類	受付件数	届出の種類	受付件数
防火対象物使用開始届	70	少量危険物貯蔵廃止届	3
消防用設備等着工届	70	圧縮アセチレンガス等の貯蔵・廃止	2
消防用設備等工事計画書	45	発電設備	3
防火対象物変更届	65	変電設備	12
防火管理者選解任届	148	蓄電池設備	4
消防計画作成変更届	183	給湯設備・ボイラー	9
改修計画	197	炉・かまど	0
消防用設備等点検結果報告	754	火花を生じる設備	0
防火対象物点検結果報告	72	自衛消防組織設置変更届	0
自衛消防訓練通知	470	防災管理者選解任届	1
自衛消防訓練実施結果報告	135	気球・水素ガス	0
消防用設備等特例適用願	2	煙火打ち上げ	12
危険物品持込・喫煙承認	23	催し物開催	41
少量危険物貯蔵取扱	8	露店等の開設届	97

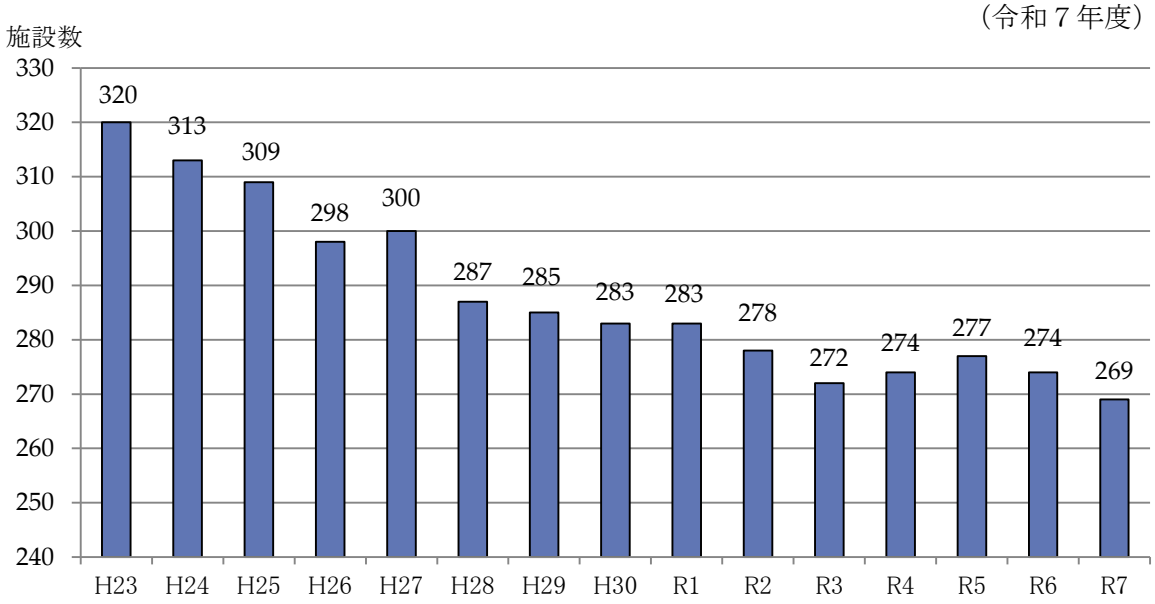
製造所等の状況

（令和７年度）

区分 ＼ 製造所等の区分			計	製造所	貯蔵所 屋内	貯蔵所 屋外タンク	貯蔵所 屋内タンク	貯蔵所 地下タンク	貯蔵所 簡易タンク	貯蔵所 移動タンク	貯蔵所 屋外	取扱所 給油	取扱所 販売	取扱所 一般
施設数			269	3	71	9	1	52		26	2	71		34
数量別	5倍以下		118		39	2	1	34		17	1	14		10
	5倍を超え10倍以下		34		8	1		7				6		12
	10 〃 50 〃		63		9	4		7		4	1	28		10
	50 〃 100〃		16	3	2	2		1		5		2		1
	100〃 150〃		17		13			1				2		1
	150〃 200〃		5					2				3		
	200〃1000〃		16									16		
	1000〃5000〃													
	5000〃10000〃													
	10000倍を超えるもの													
類別	単独	第 1 類												
		第 2 類												
		第 3 類	1		1									
		第 4 類	262	3	66	9	1	52		26	2	71		32
		第 5 類	1		1									
		第 6 類												
	混在		5		3									2

危険物製造所等の推移

（令和７年度）



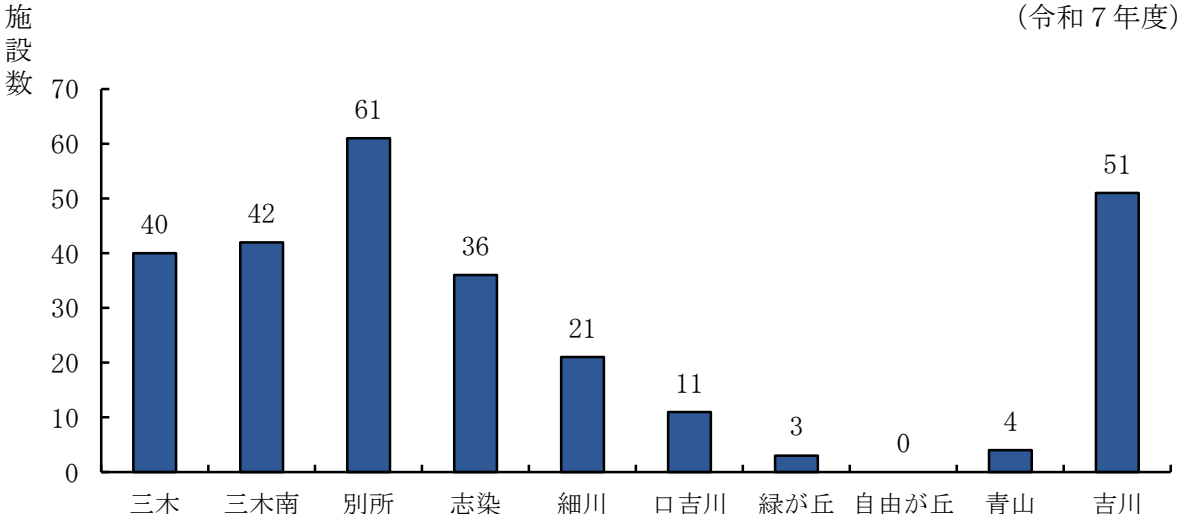
危険物製造所等の設置状況

（令和７年度）

製造所の区分 / 施設数		計	製造所	貯蔵所							取扱所			
				屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売		一般
												第一種	第二種	
R６年度末数		274	3	72	9	1	54		27	2	71			35
R７年度	新設（転入含む）	3							2		1			
	廃止（転出含む）	8		1			2		3		1			1
R７年度末数		269	3	71	9	1	52		26	2	71			34

地区別危険物施設設置状況

（令和７年度）



危険物製造所等の申請・届出処理状況

（令和７年度）

種別＼製造所等の区分		計	製造所	貯蔵所							取扱所			許可施設外
				屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	一般	
許可	設置	3			1				2					
	変更	13							1		6		6	
完成検査	設置	3							2		1			
	変更	14							1		6		7	
仮使用		12									6		6	
水圧・水張検査		147												147
廃止（転出含む）		8		1			2		3		1		1	
種類数量変更		9		7					2					
軽微変更		105		13	4		11		6		59		12	
保安監督者	選任	35		2	2		4				21		6	
	解任	33		2	2		4				19		6	
休止		1							1					
定期点検報告		27					13				12		2	
仮貯蔵・仮取扱		15											1	14
その他		89		6	4		14		4		50		11	

製造所等の各種調査及び検査状況

立入検査を通して施設の適正管理について指導を行っています。

（令和７年度）

種別＼製造所等の区分	計	製造所	貯蔵所							取扱所			許可施設外
			屋内	屋外タンク	屋内タンク	地下タンク	簡易タンク	移動タンク	屋外	給油	販売	一般	
立入検査	145		13	4		10		29		65		24	
完成検査	18							3		7		8	
完成検査前検査（水圧・水張）	147												147
中間検査（地下配管・タンク防水）	3			2						1			
仮貯蔵・仮取扱調査	14											1	13
各種届出に伴う現地調査	113		14	4		13		9		60		13	

液体危険物タンクの完成検査前検査実施状況

（令和７年度）

合 計	水張検査				
	小計	10KL以下	10KLを超え 1,000KL以下	1,000KLを超え 2,000KL以下	2,000KLを 超えるもの
148	3	3			
	水圧検査				
	小計	600 L以下	600Lを超え 10KL以下	10KLを超え 20KL以下	20KLを 超えるもの
	145		24	84	37

手数料収入額（単位：千円）

（令和７年度）

区 分	合 計	製造所等の許可・完成検査及び完成検査前検査				仮貯蔵・仮取扱及び仮使用		
		許 可		完成検査	完成検査前検査	仮貯蔵	仮取扱	仮使用
		設置	変更		水圧・水張			
件 数	207	3	13	17	147	0	15	12
収入額	2,979	72	312	195	2,254	0	81	65

移譲事務関係の届出及び検査状況

（令和７年度）

施設又は建築物 / 種別	計	映画館・公会堂	キャバレー・遊技場	料理飲料店	百貨店・マーケット	旅館・共同住宅	病院・診療所	各種学校	図書館・博物館	その他の施設
液化石油ガス設備工事届出	1						1			
液化石油ガス設備事前協議	0									
設備工事届出に伴う立入検査	0									
一般高圧ガス立入検査	0									

三木防火協会の現況

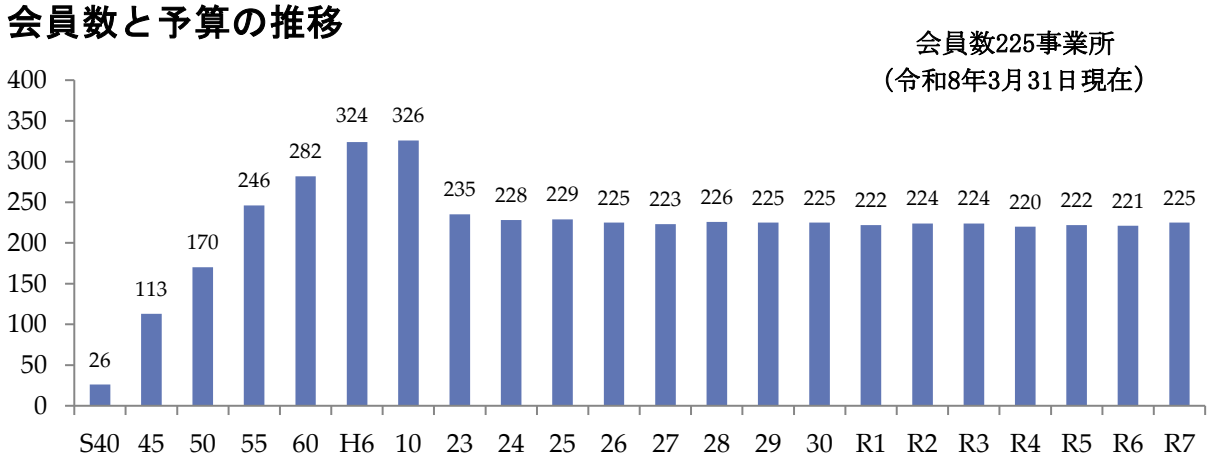
三木防火協会は、消防諸般の研究と防火思想の普及徹底及び自主保安体制の整備を図り、火災による災害防止と被害の軽減に万全を期することを目的として設立され、防災フェスティバルを始めとする多くの事業を通じて、地域社会の安全・安心に寄与する団体です。

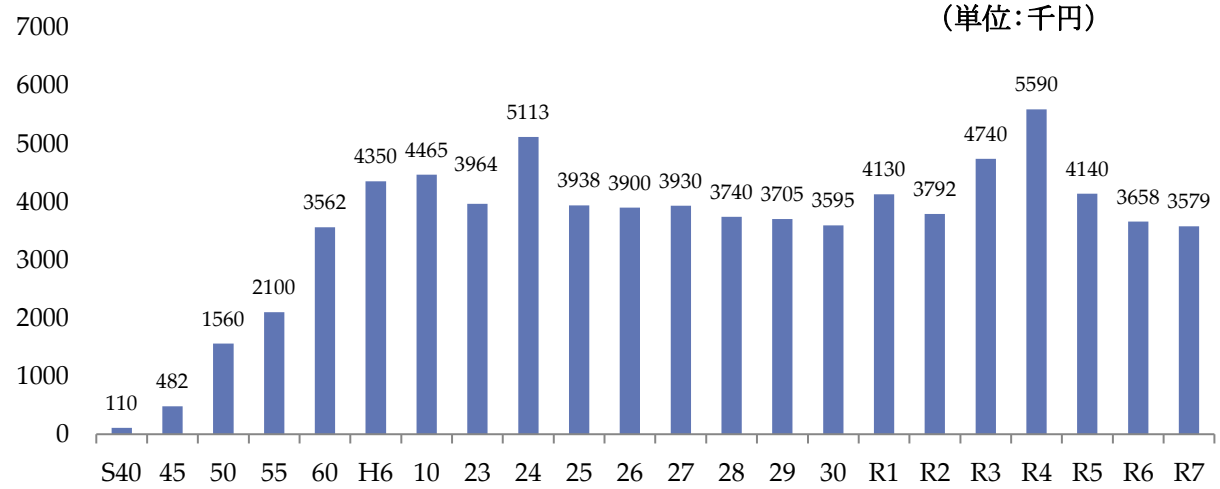
現在の会員数は、２２５事業所で組織の充実を図り安全で災害に強いまちづくりを目指しています。

【沿革】

昭和３７年７月１６日　「兵庫県危険物安全協会三木支部」設立
昭和４０年４月　１日　三木市消防本部（署）発足に伴い、事務局を消防本部内に置く。
昭和５０年５月１２日　「兵庫県危険物安全協会三木支部」を解散、危険物施設事業所及び一般事業所を対象とした「三木市防火協会」に発展的改組する。
昭和５８年６月　２日　東播磨危険物安全協会と合併「三木防火協会」に名称変更

会員数と予算の推移





令和７年度の主要行事

５月２６日　三木防火協会定例総会
６月　８日～１４日　危険物安全週間推進事業
６月１８日　兵庫県危険物安全・安心大会
７月１１日　自衛消防訓練教養研修
８月　７日～８日　甲種防火管理新規講習
９月２８日　第４３回防災フェスティバル
１１月　５日　先進地視察研修
１１月２６日　一日消防士研修会
２月２０日　危険物取扱者養成講習会及び危険物取扱者研修会

警防編



消防車両配置状況

（令和８年３月３１日現在）

	車名等	車両名	車種	製作会社名	年式	級別	ポンプ形式	出力PS	備考
消防本部	査察車	エブリィ	スズキ	スズキ	H30			49	リース
	資材搬送車	消防80	日野	藤井ポンプ	H24			136	市単
	資材搬送車	消防21	スズキ	スズキ	H20			48	寄贈
	防火広報車	消防23	トヨタ	トヨタ	H20			133	〃
	広報車	エクストレイル	日産	日産	R1			147	（寄）日本消防協会
	連絡車	セレナ	日産	日産	R6			143	リース
	〃	ハイゼットカーゴ	ダイハツ	ダイハツ	R7			46	リース
	〃	ミライース	ダイハツ	ダイハツ	R7			49	リース
	〃	アルト	スズキ	スズキ	H18			ー	市単
消防署	化学車	消防 1	日野	日本機械	H19	A2	二段バランス	220	国補
	ポンプ車	消防 3	〃	㈱ モリタ	H29	〃	一段タービン	145	市単
	はしご車	消防 4	〃	㈱ モリタ	H28			313	〃
	タンク車	消防 6	〃	長野ポンプ	R1	A2	二段タービン	150	〃
	指揮車	消防 7	日産	日産自動車	R7			147	市単
	救助工作車	消防 8	日野	日本機械	H24			220	国補
	水槽車	消防30	〃	〃	H31	A2	二段バランス	380	市単
	救急車	消防10	トヨタ	トヨタ	H28	高規		151	〃
	〃	消防11	トヨタ	トヨタ	R7	〃		151	〃
	〃	消防12	トヨタ	トヨタ	R2	〃		151	〃
	小型動力ポンプ	(消防 1)	ラビット	富士ロビン	H19	C1	一段タービン	11	国補
	〃	(消防 3)	〃	シバウラ	H29	〃	〃	9	市単
広野分署	資材搬送車	消防20	スズキ	スズキ	H20			48	寄贈
	ポンプ車	消防52	日野	㈱ モリタ	H27	A2	一段ボリュート式	150	国補
	タンク車	消防53	日野	日本機械	H22	〃	二段バランス	227	市単
	救急車	消防60	トヨタ	トヨタ	R4	高規		151	〃
	小型動力ポンプ	(消防52)	ラビット	シバウラ	H27	C1	一段タービン	9	国補
	〃	(消防53)	トーハツ	トーハツ	H22	〃	〃	9	市単
吉川分署	資材搬送車	消防22	ダイハツ	ダイハツ	R3			46	市単
	ポンプ車	消防81	日野	㈱ モリタ	H27	A2	一段ボリュート式	145	国補
	タンク車	消防82	日野	日本機械	H18	〃	二段バランス	220	市単
	連絡車	エブリィ	スズキ	スズキ	H14			48	〃
	救急車	消防90	トヨタ	トヨタ	R3	高規		151	国補
	小型動力ポンプ	(消防81)	トーハツ	トーハツ	H27	C1	一段タービン	10	〃
	〃	(消防82)	ラビット	富士ロビン	H18	〃	〃	11	市単

消防機械器具保有状況

（令和８年３月３１日現在）

	種類	保有数		
		本署	広野	吉川
救急救助	かぎ付きはしご	4	1	1
	三連はしご	4	2	2
	救命索発射銃	1		
	油圧ジャッキ	4	1	
	大型油圧スプレッダー	1	1	
	大型油圧切断機	1	1	
	可搬ウィンチ	2	2	1
	マンホール救助器具	2		
	マット型空気ジャッキ	1	1	1
	エンジンカッター	4	2	2
	チェーンソー	1	1	
	空気鋸	1		
	空気切断機	1		
	携帯用コンクリート破壊器具	1	1	
	救命ボート	1		1
	船外機	1		

	種類	保有数		
		本署	広野	吉川
消火	簡易水そう	3		
	小型動力消防ポンプ(C-1)	2	2	2
	ジェットシューター	7	4	8
照明	発電機	5	2	2
	投光器	6	3	3
測定	可燃性ガス測定器	2	1	1
	放射線測定器	1		
	熱画像直視装置	1	1	1
隊員保護	空気呼吸器	26	8	7
	携帯警報器	16	7	7
	送排風機	2		
	耐電衣	4		
	耐熱服	3		
	放射線防護服	2		
	陽圧式化学防護服(レベルA)	4		
	化学防護服(レベルB)	16		

消防車両等修理状況

（令和８年３月３１日現在）

所属	車両区分	修理回数
消防本部・署	消防　１	3
	〃　３	
	〃　４	2
	〃　５	
	〃　６	
	〃　７	
	〃　８	1
	〃　１０	1
	〃　１１	2
	〃　１２	
	〃　２０	1
	〃　２１	
	〃　２２	
	〃　２３	
	〃　３０	
	〃　５２	
	〃　５３	
	〃　６０	1
	〃　８０	
	〃　８１	1
	〃　８２	1
	〃　９０	
	団広報車	
	計	13

所属	修理箇所別	修理回数
消防本部・署	ポンプ系統	
	エンジン系統	1
	電気系統	3
	動力伝達系統	3
	外装系統	4
	その他	2
	計	13

所属	地区名	修理回数
消防団	三木地区	2
	別所地区	
	志染地区	2
	細川地区	2
	口吉川地区	1
	吉川地区	4
	計	11
	修理箇所別	修理回数
	ポンプ系統	
	エンジン系統	
	電気系統	
	動力伝達系統	
	その他	1
	計	1

管内消防水利の現況（消火栓）

（令和８年３月３１日現在）

地区別	公私	50mm	65mm	75mm	100mm	125mm	150mm	200mm	250mm	300mm	350mm	400mm	450mm	計
三　木	公設	1		165	141		137	54	10	12	4			524
	私設			1			6							7
三木南	公設	1		64	37		53	19	4			2		180
	私設			7				1						8
別　所	公設			79	47		42	27	8					203
	私設													0
志　染	公設	5	1	76	75	1	46	4	3		1			212
	私設													0
細　川	公設	9		42	35	2	21	5	3					117
	私設		1	3	4		2							10
口吉川	公設	18		33	15		22	2						90
	私設													0
自由が丘	公設			110	92		48	31	1	7				289
	私設													0
緑が丘	公設			24	82		40	9	9					164
	私設													0
青　山	公設			8	51		45	19	3	3			2	131
	私設													0
吉　川	公設	14		116	65	5	87	48	23	6	1			365
	私設				2		1							3
小　計	公設	48	1	717	640	8	541	218	64	28	6	2	2	2,275
	私設	0	1	11	6	0	9	1	0	0	0	0	0	28
合　計		48	2	728	646	8	550	219	64	28	6	2	2	2,303

管内消防水利の現況（防火水そう）

（令和８年３月３１日現在）

地区別	公私	20ｔ未満	20t以上40t未満	40t以上	計
三　木	公設	1	13	95	109
	私設		2	76	78
三木南	公設		3	33	36
	私設		2	44	46
別　所	公設	1	1	46	48
	私設		1	46	47
志　染	公設	2	7	45	54
	私設		2	33	35
細　川	公設	1	1	19	21
	私設		1	41	42
口吉川	公設		1	10	11
	私設			17	17
自由が丘	公設		2	64	66
	私設			6	6
緑が丘	公設			24	24
	私設			7	7
青　山	公設			22	22
	私設			14	14
吉　川	公設		1	27	28
	私設			59	59
小　計	公設	5	29	385	419
	私設	0	8	343	351
合　計		5	37	728	770

各種届出等受理状況

（令和７年中）

各　種　届　出	受 理 件 数
道路工事届	126
火災とまぎらわしい煙等又は火炎を発するおそれのある行為の届	347
水道の断水又は減水届	18
要望・苦情・相談願	33
火災損害届（事故届出含む）	48
り災証明等交付申請	23
り災証明等発行	44
都計法関係届	22
計	661

消防活動状況

（令和７年中）

種別／区分	火災	救急	救助	風水害	警戒	偵察	非常招集	地水利調査	警防調査等	パトロール広報	原因調査	警備	応援	計
出動回数	53	4,549	103	2	176	122	139	148	4	190	53	11	5	5,555
出動延べ人員	466	14,177	858	4	462	549	582	199	13	298	217	69	16	17,910

訓練実施状況

（令和７年中）

訓　練　種　別	場　所　等	回 数	出動延べ人員	車両台数
基本 ・ 応用訓練	本署･広野分署･吉川分署	607	3,190	257
救助訓練	本署	100	636	75
危険物安全週間に伴う訓練	大栄環境株式会社 三木リサイクルセンター	1	25	7
火災予防運動に伴う訓練	社会福祉法人 すみれ福祉会 特別養護老人ホーム 三木すみれ園	1	22	9
三木市総合防災訓練	三木山総合公園	1	13	5
文化財防火デーに伴う訓練	法界寺	1	16	7
水防訓練	本署･広野分署･吉川分署	4	63	4
ボート取扱訓練	通り池・その他	4	32	7
機関員訓練	管内道路等	155	310	137
計		874	4,307	508

消防訓練等指導状況

（令和７年中）

種　　別	回　　数	参 加 人 員	職員派遣人員
普通救命講習	24	278	31
救急法講習	88	2,468	96
自主防災訓練	20	1,388	45
庁舎見学	22	715	45

気象情報発令状況

（令和７年中）

	警報・注意報＼月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
警報	洪　　水							9						9
	大　　雨							5						5
	暴　　風													0
	暴 風 雪													0
	大　　雪													0
	波　　浪													0
	高　　潮													0
	計	0	0	0	0	0	0	14	0	0	0	0	0	14

注意報	波　　浪													0
	乾　　燥	74	72	34	35	14	1				8	20	29	287
	雷	6	16	11	19	20	42	117	192	99	26	13	6	567
	大　　雨					1	7	33	48	26				115
	洪　　水							10	2	11				23
	強　　風	30	24	29	21	32	27	31	25	31	13	23	23	309
	高　　潮													0
	濃　　霧		1	8	3		3					4	4	23
	霜			25	2									27
	大　　雪	5	8											13
	風　　雪	2	18											20
	着　　雪		5											5
	雪　　崩													0
	津　　波													0
	低　　温	4	23											27
	計	121	167	107	80	67	80	191	267	167	47	60	62	1416

情報	台　　風									5				5
	大　　雨						8		8					16
	大　　雪		15									1		16
	高　　温													0
	竜　　巻			6	1		2	5	3	10				27
	地　　震												2	2
	梅　　雨									5				5
	土　　砂													0
	そ の 他	10		4	11	7	6	18	25	34	8	15	14	152
	計	10	15	10	12	7	16	23	36	54	8	16	16	223

火災気象通報		55	45	53	49	45	25	19	16	18	16	32	27	400

水 防 指 令								3						3

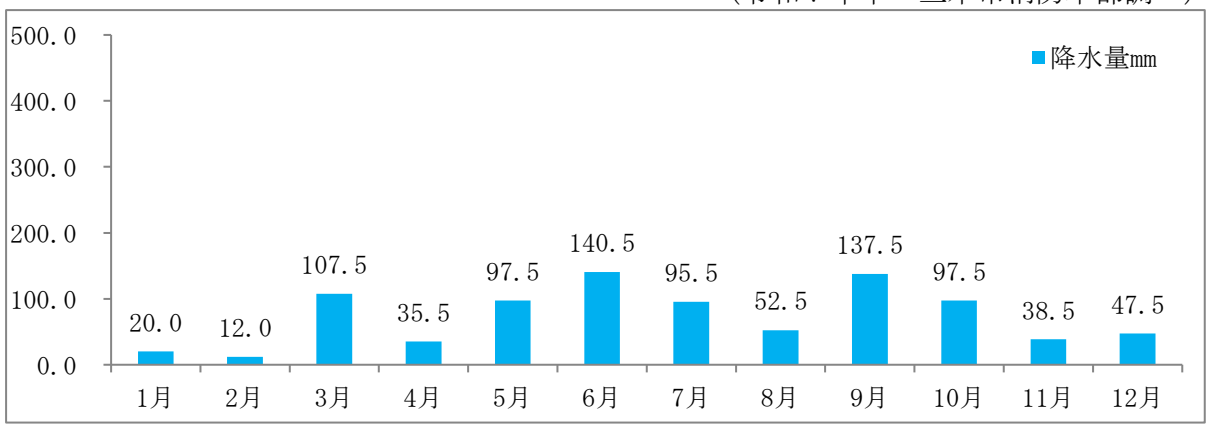
月別気象状況

（令和７年中・三木市消防本部調べ）

種別 / 月	気　温　℃			湿　度　％			実効湿度　％		
	最高	最低	平均	最高	最低	平均	最高	最低	平均
1	13.0	-3.9	3.9	97.7	27.4	68.5	74.7	60.4	68.8
2	12.8	-5.4	2.8	97.7	23.3	67.9	72.9	58.6	67.2
3	23.2	-2.0	8.8	98.6	16.9	71.5	83.1	61.1	71.6
4	27.4	1.9	14.1	98.3	12.4	66.6	75.7	56.3	66.6
5	29.0	6.6	18.5	98.6	14.1	70.8	80.3	57.3	70.2
6	33.6	13.8	24.0	99.1	34.4	78.2	86.5	63.9	77.3
7	35.6	23.0	28.6	98.3	42.4	75.3	83.3	71.8	75.3
8	35.8	22.8	28.7	98.8	38.6	79.6	88.0	72.1	79.1
9	34.9	16.0	26.1	98.8	39.4	79.9	84.9	74.4	79.4
10	29.8	5.2	19.4	98.6	31.9	78.5	87.4	70.1	78.1
11	20.7	2.5	11.1	99.1	36.6	77.6	83.3	74.1	77.6
12	18.7	-2.2	6.9	98.8	31.6	75.8	85.4	68.0	75.9
年間平均	16.1			74.2			73.9		

月別降水量　（年間降水量　882 mm）

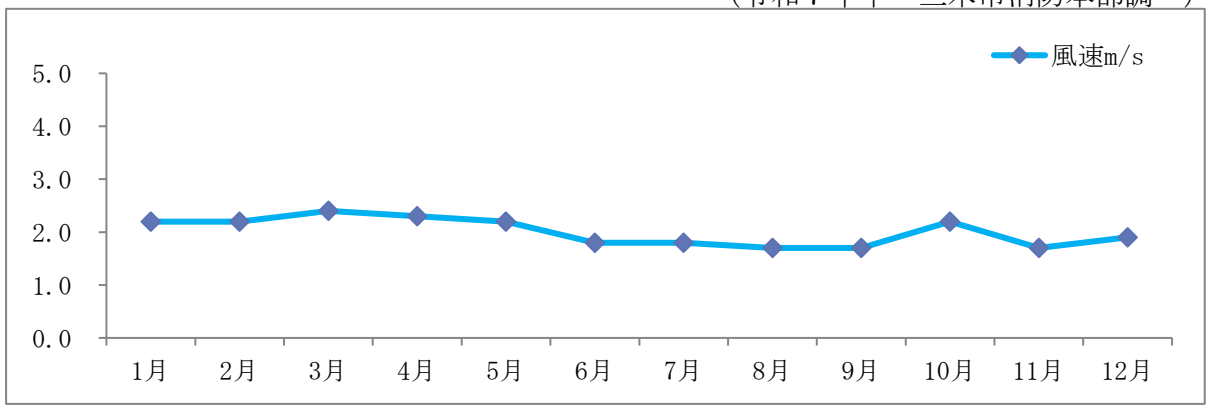
（令和７年中・三木市消防本部調べ）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
降水量mm	20.0	12.0	107.5	35.5	97.5	140.5	95.5	52.5	137.5	97.5	38.5	47.5

月別平均風速

（令和７年中・三木市消防本部調べ）



	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
風速m/s	2.2	2.2	2.4	2.3	2.2	1.8	1.8	1.7	1.7	2.2	1.7	1.9

水防資器材備蓄状況

（令和８年３月３１日現在）

場所／備蓄資器材	消防本部	広野分署	吉川分署	末広	大塚	福井二丁目	岩宮	別所	志染	細川	口吉川	吉川	計
土のう袋	6,600	2,500	3,000	3,600	2,000	3,000	3,000	1,000	1,900	1,500	1,200	900	30,200
作製済土のう	240	40	120										400
スコップ	37	29	13	20	10	20	10	10	10	19	10	15	203
ウォーターゲル		77	40		30	480							627
麻袋					20				30		13		63
ブルーシート	18	13	14	50	20	30	12	25	21	18	20	8	249
麻シート				6		10	5						21
Ｐロープ	13	1	1	12	25	12	6	10	1	15	2		98
木杭	84	102	19	30	180	1,000	600	750	480	420	200		3,865
鉄杭	230	12	23	25		40	30	20	24	30	24	20	478
むしろ				13	2	36	2	5	170	5			233
ハンマー	5	2	4	3	21	3	4	2	2	4	2	2	54
カケヤ	18	24	8	10	20	22	5	5	5	5	3	9	134
つるはし	7	7	7		5	4						4	34
平鍬	4		2	1	3							9	19
カスガイ	79	33	11		5								128
ジョレン	2	4	2	3	1	2	2	2	2	2	2	1	25
片刃ノコギリ	48	7	5		4		2			4		20	90
両刃ノコギリ	6	1	7	2	2		2	2	2	1	2	3	30
薄鎌	24	2	2	9	20	3	2	5	2		2	27	98
木鎌	8	12	6	1		1	4					26	58
なた	19	16	3		5	5	1	1	1		1	10	62
草刈り機	8	1	2										11
釘　（　箱　）	1		1	1		1		1	1	1	1		8
金槌	3	2	5	1		1	1	1	1	1	1	5	22
釘抜き	2	1	1		1								5
針金	4		1	1	5	1	1	1	1	1	1	2	19
ペンチ	6	1		1	10	1		1	1	1	1	2	25
プライヤー	2		1										3
クリッパー	2		1		1	1	1	1	1			4	12
かます											35		35
番線	4	1	4	1	1	2	2	1	1		1	1	19
しの	18	3	1	1	1	1	1	1	1	1	1	5	35
コンパネ	5			25	15								45
たる木	1			19									20
杉板	54		10	34		9	20						127
ナワ						20	5		3		4		32
携帯用ライト	10	10										45	65
巾ビロ				1		1	1	1	1		1		6
胴付長ぐつ	8		3										11
一輪車	5	3	1	5	2			1	1				18
縫針	12	6	3	2	1	4					2	4	34

火災編



過去の主な火災

( )は負傷者

発生年月日	覚知時間	場　　所	火元用途	焼損面積	死 者
S48.8.11	0:03	緑が丘町東3丁目	住宅	100㎡	4
S48.8.17	15:00	福井八幡谷	山林	30ha	
S50.2.18	18:10	加佐	作業所	511㎡	
S52.3.12	13:40	志染町四合谷	山林	30ha	
S53.1.9	17:55	大塚2丁目	学校	617㎡	
S54.4.18	14:35	芝町	酒造会社	1,309㎡	
S54.9.6	1:00	加佐	住宅	110㎡	4
S59.2.14	0:00	吉川町新田	養鶏舎	626㎡	
S59.5.8	21:06	別所町下石野	屋外物品集積所	古タイヤ2万本	
H5.11.15	14:32	吉川町金会	ﾀﾝｸﾛｰﾘｰ	3台	
H10.9.6	1:20	別所町興治	廃車車両	約250台	
H12.3.6	20:35	志染町三津田	工場	676㎡	
H12.4.30	13:07	細川町細川中	納屋	352㎡	1
H15.3.6	1:54	緑が丘町中2丁目	住宅・店舗	544㎡	1
H17.7.28	18:11	吉川町豊岡	住宅・納屋	23㎡	2
H17.9.24	7:03	志染町窟屋	住宅	571㎡	
H23.12.18	16:29	口吉川町笹原	住宅兼店舗	880㎡	
H24.3.28	19:52	福井1丁目	住宅	239㎡	1
H24.6.18	19:42	志染町西自由が丘2丁目	共同住宅	24㎡	1
H24.8.28	11:11	吉川町古市	林野	4ａ	1
H25.5.25	14:47	吉川町稲田	住宅	277㎡	(1)
H27.3.25	13:43	鳥町	住宅	276㎡	(1)
H27.10.4	13:11	吉川町渡瀬	住宅	300㎡	(2)
H28.2.11	6:49	本町3丁目	住宅	85㎡	1
H29.2.2	2:20	細川町垂穂	普通乗用車	1台	1
H29.3.21	7:11	本町1丁目	住宅	116㎡	1(1)
H29.12.8	19:45	別所町東這田	住宅	260㎡	1(1)
H30.1.4	22:05	本町3丁目	住宅	250㎡	(3)
H30.3.4	17:58	末広1丁目	住宅	駅舎他　592㎡	1
R1.9.25	19:33	別所町高木	作業所・工場	1,072㎡	
R2.12.25	2:20	君が峰町	住宅	169㎡	1
R2.12.26	22:46	本町2丁目	店舗兼住宅	126㎡	(1)
R3.2.14	13:49	志染町戸田	林野	8.2ha	(1)
R3.11.4	14:35	吉川町上松	住宅	291㎡	(1)
R4.1.23	8:41	宿原	住宅	254㎡	1
R4.1.29	4:39	福井2丁目	住宅	171㎡	1
R4.2.20	13:39	福井2丁目	住宅	81㎡	1
R4.6.14	14:38	別所町石野	工場	1,603㎡	
R4.6.28	23:01	志染町西自由が丘1丁目	住宅	114㎡	1
R5.11.6	1:15	別所町下石野	金属スクラップ	2,000㎡	
R6.7.25	22:31	口吉川町大島	倉庫	114㎡	

令和７年中の主な火災

( )は負傷者

発生年月日	覚知時間	場　　所	火元用途	焼損面積	死 者
R7.2.22	21:54	緑が丘町東1丁目	住宅	16㎡	1
R7.3.20	21:13	吉川町金会	田畑	223㎡	1
R7.8.19	5:38	大塚1丁目	住宅	70㎡	(1)
R7.12.10	20:34	志染町吉田	住宅	493㎡	(2)

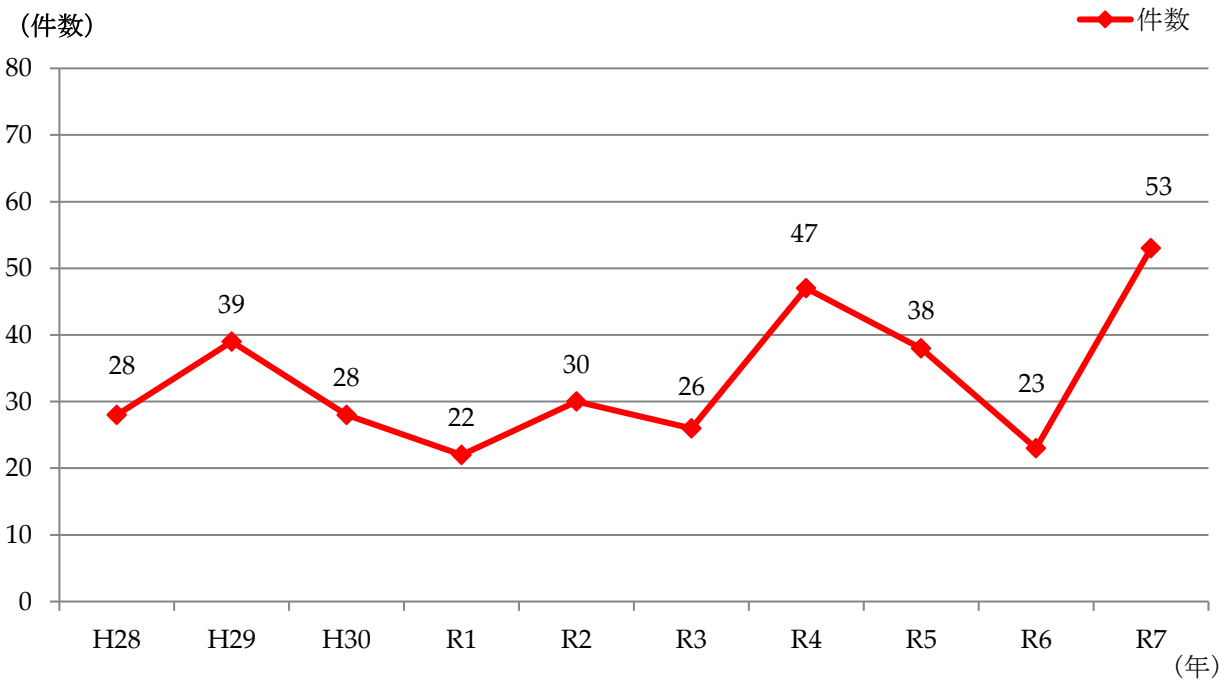
火災概要（対前年比）

出火件数は前年と比べ３０件増加。
建物火災が４件、林野火災が４件、車両火災が５件、その他火災が１７件増加しました。

区分			単位	令和7年	令和6年	増減
出火件数			件	53	23	30
	建物		〃	17	13	4
		内訳 住宅	〃	9	6	3
		内訳 工場	〃	2	3	△ 1
		内訳 その他	〃	6	4	2
	林野		〃	5	1	4
	車両		〃	7	2	5
	船舶		〃			
	その他		〃	24	7	17
損害額			千円	40,981	84,873	△ 43,892
	建物		〃	33,476	84,402	△ 50,926
		内訳 建物	〃	27,417	45,314	△ 17,897
		内訳 収容物	〃	6,059	39,088	△ 33,029
	林野		〃			
	車両		〃	1,268	463	805
	船舶					
	その他		〃	6,228	8	6,220
	爆発		〃	9		
建物焼損棟数			棟	24	19	5
	全焼		〃	6	7	△ 1
	半焼		〃	1		
	部分焼		〃	14	5	9
	ぼや		〃	3	7	△ 4
爆損	損害棟数		棟			
	車両等数		台			
焼損	建物床面積		㎡	787	1,073	△ 286
	建物表面積		㎡	75	131	△ 56
	林野		a	42	9	33
	車両		台	9	2	7
	船舶		艇			
負傷者			人	10	3	7
死者			〃	2		
り災世帯			世帯	9	11	△ 2
	全損		〃	3	2	1
	半損		〃			
	小損		〃	6	9	△ 3
り災人員			人	26	26	0
建物１件当りの損害額			千円	1,969	6,492	△ 4,523
〃 焼損床面積			㎡	46	83	△ 36

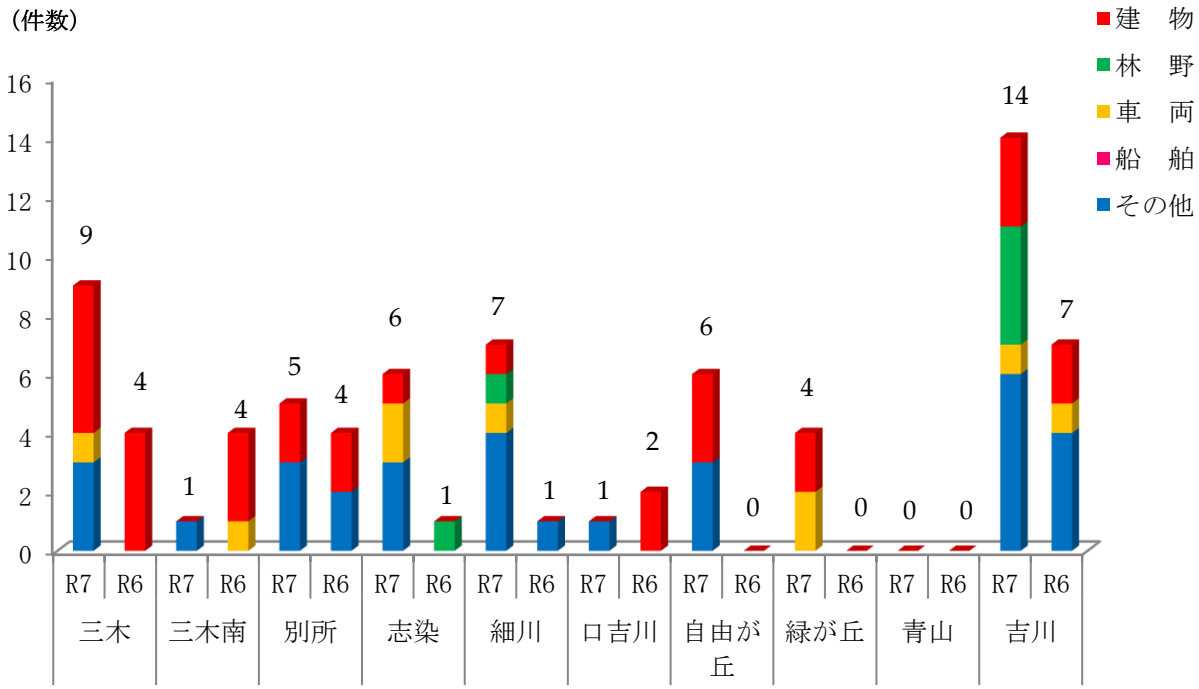
△印は減少

火災件数の推移

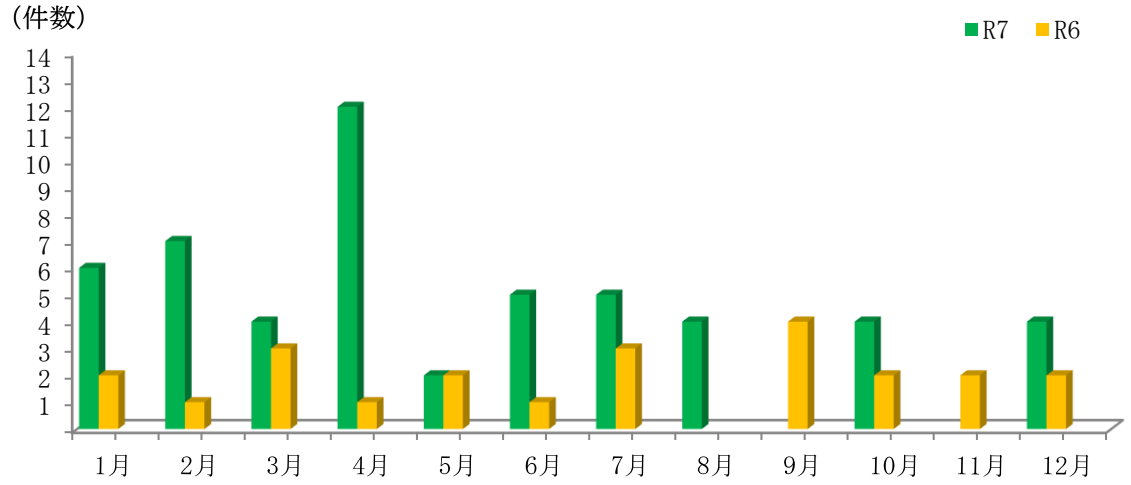


地区別火災件数

前年と比較すると、三木地区、別所地区、志染地区、細川地区、自由が丘地区、緑が丘地区、吉川地区が増加、三木南地区、口吉川地区が減少、青山地区は増減がありませんでした。

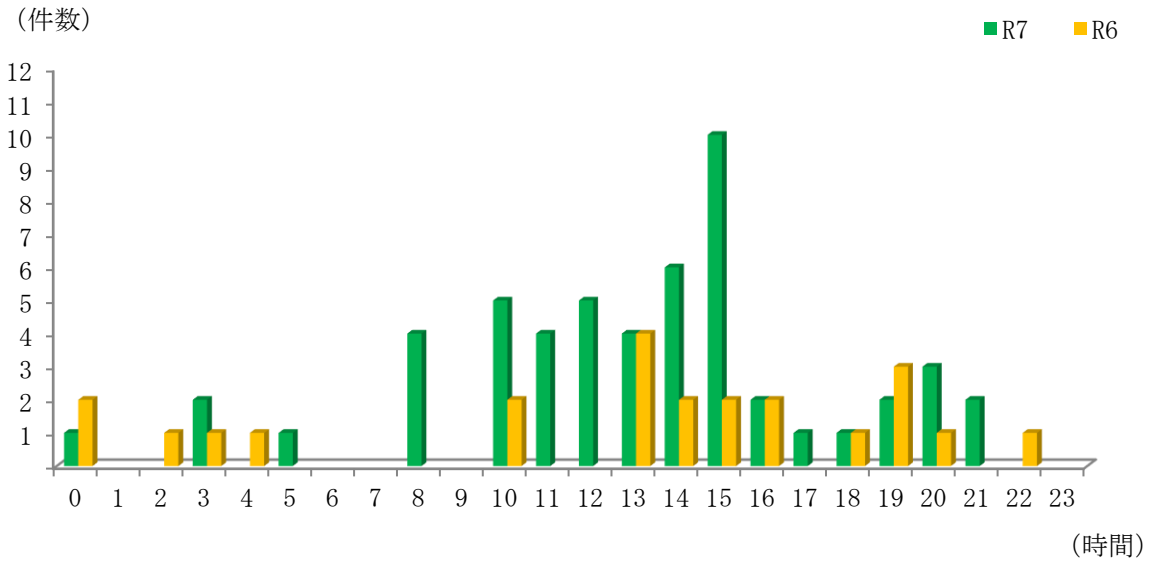


月別火災件数



年＼月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
R7	6	7	4	12	2	5	5	4		4		4	53
R6	2	1	3	1	2	1	3		4	2	2	2	23

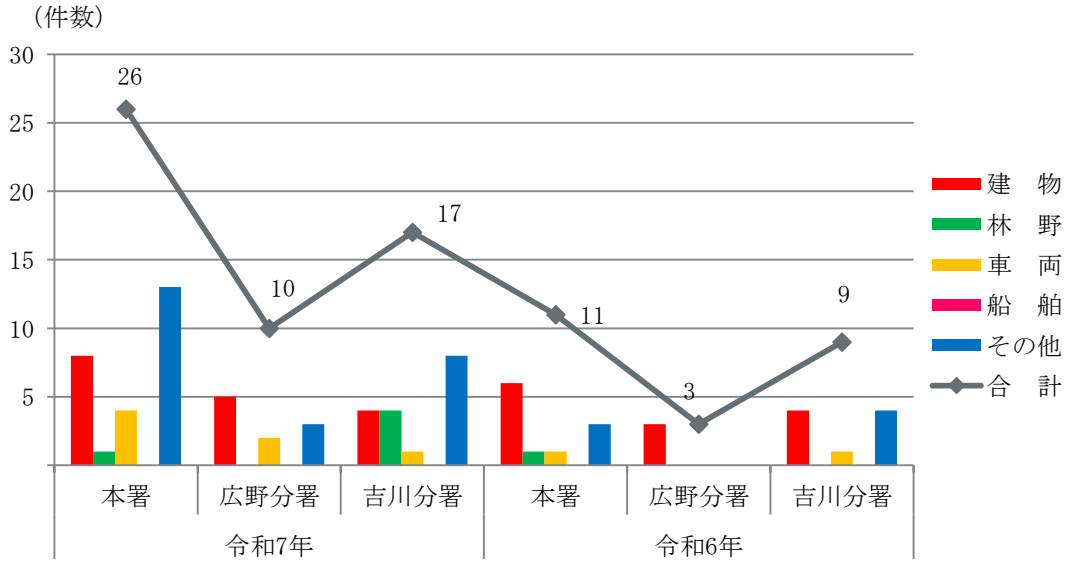
時間別火災件数



年＼時間	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	合計
R7	1			2		1			4		5	4	5	4	6	10	2	1	1	2	3	2			53
R6	2		1	1	1						2			4	2	2	2		1	3	1		1		23

署別火災件数

前年と比較して、本署は火災件数が１５件増加、広野分署は７件増加、吉川分署は８件増加となっています。



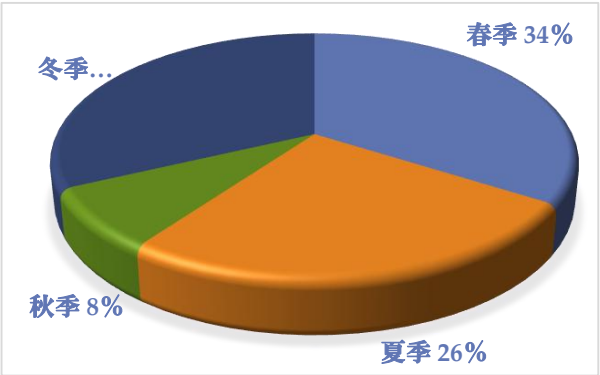
種別＼署別	令和7年			令和6年		
	本署	広野分署	吉川分署	本署	広野分署	吉川分署
建　物	8	5	4	6	3	4
林　野	1		4	1		
車　両	4	2	1	1		1
船　舶						
その他	13	3	8	3		4
合　計	26	10	17	11	3	9

四季別火災件数

（令和７年中）

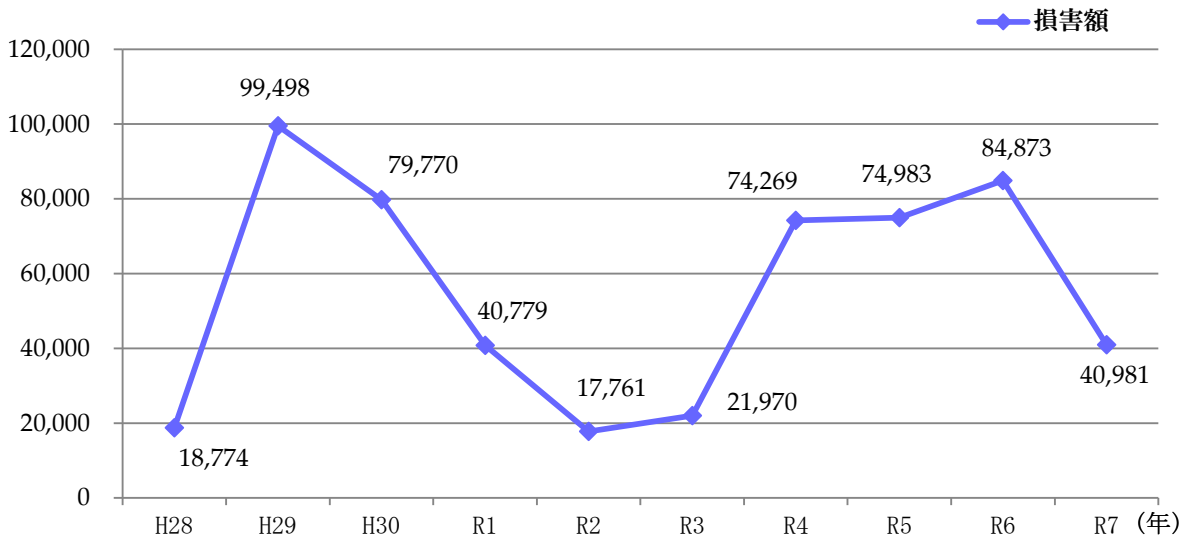
春季(3･4･5月)	18件
夏季(6･7･8月)	14件
秋季(9･10･11月)	4件
冬季(12･1･2月)	17件
合計	53件

出火件数比率（%）



火災損害額の推移

（損害額単位：千円）



火災損害額

（損害額単位：千円）

項目＼年			H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
火災損害額			18,774	99,498	79,770	40,779	17,761	21,970	74,269	74,983	84,873	40,981
	内訳	建物	15,039	94,687	74,185	38,406	16,818	21,408	59,088	53,444	84,402	33,476
		林野										
		車両	3,555	1,361	4,520	1,863	915	10	12,407	12,969	463	1,268
		船舶							75			
		その他	133	3,450	1,065	510	28	552	2,699	8,570	8	6,228
		爆発										9
1件当り損害額			670	2,551	2,849	1,854	592	845	1,580	1,973	3,690	773
出火件数			28	39	28	22	30	26	47	38	23	53
	内訳	建物	9	18	18	10	10	15	23	13	13	17
		林野	4	2	1	4	7	3	8	1	1	5
		車両	5	6	4	4	4	1	6	7	2	7
		船舶	1									
		その他	9	13	5	4	9	7	10	17	7	24

初期消火の状況

令和７年に発生した５３件の火災の中で、初期消火が行われたのは３６件です。
そのうち有効な消火活動となったのは１９件です。

項目＼年	令和７年		令和６年	
	実施	有効	実施	有効
消火器以外の消防用設備				
水バケツ	2		2	1
消火器	12	6	6	3
水道･浴槽･汲み置きの水	12	7	7	3
寝具・衣類等をかけた				
もみ消した	2			
その他	8	6	2	
合計	36	19	17	7
初期消火なし	17		6	

出火原因別件数

出火原因は「たき火」の１９件が多く、全体の約３６％を占めています。

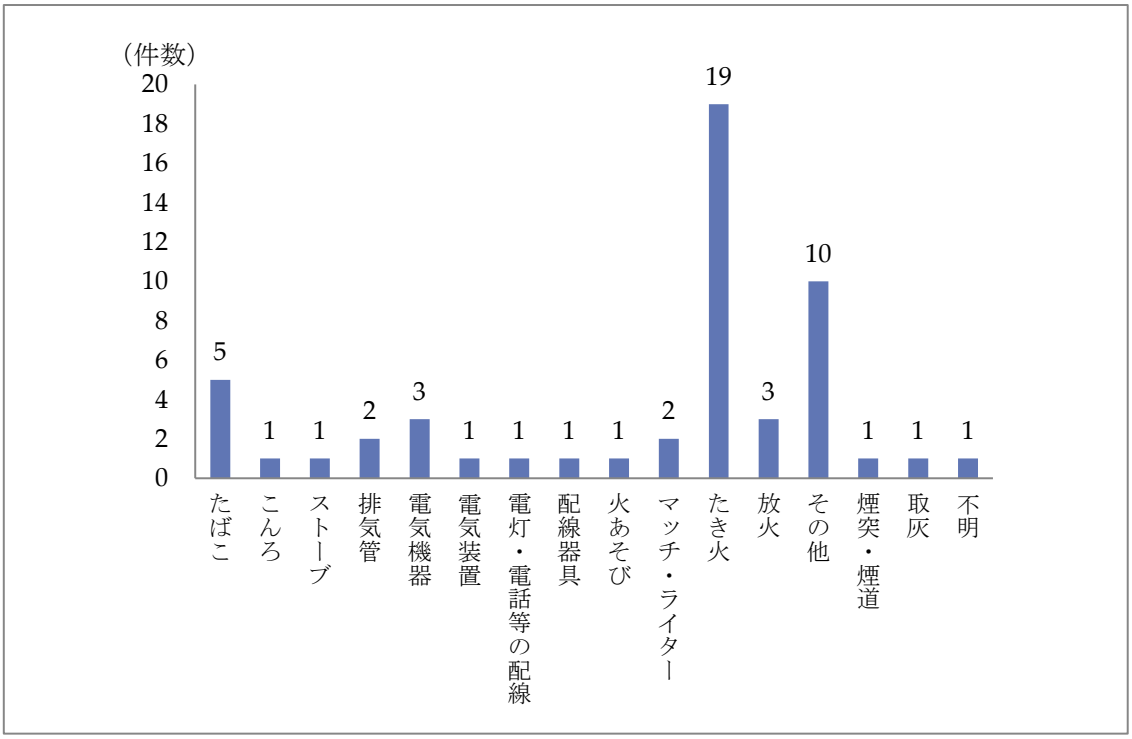
出 火 原 因	R7	R6	増　減
た ば こ	5		5
こ ん ろ	1		1
風呂かまど			
炉			
焼 却 炉		1	△ 1
ストーブ	1	2	△ 1
こ た つ			
ボイラー			
煙突・煙道	1		1
排気管	2		2
電気機器	3	1	2
電気装置	1		1
電灯・電話等の配線	1	1	0
内燃機関			
配線器具	1		1
火あそび	1		1
マッチ・ライター	2		2
た き 火	19	6	13
溶接機・切断機		2	△ 2
灯 火			
衝突の火花		1	△ 1
取 灰	1		1
火 入 れ			
放 火	3		3
放火の疑い			
そ の 他	10	4	6
不 明	1	5	△ 4
合　　計	53	23	30

△印は減少

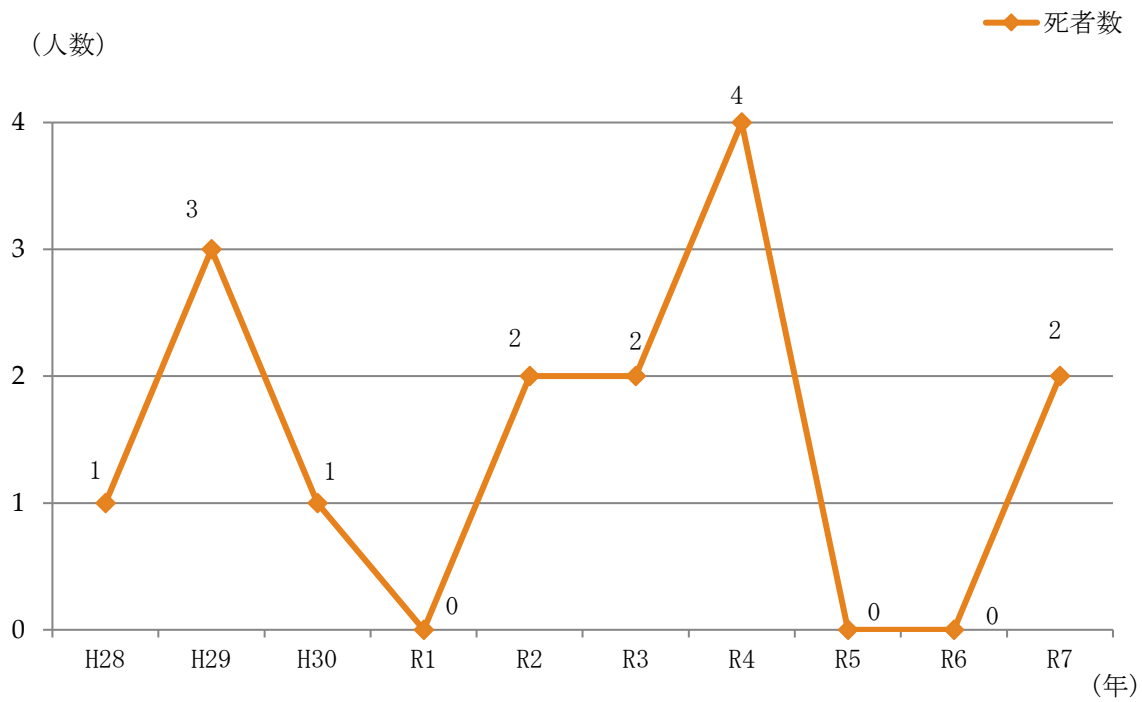
たき火欄 内訳	R7	R6
た き 火	9	4
虫 焼 火	10	2
合　　計	19	6

その他欄 内訳	R7	R6
その他の裸火（器に入っていないもの）		
石油バーナ	1	
火のついたゴミ	2	
焼入金属	1	
火工品（煙火を除く）	2	
もみ殻	1	
ブレーキライトニング	1	
ガスフライヤー		
金 属 粉		
液化石油ガスを用いる移動可能な道具	1	
プロペラシャフト		1
赤熱した切粉		1
その他の静電スパーク	1	1
線 香		1
合　　計	10	4

（令和７年中）



火災による死者数の推移



消防部隊出動状況

部隊出動件数は、昨年より２１件増の３０５件となっています。

（令和７年中）

種別＼署別	本署	広野分署	吉川分署	合計	対前年比
偵察	56	23	43	122	34
災害	76	37	63	176	△ 6
応援	2	2	1	5	△ 6
風水害	1	1		2	△ 1
合計	135	63	107	305	21

△印は減少

※ 「偵察」　偵察・統計外火災・煙火・自火報・誤報・いたずら・捜索

「災害」　救急支援・油処理・危険物漏洩・ガス漏洩・その他　※水防除く

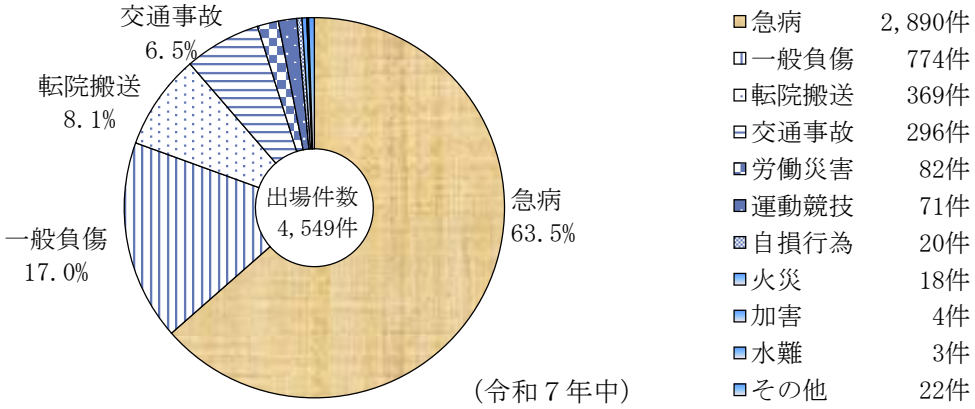
「応援」　近隣応援(境界、管轄高速道の出動)・兵庫県広域応援・緊急消防援助隊

救急編



救急出場件数

救急出場件数４，５４９件のうち急病が２，８９０件で６割以上を占め、続いて一般負傷７７４件、転院搬送３６９件の順となっています。



（令和７年中）

発生地区別出場件数

三木地区が最も多く、続いて自由が丘地区となっています。

地区＼年	令和７年	令和６年	令和５年
出場件数	4,549	4,544	4,420
三木	1,345	1,308	1,286
三木南	421	440	401
別所	430	396	397
志染	348	351	302
細川	167	149	160
口吉川	84	103	100
緑が丘	453	488	459
自由が丘	638	638	608
青山	210	178	225
吉川	412	451	436
高速道	36	37	39
その他	5	5	7

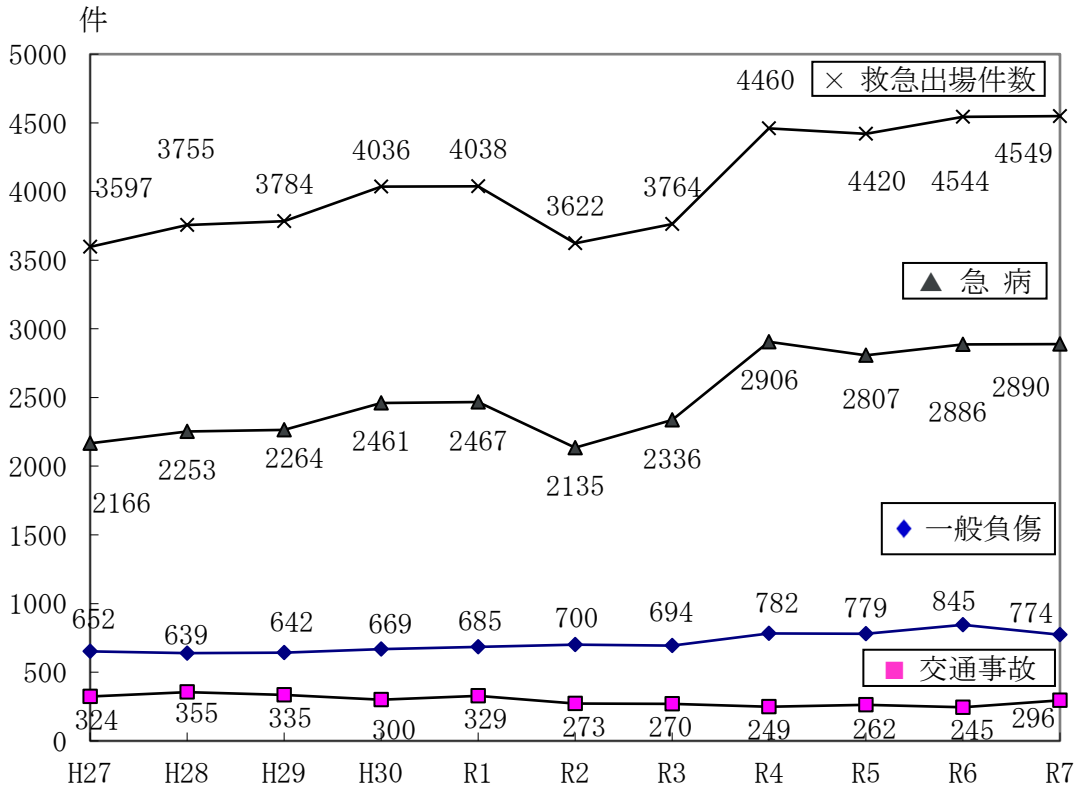
署別救急出場件数

本署５４．８％、広野分署３４．０％、吉川分署１１．２％の出場割合となっています。

事故種別＼署別	本署	広野	吉川
火災	11	4	3
自然災害			
水難	1	2	
交通事故	191	77	28
労働災害	56	15	11
運動競技	27	30	14
一般負傷	417	270	87
加害	3	1	
自損行為	12	5	3
急病	1,561	999	330
その他	214	144	33
計	2,493	1,547	509

救急出場件数の推移

救急出場件数は４，５４９件で前年比５件増加となっています。



事故種別救急出場件数

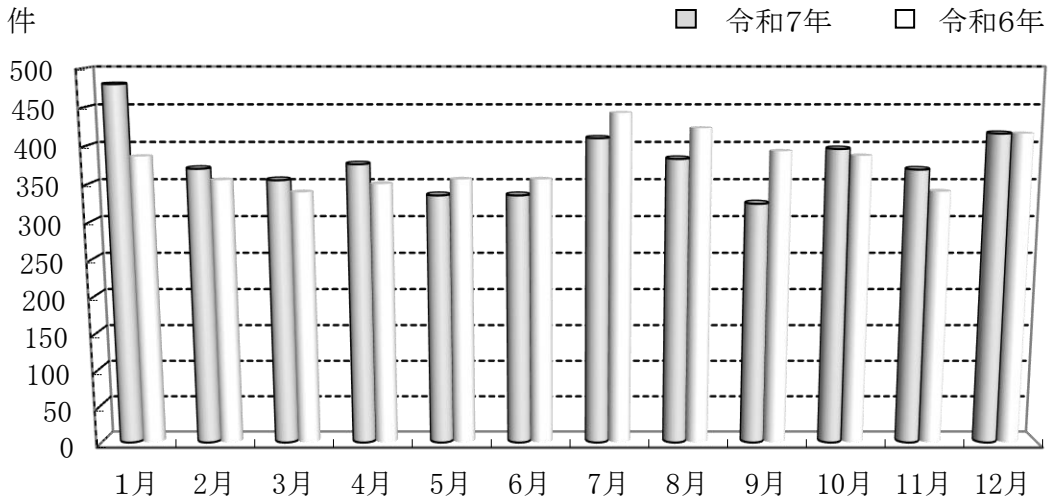
一般負傷が昨年より７１件減少し、交通事故が５１件増加しています。

事故種別＼年		令和７年	令和６年	増　減
火災		18	7	11
自然災害				
水難		3		3
交通事故		296	245	51
労働災害		82	80	2
運動競技		71	52	19
一般負傷		774	845	△ 71
加害		4	23	△ 19
自損行為		20	20	0
急病		2,890	2,887	3
その他	転院搬送	369	381	△ 12
	医師搬送			
	資器材搬送			
	その他	22	4	18
計		4,549	4,544	5

△印は減少

月別救急出場件数

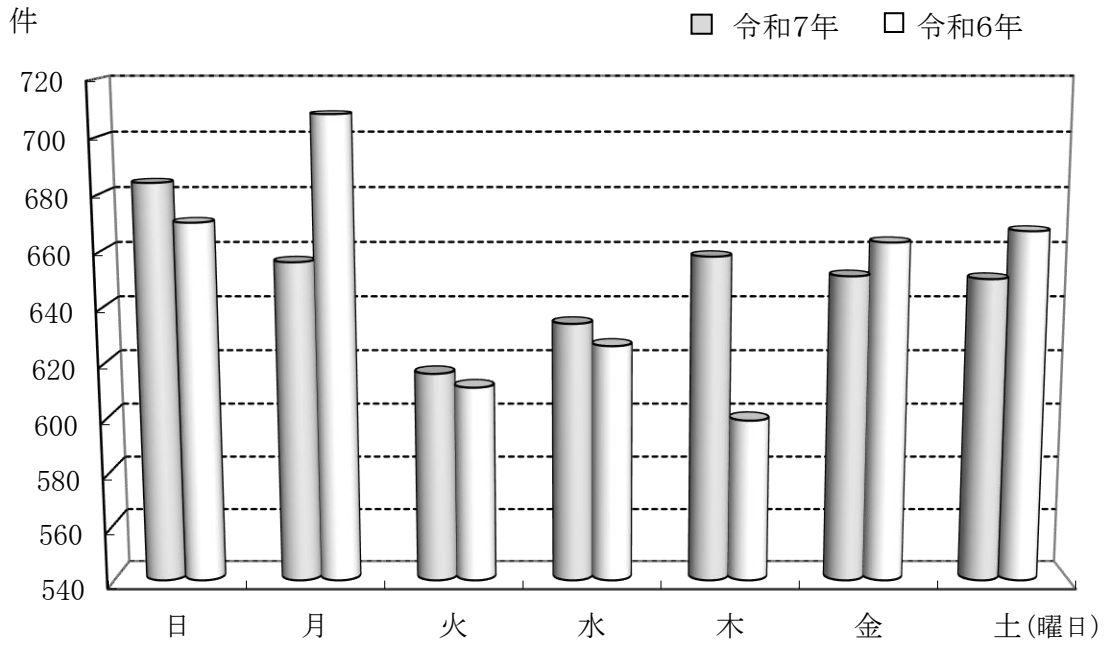
１月が最も多く、続いて１２月となっています。最も少ないのは９月です。
１ヶ月平均３７９．１件、１日平均１２．５件の出場です。



年＼月	１月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
令和７年	480	370	355	376	335	335	410	383	324	396	369	416	4,549
令和６年	386	355	339	350	356	356	443	423	393	387	340	416	4,544

曜日別救急出場件数

日曜日が最も多く、続いて木曜日となっています。最も少ないのは火曜日です。



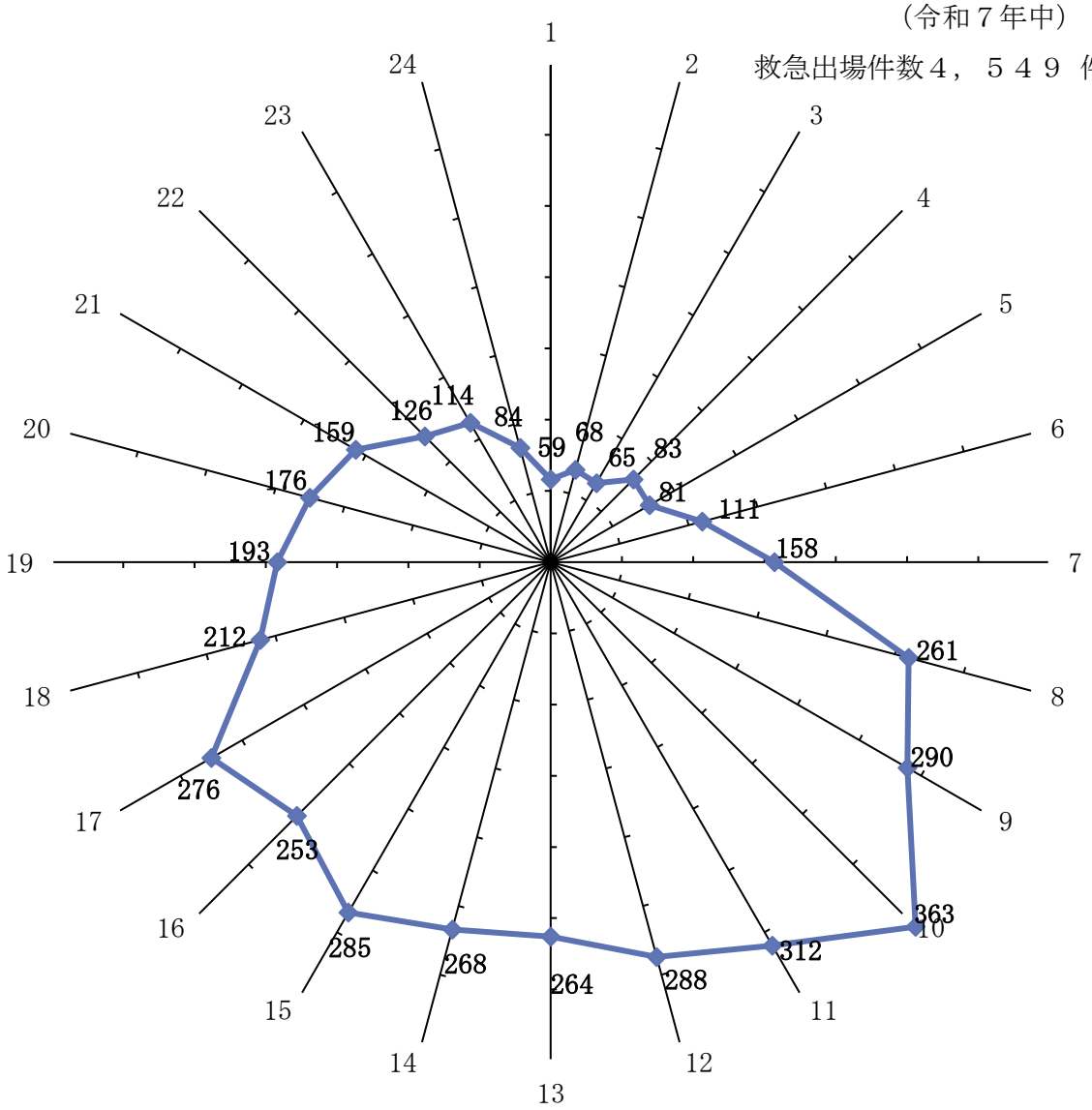
年＼曜日	日	月	火	水	木	金	土	合　計
令和７年	685	657	615	632	664	650	646	4,549
令和６年	670	708	611	626	599	663	667	4,544

時間別救急出場件数

１０時台が最も多く、最も少ないのは１時台となっています。

（令和７年中）

救急出場件数４，５４９件



現場到着所要時間別救急出場件数（覚知～現場到着）

現場到着所要時間の平均は８．８分です。５分以上１０分未満で現場到着したものが２，８３６件で最も多くなっています。

（令和７年中）

事故種別＼所要時間	3分未満	3分以上5分未満	5分以上10分未満	10分以上20分未満	20分以上	計	平均時間（分）
急　　病	11	112	1,865	848	54	2,890	8.8
交通事故	3	13	156	112	12	296	9.8
一般負傷	6	21	495	233	19	774	8.9
そ の 他	5	95	320	152	17	589	8.3
計	25	241	2,836	1,345	102	4,549	8.8

病院収容所要時間別搬送人員（覚知～病院収容）

病院収容所要時間の平均は４４．３分で、最も多いのが３０分以上６０分未満の２，９２３人で全体の７０．０％を占めています。

（令和７年中）

所要時間 / 事故種別	10分未満	10分以上20分未満	20分以上30分未満	30分以上60分未満	60分以上120分未満	120分以上	計	平均時間（分）
急　　病		10	385	1,941	282	11	2,629	42.6
交通事故		1	21	168	100	1	291	54.1
一般負傷		2	67	463	184		716	49.3
そ の 他		3	127	351	59	1	541	41.0
計	0	16	600	2,923	625	13	4,177	44.3

事故種別救急搬送人員

交通事故の増加が目立っています。

（令和７年中）

事故種別 / 年	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
令和７年	9		3	291	79	69	716	2	12	2,629	367	4,177
令和６年	1			215	80	50	767	16	12	2,611	381	4,133
増減	8		3	76	△1	19	△51	△14	0	18	△14	44

△印は減少

傷病程度別救急搬送人員

軽症２，２５４人（５４．０％）、中等症１，７６９人（４２．４％）、重症９５人（２．３％）、死亡５９人（１．４％）の順となっています。

（令和７年中）

事故種別 / 傷病程度	火災	自然災害	水難	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	計
死　亡	1		1						2	55		59
重　症				9	3		3		1	72	7	95
中等症	4		1	58	27	11	226		5	1,080	357	1,769
軽　症	4		1	224	49	58	487	2	4	1,422	3	2,254
その他												0
計	9	0	3	291	79	69	716	2	12	2,629	367	4,177

発生場所別救急出場件数

住宅での発生が２，５８８件で全体の５６．９％です。
そのうち急病が２，１１６件で８１．８％を占めています。

（令和７年中）

発生場所／事故種別	住宅	公衆出入場所	仕事場	道路	その他	計
急　　病	2,116	532	83	106	53	2,890
交通事故	3	14	1	275	3	296
一般負傷	423	146	4	139	62	774
そ の 他	46	450	78	4	11	589
計	2,588	1,142	166	524	129	4,549

年齢別事故種別搬送人員

高齢者（６５歳以上）の搬送は２，８９４人で全体の６９．３％です。
そのうち急病が１，９１７人で６６．２％を占めています。

（令和７年中）

年齢別／事故種	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
新生児（28日未満）	1				1
乳幼児（28日～6歳）	98	10	32	1	141
少　年（７歳～17歳）	59	22	17	36	134
成　人（18歳～64歳）	554	160	116	177	1,007
高齢者（65歳以上）	1,917	99	551	327	2,894
計	2,629	291	716	541	4,177

性別科目別搬送人員

性別では、男性が多くなっています。科目別では内科が２，２４７人で最も多く、脳神経外科、整形外科の順となっています。

（令和７年中）

科目別	外科		整形外科		脳神経外科		内科		小児科		精神神経科	
性　別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人　員	155	73	331	375	417	316	1,183	1,064	95	48	2	6
科目別	産婦人科		眼科		耳鼻咽喉科		泌尿器科		その他		合計	
性　別	女		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
人　員	16		7	6	8	14	34	20	5	2	2,237	1,940

高速道路における救急活動状況

（令和7年中）

高速道別＼事故種別		急病	交通事故	一般負傷	その他	計
中国道	出動件数	4	1		1	6
	搬送人員	4	1		1	6
	不搬送					0
舞鶴道	出動件数	1				1
	搬送人員	1				1
	不搬送					0
山陽道	出動件数	15	9	4	1	29
	搬送人員	13	9	3	1	26
	不搬送	2	1	1		4
計	出動件数	20	10	4	2	36
	搬送人員	18	10	3	2	33
	不搬送	2	1	1	0	4

応急処置件数

（令和7年中）

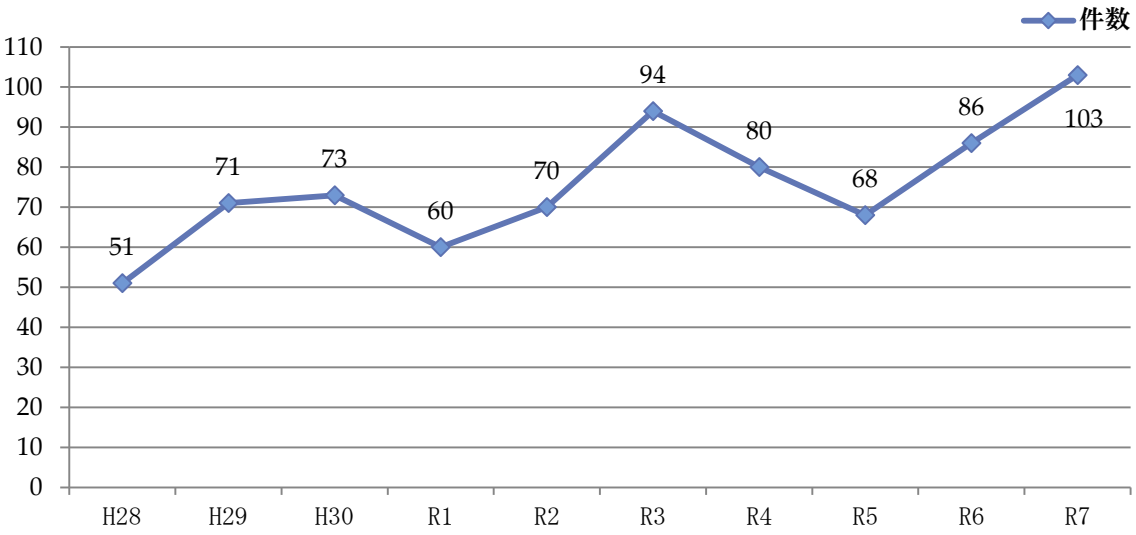
応急処置＼事故種別	急病	交通事故	一般負傷	その他	計
応急処置対象人員(人)	2,629	291	716	541	4,177
止血	16	20	72	21	129
被覆	7	50	184	37	278
固定	13	119	76	32	240
保温	57	11	9	11	88
酸素吸入	627	20	27	116	790
人工呼吸				1	1
胸骨圧迫					0
心肺蘇生	86	1	1	5	93
在宅療法継続	42		3		45
血圧測定	2,529	288	706	535	4,058
聴診器	733	102	71	88	994
血中酸素飽和度測定	2,554	290	713	537	4,094
心電図測定	2,096	124	291	352	2,863
気道確保	154	2	5	10	171
経鼻エアウェイ	1				1
喉頭鏡・鉗子	1		1		2
* ﾗﾘﾝｹﾞｱﾙﾏｽｸ等	50			1	51
* 気管挿管	5		1		6
以外	97	2	3	9	111
除細動	13				13
* 静脈路確保	61	3	2	3	69
* うち心肺機能停止前	6	2	1		9
* うち心肺機能停止後	55	1	1	3	60
* 薬剤投与	31		1	1	33
* 血糖測定	16				16
* ブドウ糖投与	2				2
その他	2,627	292	723	550	4,192
計	11,664	1,322	2,884	2,299	18,169

*印は、救急救命士の特定行為

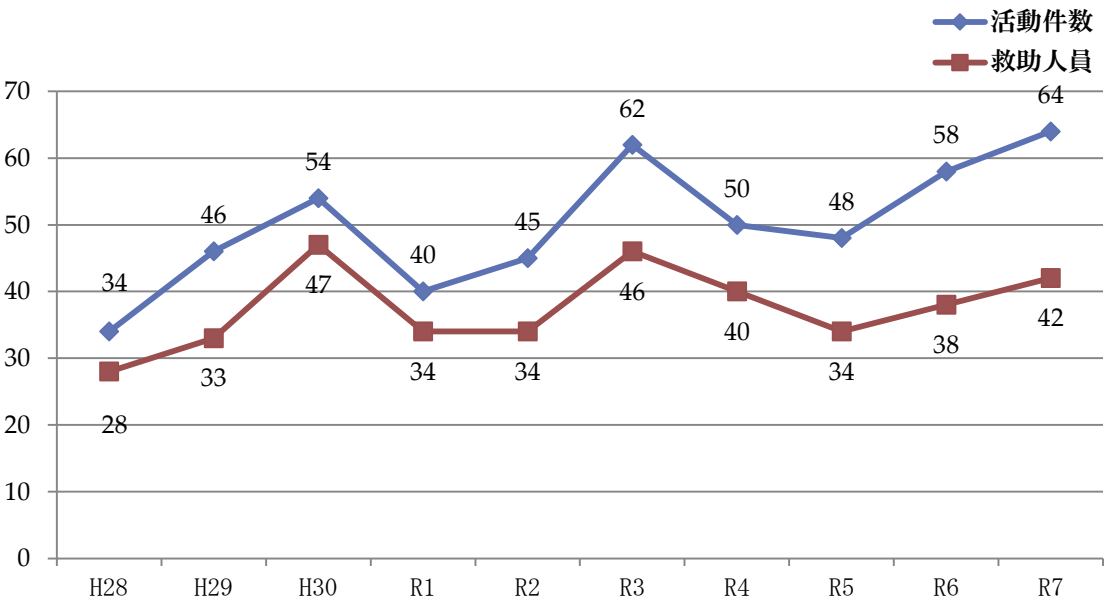
救助編



救助出動件数の推移



救助活動件数・救助人員の推移



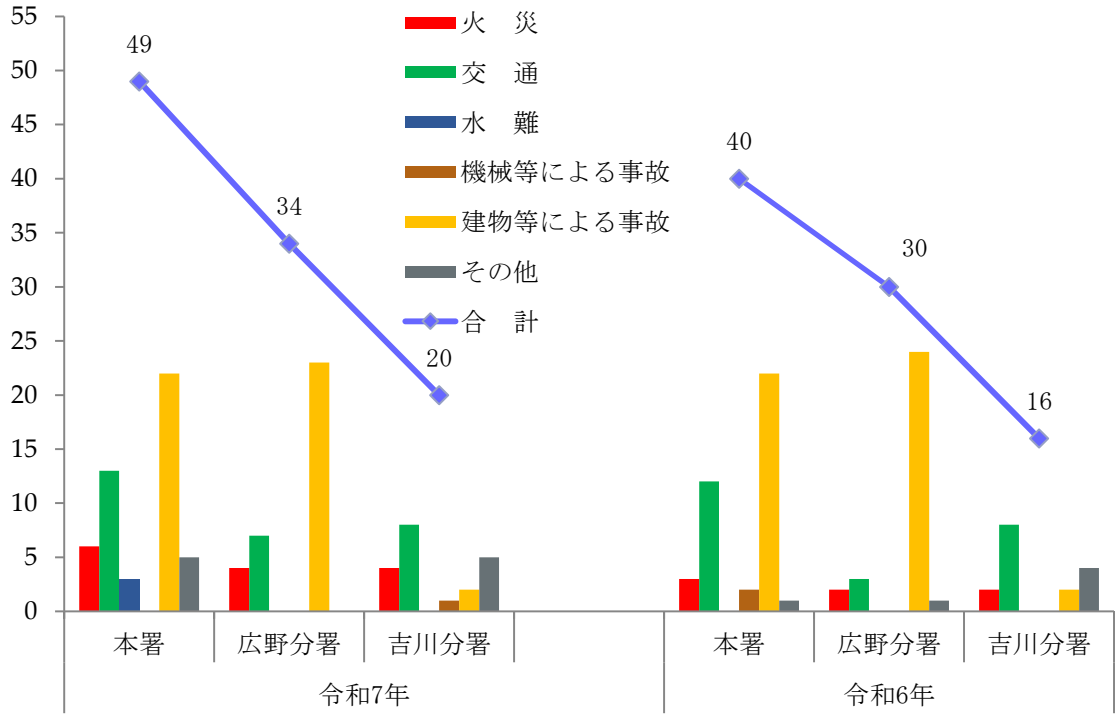
救助出動状況

出動件数１０３件で、前年比１７件増加、救助人員についても４２人で、前年比４人増加となっています。

区分／年	出動件数（件）	活動件数（件）	救助人員（人）	出動台数（台）	出動人員（人）
令和７年	103	64	42	304	858
令和６年	86	58	38	230	659

署別救助出動件数

本署の救助件数は９件増加、広野分署は４件の増加、吉川分署は４件の増加となりました。



地区別救助出動件数

三木地区が３２件と最も多く、続いて吉川地区１５件、自由が丘地区１２件の順となっています。事故種別では、建物等による事故が４７件と最も多く、続いて交通事故が２８件となっています。

（令和７年中）

種別／地区		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
三　木		3	6	2		16	5	32
三木南			3			8		11
別　所		2	1	1		3		7
志　染		1	4			2		7
細　川		1	2				1	4
口吉川			1				1	2
緑が丘		2	1			7		10
自由が丘		2	2			8		12
青　山						1		1
吉　川		3	6		1	2	3	15
管　外								0
その他			2					2
計	出動件数	14	28	3	1	47	10	103
	活動件数	14	12	3	0	28	7	64
	救助人員	3	16	3	0	13	7	42

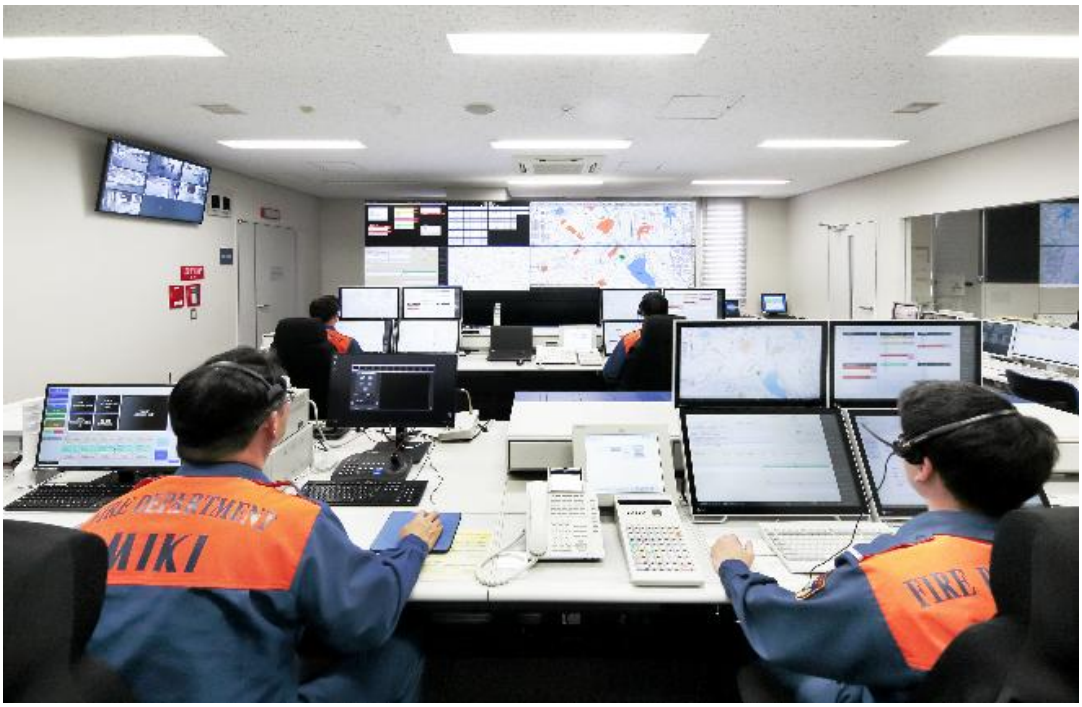
発生場所別救助出動件数

住居での事故等が５１件（４９．５％）で、道路での事故が２４件（２３．３％）となっています。

（令和７年中）

場所＼種別		火災	交通事故	水難事故	機械による事故	建物等による事故	その他	合計
屋内	住　居	5				46		51
	その他	6					1	7
屋外	高速道		2					2
	道　路		24					24
	池川等		2	3			2	7
	その他	3			1	1	6	11
地　下								0
そ　の　他							1	1
合　計		14	28	3	1	47	10	103

指 令 編



指令業務

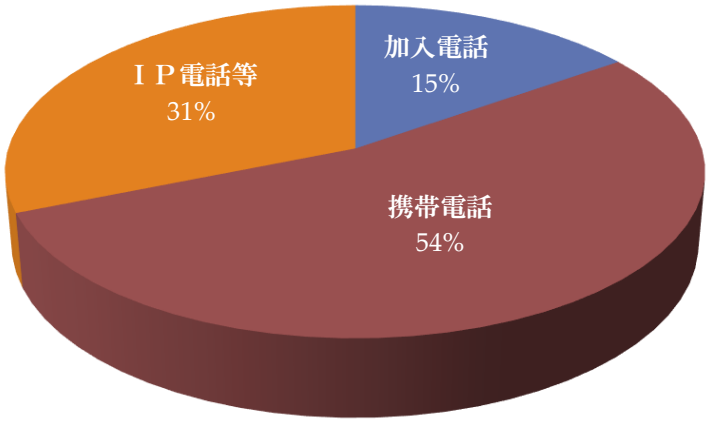
１１９番受信件数

種別＼年別・構成比	令和7年（件）	構成比（%）	令和6年（件）	構成比（%）	前年比（件）
火災	63	0.9	47	0.7	16
救急	4,089	58.6	3,798	58.3	291
その他災害	155	2.2	78	1.2	77
火災・救急問い合わせ	603	8.6	528	8.1	75
病院紹介	900	12.9	987	15.1	△ 87
まちがい	657	9.4	590	9.1	67
いたずら	30	0.4	18	0.3	12
訓練通報	295	4.2	271	4.2	24
テスト	187	2.7	202	3.1	△ 15
計	6,979	100	6,519	100	460

※ その他災害とは、火災・救急に含まれない救助・水防等の災害です。　△印は減少

１１９番通報件数（回線区分別）

総通報件数６，９７９件



（令和７年中）

加入電話	1, 067
携帯電話	3, 740
ＩＰ電話等	2, 172
総通報件数	6, 979

通信指令系統

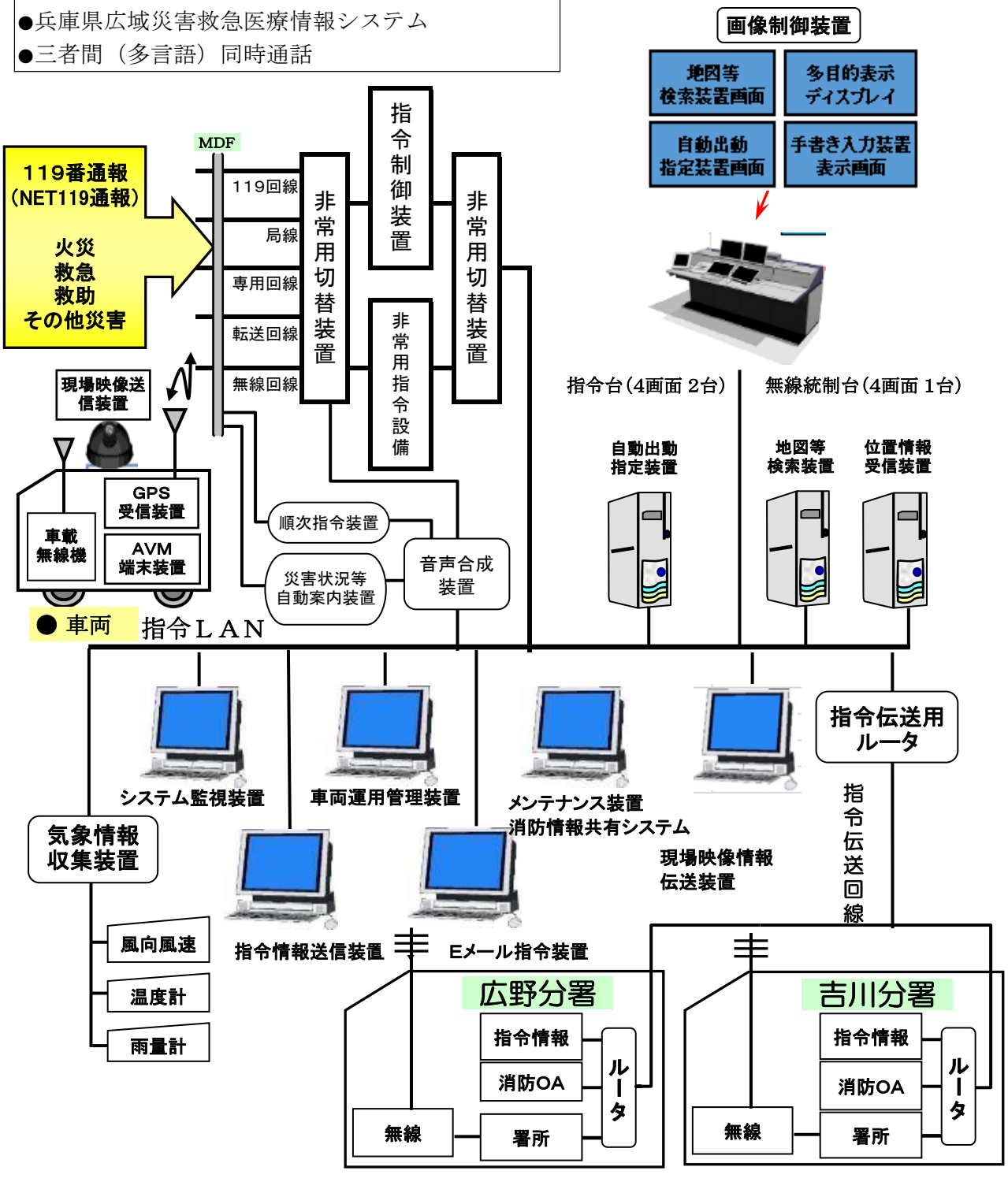
三木市消防本部では、１１９番通報の位置情報通知システム（統合型）などの機能を備えた高機能消防指令システムを導入しています。

同システムでは、携帯電話・固定電話・ＩＰ電話等からの１１９番通報があった場合、位置情報通知システムにより短時間で通報者の位置情報がモニター画面に表示されます。

こうした機能により、消防隊や救急隊が災害現場に到着するまでの時間が短縮され、また初動体制の強化が図られ、災害による被害の軽減・救命率の向上などが期待されます。

通信系統図

- ●兵庫県衛星通信ネットワークシステム
- ●兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム
- ●兵庫県広域災害救急医療情報システム
- ●三者間（多言語）同時通話



高機能消防指令システム機器一覧

（令和７年中）

	機　　器　　名	数 量	備　　考
1	指令装置		
	(1)　指令台	2台	輻輳時、最大4事案同時対応
	(2)　自動出動指定装置		
	ｱ　制御処理装置	1式	サーバ（制御処理装置）
	ｲ　ディスプレイ	2面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(3)　地図等検索装置		
	ｱ　地図等検索装置	1式	
	ｲ　地図用ディスプレイ	2台	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(4)　多目的情報処理装置		
	ｱ　多目的情報処理装置	1式	
	ｲ　地図用ディスプレイ	2面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(5)　手書き入力装置	2台	事案処理時のメモ書き
	(6)　指令操作端末	4台	ハードキー操作装置
	(7)　長時間録音装置	1台	通話録音時間3万時間程度
	(8)　指令制御装置	1式	多重系
	(9)　非常指令装置	1式	指令制御装置障害発生時のバックアップ
	(10) 携帯電話・IP電話受信転送装置	1式	
	(11) プリンタ	2台	モノクロ、カラープリンター
	(12) スキャナ	1台	A3対応
	(13) 署所端末	3台	本署、広野分署、吉川分署
	(14) 出動車両表示盤	4台	本署出動準備室、作戦指令室、広野分署、吉川分署。42インチ相当、動態名表示
2	無線統制台		
	(1)　無線統制台	1台	輻輳時、最大2事案同時対応
	(2)　自動出動指定装置		
	ｱ　制御処理装置		指令台に含む
	ｲ　ディスプレイ	1面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(3)　地図等検索装置		
	ｱ　地図等検索装置		指令台に含む
	ｲ　地図用ディスプレイ	1面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(4)　多目的情報処理装置	1式	
	ｱ　多目的情報処理装置	1式	
	ｲ　地図用ディスプレイ	1面	23インチ、ワイドタッチセンサー液晶
	(5)　手書き入力装置	1台	事案処理時のメモ書き
	(6)　指令操作端末	2台	ハードキー操作装置
3	表示盤		
	(1)　車両運用表示盤	1式	46インチ4面マルチ×２
	(2)　支援情報表示盤	1式	
	(3)　多目的情報表示装置	1式	
	(4)　映像制御装置	1式	
4	指令電送装置		
	(1)　指令情報送信装置	1式	自動地図サーバに含む
	(2)　指令情報出力装置	3式	本署・広野分署・吉川分署
5	気象情報収集装置	1式	

	機　　器　　名	数 量	備　　考
6	災害状況等自動案内装置	1式	
7	順次指令装置	1式	音声合成装置及びメール一斉指令装置と連動
8	音声合成装置	1式	
9	出動車両運用管理装置		
	(1)　管理装置	1式	
	(2)　車両運用端末装置	22台	Ⅲ型ＡＶＭ
	(3)　車外設定端末装置	12台	
10	システム監視装置	1式	
11	データメンテナンス装置	1式	
12	電源設備		
	(1)　無停電電源装置　本部	4台	指令台、各署所端末
	(2)　直流電源装置（DC48V系）	1台	
	(3)　非常用発電機　本部	3台	本署、広野分署、吉川分署
13	消防無線電話装置		
	(1)　デジタル無線		
	ｱ　260MHz無線電話装置（遠隔制御器付）	6台	活動波１・活動波２・共通波・統制波１・２・３
	ｲ　無線電話装置	3台	吉川分署(活動波１・活動波２・共通波)
	ｳ　空中線	8基	スリーブ型(本署：４　吉川：４)
	ｴ　妨害波除去フィルタ	2式	本署・吉川総合公園
	ｵ　同軸避雷器	4台	
14	ネットワーク装置	1台	
15	セキュリティ装置	1台	
16	統合型位置情報通知装置	1式	二重化構成
17	補助受付装置	1式	電話機相当
18	メール一斉指令装置	1式	通信指令、順次指令装置と連動
19	駆け込み通報装置	2式	広野分署、吉川分署
20	ＦＡＸ119受信装置	1式	
21	ＮＥＴ119システム	1式	
22	監視カメラ		屋外用４台　屋内用１台
	(1)　旋回監視カメラ	7台	
	(2)　画像収集制御装置	1面	
	(3)　監視画像表示盤	1面	空中線付き　署所設置
23	消防ＯＡシステム		
	(1)　消防ＯＡ制御装置	1式	DBサーバ／APサーバ
	(2)　消防ＯＡバックアップサーバ	1台	
	(3)　消防ＯＡ端末装置	22台	査察・救急兼用端末含む
24	消防庁内放送設備		
	(1)　非常用放送設備	3式	本部、広野、吉川
25	無給電非常用受付装置	1式	
26	現場画像映像情報伝送装置		
	(1)　車載映像受信装置	1式	指令室
	(2)　車載映像送信装置	4式	車載カメラ、送信装置
	(3)　現場映像送信装置	4台	救急タブレット

消防通信施設状況

（令和８年３月３１日現在）

区分	回線種別	回線数	区分	回線種別	回線数
指令装置	119番 受付回線	4	指令装置	順次指令回線	2
	119番 携帯電話受付回線	4		Ｅメール指令回線	1
	指令台加入電話回線	2		無線前進基地局専用回線	6
	衛星通信回線	2		兵庫県災害対応総合情報ネットワーク回線	1
	高速道専用回線	1		兵庫県広域災害・救急医療情報システム回線	1
	災害問合せ回線	2		消防無線モニターシステム回線	1

デジタル無線

（令和８年３月３１日現在）

消防無線	基地局	みきしょうほんぶ　【三木市消防本部】 活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	10W	1基
	前進基地局	みきしょうよかわ　【吉川総合公園】 活動波1ch、活動波2ch、主運用通波	10W	1基
	陸上移動局（車載用）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3、防災相互波	5W	22局
	陸上移動局（携帯用）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	1W	20局
	陸上移動局（可搬型）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	5W	1局
	陸上移動局（卓上型）	活動波1ch、活動波2ch、主運用通波、統制通波 1.2.3	5W	2局

アナログ無線

（令和８年３月３１日現在）

署活系	本署	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	33局
	広野	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	7局
	吉川	署活1、署活2、県波、防災相互波	1W	7局

火災出動体制

（令和８年３月３１日現在）

出動区分		偵察出動			第1出動			第2出動			第3出動			特命出動	応援出動
管内区分		本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	本署管内	広野管内	吉川管内	管内全域	協定隣接地応援域
出動部隊数	本部							1	1	1	2	2	2	必要な部隊数（特命により）	要請部隊数
	本署	1			2	1	1	3	2	2	3	3	2		
	広野		1		1	2		1	2		2	2	1		
	吉川			1			2			2			2		
基準出動隊数		1			3			5			7				

消防無線通信施設

（令和８年３月３１日現在）

署所	無線局種別	呼出名称	配置場所	方式	空中線電力	メーカー	購入年月日	備考
消防本部	基地局	みきしょうほんぶ	指令室	デジタル	10W	ＮＥＣ	平成26年 3月31日	市単
	前進基地局	みきしょうよかわ	吉川総合公園	デジタル	10W	ＮＥＣ	平成26年 3月31日	〃
	陸上移動局(車載用)	〃 5	団 広報車 積載	デジ・アナ	5W	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 21	消防21号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 23	消防23号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
消防署	陸上移動局(車載用)	みきしょう 1	消防 1号車積載	デジ・アナ	5W	ＮＥＣ	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃 3	消防 3号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 4	消防 4号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 6	消防 6号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 7	消防 7号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 8	消防 8号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 10	消防10号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 11	消防11号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 12	消防12号車積載	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	〃	〃 30	消防30号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃 80	消防80号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	陸上移動局(可搬型)	みきしょう 300	消防 7号車積載	デジタル	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	陸上移動局(携帯用)	みきしょう 201	消防署	〃	1W	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 202	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 203	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 204	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 205	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 206	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 207	消防署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃 208	消防署	〃	〃	〃	平成28年12月15日	〃
	〃	〃 209	消防署	〃	〃	〃	平成29年12月20日	〃
	〃	〃 210	消防署	〃	〃	〃	平成31年 3月25日	〃
	〃	〃 211	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	〃	〃 212	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃
	陸上移動局(署活系)	みきほんしょ No.1～23	消防署	アナログ	〃	ＩＣＯＭ	平成28年 1月18日	〃
	〃	No,24、25	消防署	〃	〃	〃	平成29年12月25日	〃
	〃	No,26～28	消防署	〃	〃	〃	平成31年 3月25日	〃
	〃	No,29～33	消防署	〃	〃	〃	令和元年12月12日	〃

広野分署	陸上移動局(車載用)	みきしょう　20	消防20号車積載	デジ・アナ	５W	ＮＥＣ	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃　52	消防52号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	国庫
	〃	〃　53	消防53号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃　60	消防60号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	寄贈
	陸上移動局(携帯用)	〃　230	広野分署	デジタル	１W	〃	平成26年 7月31日	市単
	〃	〃　231	広野分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃　232	広野分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃　233	広野分署	〃	〃	〃	平成30年11月 4日	〃
	陸上移動局(卓上型)	〃　301	広野分署	〃	５W	〃	平成27年11月 4日	〃
	陸上移動局(署活系)	みきひろの No,１～７	広野分署	アナログ	１W	ＩＣＯＭ	平成28年 1月18日	〃
吉川分署	陸上移動局(車載用)	みきしょう　22	消防22号車積載	デジ・アナ	５W	ＮＥＣ	平成26年 3月31日	市単
	〃	〃　81	消防81号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃　82	消防82号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	〃
	〃	〃　90	消防90号車積載	〃	〃	〃	平成26年 3月31日	国庫
	陸上移動局(携帯用)	〃　250	吉川分署	デジタル	１W	〃	平成26年 7月31日	市単
	〃	〃　251	吉川分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃　252	吉川分署	〃	〃	〃	平成26年 7月31日	〃
	〃	〃　253	吉川分署	〃	〃	〃	平成27年 1月20日	〃
	陸上移動局(卓上型)	〃　302	吉川分署	〃	５W	〃	平成27年11月 4日	市単
	陸上移動局(署活系)	みきよかわ No,１～７	吉川分署	アナログ	１W	ＩＣＯＭ	平成28年 1月18日	市単

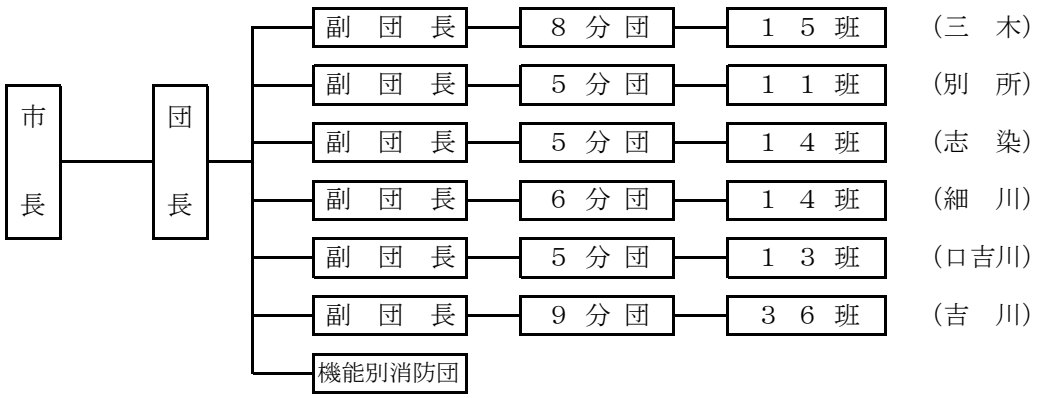
消防団編



消防団の現況

消防団は、本業を持ちながら「自分たちのまちは自分たちで守る」という強い精神で、地域の安全・安心を守るため活躍している組織です。
団長以下１，０２７名の団員が消防・防災に関する知識や技術を習得し、各種災害から地域住民の生命や財産を守るために活躍しています。

機　　構



令和７年度消防団の主な行事

４月　５日	三木市消防大会
４月２０日	正副分団長会議、機関員・新入団員教養訓練
５月１６日	北播消防協議会総会
７月２９日	緊急自動車安全運転講習会
８月２３日	みっきぃ夏まつり花火警戒
８月３１日	志染地区消防ポンプ操法大会
９月２５日	企業連携消防団訓練①（大栄環境㈱三木リサイクルセンター）
９月２８日	三木市総合防災訓練・防災フェスティバル
１０月２４日	正副分団長会議
１０月２９日	企業連携消防団訓練②（極東開発工業㈱三木工場）
１０月３０日	企業連携消防団訓練③（大栄環境㈱三木リサイクルセンター）
１１月　１日～１１月３０日	秋の訓練強化月間に伴う各地区消防訓練
１１月２９日～１１月３０日	消防団員指揮幹部科（分団指揮課程）
１１月　９日～１１月１５日	秋季全国火災予防運動実施
１１月２３日	ひょうご消防のつどい２０２５
１２月２３日	企業連携消防団訓練④（極東開発工業㈱三木工場）
１２月２９日～１２月３０日	年末火災特別警戒
１月１８日	自由が丘連合自主防災訓練
１月２４日	文化財防火デー消防訓練
２月　６日	若手消防団員意見交換会
２月２６日	企業連携消防団訓練⑤（極東開発工業㈱三木工場）
２月２７日	企業連携消防団訓練⑥（大栄環境㈱三木リサイクルセンター）
３月　１日～３月　７日	春季全国火災予防運動実施
３月　１日	機動隊合同訓練
３月　７日～３月　８日	消防団員指揮幹部科（現場指揮課程）
３月１５日	専任分団長等教養訓練

消防団員在職年数

（令和８年４月１日現在）

在職年数	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総　計
05年未満			3	8	8	9	93	121
05年～09年			11	13	21	21	97	163
10年～14年			5	16	22	15	127	185
15年～19年			8	16	15	19	129	187
20年～24年		1	8	7	16	17	83	132
25年～29年	1	3	9	5	16	13	93	140
30年以上		2	3	3	3	7	81	99
総計	1	6	47	68	101	101	703	1,027

消防団員年齢調べ

（令和８年４月１日現在）

年齢区分	団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	総　計
18才～19才							2	2
20才～24才			1				12	13
25才～29才			5	1	6	4	27	43
30才～34才				10	5	12	77	104
35才～39才			7	16	22	23	87	155
40才～44才			11	17	19	19	155	221
45才～49才		4	12	8	22	20	125	191
50才～54才	1	2	10	12	19	18	124	186
55才～59才			1	3	8	4	61	77
60才～64才				1			21	22
65才以上						1	12	13
総計	1	6	47	68	101	101	703	1,027
平均年齢	53.0	48.7	43.2	42.7	42.8	42.6	44.5	44.1

消防団分団・階級別実員数

（令和８年４月１日現在）

分団・班名 ＼ 階級			団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
団本部			1	6					23	30
三木	第1分団	宿原・与呂木・平井			1	2	3	3	15	24
	第2分団				1	1	1	1	13	17
	第3分団	岩宮・久留美			1	1	2	2	16	22
	第4分団				1	1	1	1	10	14
	第5分団	跡部・加佐東・加佐西			2	2	3	3	22	32
	第6分団				1	1	1	1	13	17
	第7分団	平田・大村・鳥町			1	2	3	3	28	37
	第8分団				1	1	1	1	13	17
	小計		0	0	9	11	15	15	130	180
別所	第1分団	高木・小林			2	1	2	2	22	29
	第2分団	東這田・興治			1	1	2	2	24	30
	第3分団	西這田北・西這田南・花尻			1	2	3	3	22	31
	第4分団	石野・下石野			1	1	2	2	27	33
	第5分団	正法寺・和田			1		1	1	7	10
	小計		0	0	6	5	10	10	102	133
志染	第1分団	戸田・三津田・御坂			1	2	3	3	33	42
	第2分団	大谷・井上・志染中			2	1	3	3	19	28
	第3分団	窟屋・高男寺・細目			2	2	3	3	19	29
	第4分団	安福田・東吉田・吉田			1	2	3	3	24	33
	第5分団	四合谷・広野			1	1	2	2	12	18
	小計		0	0	7	8	14	14	107	150
細川	第1分団				1	1	1	1	8	12
	第2分団				1	1			4	6
	第3分団				1	1	1	1	11	15
	第4分団	増田・豊地・佐野			2	1	3	3	15	24
	第5分団	金屋・桃津・高篠・高畑			1	3	4	4	31	43
	第6分団	細川中上・細川中・西・脇川			1	3	4	4	22	34
	小計		0	0	7	10	13	13	91	134
口吉川	第1分団	久次・里脇			1	1	2	2	14	20
	第2分団	槙・大島			2	1	2	2	22	29
	第3分団	笹原・殿畑・南畑			1	2	3	3	13	22
	第4分団	保木・椹原・三和			2	2	3	3	17	27
	第5分団	東中・西中・桃坂			1	2	3	3	16	25
	小計		0	0	7	8	13	13	82	123
吉川	第1分団	稲田・金会・福吉・毘沙門			1	3	4	4	23	35
	第2分団	市野瀬・東田・楠原・奥谷			3	2	4	4	21	34
	第3分団	豊岡・南豊岡・南水上・北水上			1	3	4	4	22	34
	第4分団	吉安上・吉安下大沢・大畑・西奥・米田			1	4	5	5	21	36
	第5分団	鍛冶屋・貸潮・渡瀬法光寺・出晴			1	3	4	4	21	33
	第6分団	山上・長谷・上松・田谷・湯谷			1	4	5	5	17	32
	第7分団	新田・上荒川・畑枝福井			1	2	3	3	16	25
	第8分団	冨岡・前田・上中			1	2	3	3	16	25
	第9分団	古川・実楽・古市・有安			1	3	4	4	11	23
	小計		0	0	11	26	36	36	168	277
合計			1	6	47	68	101	101	703	1,027

消防団ポンプ現勢一覧表

（令和8年4月1日現在）

所属			消防ポンプ	機種	経年	ポンプの性能		配置年月
地区	分団・班					形式	級	
三木所	1	宿原	小型動力ポンプ	シバウラ	07/07	一段タービン	B3	H30.09
		与呂木	小型動力ポンプ	シバウラ	09/06	一段タービン	B3	H28.10
		平井	軽四輪積載車	スズキ	17/05	搬送車タイプ	ー	H20.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	02/03	一段タービン	B3	R06.01
	第2分団		積載車	ニッサン	16/08	――――――	ー	H21.08
			小型動力ポンプ	トーハツ	00/01	一段タービン	B2	R08.03
	3	岩宮	軽四輪積載車	スズキ	19/02	搬送車タイプ	ー	H19.02
			小型動力ポンプ	トーハツ	06/07	一段タービン	B3	R01.09
		久留美	小型動力ポンプ	トーハツ	13/05	一段タービン	B3	H24.11
	第4分団		消防ポンプ自動車	イスズ	08/02	二段バランスタービン	A2	H30.02
	5	跡部	小型動力ポンプ	ラビット	28/05	一段タービン	B3	H09.11
		加佐東	軽四輪積載車	ダイハツ	05/05	搬送車タイプ	ー	R02.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	20/02	一段タービン	B3	H18.02
		加佐西	軽四輪積載車	ダイハツ	06/07	デッキタイプ	ー	R01.09
			小型動力ポンプ	トーハツ	06/07	一段タービン	B3	R01.09
	第6分団		積載車	ニッサン	14/07	――――――	ー	H23.09
			小型動力ポンプ	ラビット	16/02	一段タービン	B3	H22.02
	7	平田	小型動力ポンプ	トーハツ	19/02	一段タービン	B3	H19.02
		大村	小型動力ポンプ	ラビット	27/05	一段タービン	B3	H10.11
		鳥町	小型動力ポンプ	シバウラ	07/07	一段タービン	B3	H30.09
	第8分団		消防ポンプ自動車	トヨタ	07/02	二段バランスタービン	A2	H31.02

別所	1	高木	軽四輪積載車	スズキ	10/05	――――――	ー	H27.11
			小型動力ポンプ	シバウラ	15/06	一段タービン	B3	H22.10
		小林	軽四輪積載車	ダイハツ	28/12	搬送車タイプ	ー	H09.04
			小型動力ポンプ	ラビット	29/05	一段タービン	B3	H08.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	06/07	一段タービン	B3	R01.09
	2	東這田	軽四輪積載車	スズキ	18/05	搬送車タイプ	ー	H19.11
			小型動力ポンプ	シバウラ	12/05	一段タービン	B3	H25.11
		興治	軽四輪積載車	スズキ	17/05	搬送車タイプ	ー	H20.11
			小型動力ポンプ	ラビット	32/05	一段タービン	B3	H05.11
	3	西這田北	軽四輪積載車	ダイハツ	22/04	搬送車タイプ	ー	H15.12
			小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B3	H13.11
		西這田南	軽四輪積載車	スズキ	18/01	搬送車タイプ	ー	H20.03
			小型動力ポンプ	ラビット	29/05	一段タービン	B3	H08.11
		花尻	軽四輪積載車	スズキ	19/02	搬送車タイプ	ー	H19.02
			小型動力ポンプ	ラビット	21/04	一段タービン	B3	H16.12
	4	別所機動隊	積載車	ニッサン	15/07	――――――	ー	H22.09
			小型動力ポンプ	トーハツ	15/07	一段タービン	B3	H22.09
		石野	小型動力ポンプ	ラビット	31/05	一段タービン	B3	H06.11
		下石野	軽四輪積載車	ダイハツ	20/02	搬送車タイプ	ー	H18.02
			小型動力ポンプ	ラビット	11/06	一段タービン	B3	H26.10
			小型動力ポンプ	ラビット	28/05	一段タービン	B3	H09.11
	5	正法寺	小型動力ポンプ	ラビット	33/05	一段タービン	B3	H04.11
		和田	軽四輪積載車	ダイハツ	14/06	搬送車タイプ	ー	H23.10
			小型動力ポンプ	トーハツ	13/05	一段タービン	B3	H24.11

志染	1	戸田	軽四輪積載車	ダイハツ	16/08	搬送車タイプ	ー	H21.08
			小型動力ポンプ	シバウラ	12/05	一段タービン	B3	H25.11
		三津田	小型動力ポンプ	トーハツ	02/03	一段タービン	B3	R06.01
		御坂	軽四輪積載車	ダイハツ	16/08	搬送車タイプ	ー	H21.08
			小型動力ポンプ	シバウラ	01/05	一段タービン	B3	R06.11
	2	大谷	軽四輪積載車	三菱	39/05	トラックタイプ	ー	S61.11
			小型動力ポンプ	ラビット	39/06	一段タービン	B3	S61.10
		井上	小型動力ポンプ	シバウラ	08/07	一段タービン	B3	H29.09
		志染機動隊	救助資機材搭載	イスズ	15/07	――――――	ー	H22.09
		志染中	小型動力ポンプ	シバウラ	15/07	一段タービン	B2	H22.09

所属			消防ポンプ	機種	経年	ポンプの性能		配置年月
地区	分団・班					形式	級	
志染	3	窟屋	軽四輪積載車	スズキ	17/05	搬送車タイプ	B3	H20.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	18/04	一段タービン	B3	H19.12
		高男寺	小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B3	H12.11
		細目	小型動力ポンプ	ラビット	30/04	一段タービン	B3	H07.12
	4	安福田	小型動力ポンプ	シバウラ	01/05	一段タービン	B3	R06.11
		東吉田	小型動力ポンプ	ラビット	11/06	一段タービン	B3	H26.10
		吉田	小型動力ポンプ	ラビット	32/05	一段タービン	B3	H05.11
	5	四合谷	小型動力ポンプ	シバウラ	15/06	一段タービン	B3	H22.10
		広野	小型動力ポンプ	ラビット	29/05	一段タービン	B3	H08.11

細川	第1分団		軽四輪積載車	スズキ	21/01	搬送車タイプ	―	H17.03
			小型動力ポンプ	シバウラ	09/06	一段タービン	B3	H28.10
			小型動力ポンプ	ラビット	14/05	一段タービン	B3	H23.11
	第2分団		小型動力ポンプ	トーハツ	17/05	一段タービン	B3	H20.11
	第3分団		小型動力ポンプ	シバウラ	15/05	一段タービン	B3	H22.11
	4	増田	小型動力ポンプ	ラビット	30/04	一段タービン	B3	H07.12
		細川機動隊	消防ポンプ自動車	イスズ	05/03	二段バランスタービン	A2	R03.01
		豊地	小型動力ポンプ	シバウラ	05/08	一段タービン	C1	R02.08
		佐野	小型動力ポンプ	ラビット	32/05	一段タービン	B3	H05.11
	5	金屋	小型動力ポンプ	ラビット	03/04	一段タービン	B3	R04.12
		桃津	小型動力ポンプ	シバウラ	05/06	一段タービン	B3	R02.10
		高篠	小型動力ポンプ	トーハツ	10/05	一段タービン	B3	H27.11
		高畑	小型動力ポンプ	ラビット	24/05	一段タービン	B3	H13.11
	6	細川中上	小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B3	H12.11
		細川中	小型動力ポンプ	ラビット	31/05	一段タービン	B3	H06.11
		西	小型動力ポンプ	ラビット	33/05	一段タービン	B3	H04.11
		脇川	軽四輪積載車	ダイハツ	24/01	搬送車タイプ	―	H14.03
			小型動力ポンプ	ラビット	28/05	一段タービン	B3	H09.11

口吉川	1	久次	軽四輪積載車	スズキ	18/01	搬送車タイプ	―	H20.03
			小型動力ポンプ	ラビット	30/04	一段タービン	B3	H07.12
		里脇	軽四輪積載車	スズキ	15/04	搬送車タイプ	―	H22.12
			小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B3	H12.11
	2	槙	軽四輪積載車	ダイハツ	22/04	搬送車タイプ	―	H15.12
			小型動力ポンプ	シバウラ	09/06	一段タービン	B3	H28.10
		大島	軽四輪積載車	ダイハツ	20/02	搬送車タイプ	―	H18.02
			小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B3	H15.11
	3	笹原	軽四輪積載車	スバル	35/08	トラックタイプ	―	H02.08
			小型動力ポンプ	ラビット	35/05	一段タービン	B3	H02.11
		殿畑	軽四輪積載車	スズキ	18/05	搬送車タイプ	―	H19.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	11/02	一段タービン	B3	H19.02
		南畑	軽四輪積載車	スズキ	18/01	搬送車タイプ	―	H20.03
			小型動力ポンプ	トーハツ	02/03	一段タービン	B3	R06.01
	4	保木	軽四輪積載車	スズキ	19/02	搬送車タイプ	―	H19.02
			小型動力ポンプ	ラビット	32/05	一段タービン	B3	H05.11
		桾原	軽四輪積載車	スバル	24/03	トラックタイプ	―	H14.01
			小型動力ポンプ	ラビット	24/03	一段タービン	B3	H14.01
		三和	小型動力ポンプ	トーハツ	19/02	一段タービン	B3	H19.02
	5	東中	軽四輪積載車	スズキ	11/05	搬送車タイプ	―	H26.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	20/02	一段タービン	B3	H18.02
		西中	軽四輪積載車	スズキ	11/05	搬送車タイプ	―	H26.11
			小型動力ポンプ	ラビット	24/02	一段タービン	B3	H14.02
		桃坂	軽四輪積載車	スズキ	18/01	搬送車タイプ	―	H20.03
			小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B3	H11.11
	口吉川機動隊		積載車	日産	17/05	――――――	―	H20.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	19/02	一段タービン	B3	H19.02

所属			消防ポンプ	機種	経年	ポンプの性能		配置年月
地区	分団・班					形式	級	
吉川	1	稲田	軽四輪積載車	ミツビシ	38/03	トラックタイプ	－	S63.01
			小型動力ポンプ	トーハツ	10/05	一段タービン	B3	H27.11
		金会	積載車	ニッサン	35/09	――――――	－	H02.07
			小型動力ポンプ	ラビット	35/09	一段タービン	B2	H02.07
		福吉	軽四輪積載車	スバル	28/05	トラックタイプ	－	H09.11
			小型動力ポンプ	ラビット	11/06	一段タービン	B3	H26.10
		毘沙門	軽四輪積載車	スバル	32/05	トラックタイプ	－	H05.11
			小型動力ポンプ	ラビット	14/05	一段タービン	B3	H23.11
	2	市野瀬	軽四輪積載車	スバル	23/05	トラックタイプ	－	H14.11
			小型動力ポンプ	ラビット	23/05	一段タービン	B2	H14.11
		東田	軽四輪積載車	ダイハツ	06/07	搬送車タイプ	－	R01.09
			小型動力ポンプ	トーハツ	06/07	一段タービン	B3	R01.09
		楠原	軽四輪積載車	スバル	22/05	トラックタイプ	－	H15.11
			小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B2	H15.11
		奥谷	軽四輪積載車	スバル	35/01	トラックタイプ	－	H03.03
			小型動力ポンプ	シバウラ	08/07	一段タービン	B3	H29.09
	3	豊岡	軽四輪積載車	スバル	24/06	トラックタイプ	－	H13.10
			小型動力ポンプ	トーハツ	18/04	一段タービン	B3	H19.12
		南豊岡	軽四輪積載車	スバル	22/05	トラックタイプ	－	H15.11
			小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B2	H15.11
		南水上	軽四輪積載車	ダイハツ	00/05	トラックタイプ	－	R07.01
			小型動力ポンプ	シバウラ	01/05	一段タービン	B3	R06.11
		北水上	軽四輪積載車	スバル	01/05	トラックタイプ	－	R06.11
			小型動力ポンプ	ラビット	05/06	一段タービン	B3	R02.10
	4	吉安上	軽四輪積載車	スズキ	15/05	搬送車タイプ	－	H22.11
			小型動力ポンプ	ラビット	28/04	一段タービン	B2	H09.12
		吉安下・大沢	軽四輪積載車	スバル	32/04	トラックタイプ	－	H05.12
			小型動力ポンプ	ラビット	32/04	一段タービン	B2	H05.12
		大畑	軽四輪積載車	スバル	32/04	トラックタイプ	－	H05.12
			小型動力ポンプ	ラビット	32/04	一段タービン	B2	H05.12
		西奥	積載車	ニッサン	33/02	――――――	－	H05.02
			小型動力ポンプ	シバウラ	12/05	一段タービン	B3	H25.11
		米田	軽四輪積載車	スバル	32/04	トラックタイプ	－	H05.12
			小型動力ポンプ	ラビット	24/06	一段タービン	B2	H13.10
	5	鍛冶屋	軽四輪積載車	ミツビシ	44/01	トラックタイプ	－	S57.03
			小型動力ポンプ	ラビット	28/04	一段タービン	B2	H09.12
		貸潮	軽四輪積載車	スバル	26/05	トラックタイプ	－	H11.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	13/05	一段タービン	B3	H24.11
		渡瀬・法光寺	軽四輪積載車	ダイハツ	14/06	搬送車タイプ	－	H23.10
			小型動力ポンプ	ラビット	23/06	一段タービン	B3	H14.10
		出晴	軽四輪積載車	スバル	22/05	トラックタイプ	－	H15.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	22/05	一段タービン	B3	H15.11
	6	山上	軽四輪積載車	ダイハツ	09/06	搬送車タイプ	－	H28.10
			小型動力ポンプ	ラビット	26/05	一段タービン	B3	H11.11
		長谷	軽四輪積載車	スバル	28/04	トラックタイプ	－	H09.12
			小型動力ポンプ	ラビット	28/04	一段タービン	B2	H09.12
		上松	軽四輪積載車	スバル	31/06	トラックタイプ	－	H06.10
			小型動力ポンプ	ラビット	31/06	一段タービン	B2	H06.10
		田谷	軽四輪積載車	ダイハツ	22/05	トラックタイプ	－	H15.11
			小型動力ポンプ	ラビット	22/05	一段タービン	B3	H15.11
		湯谷	軽四輪積載車	スバル	21/02	トラックタイプ	－	H17.02
			小型動力ポンプ	ラビット	25/05	一段タービン	B3	H12.10

所属			消防ポンプ	機種	経年	ポンプの性能		配置年月
地区	分団・班					形式	級	
吉川	7	新田	軽四輪積載車	スバル	28/04	トラックタイプ	－	H09.12
			小型動力ポンプ	ラビット	14/05	一段タービン	B3	H23.11
		上荒川	軽四輪積載車	スズキ	12/05	搬送車タイプ	－	H25.11
			小型動力ポンプ	トーハツ	04/06	一段タービン	B3	R03.10
		畑枝・福井	軽四輪積載車	スバル	23/05	トラックタイプ	－	H14.11
			小型動力ポンプ	ラビット	16/02	一段タービン	B3	H22.02
	8	冨岡	軽四輪積載車	ダイハツ	09/05	搬送車タイプ	－	H28.11
			小型動力ポンプ	シバウラ	12/05	一段タービン	B3	H25.11
		前田	積載車	トヨタ	28/04	――――――	－	H09.12
			小型動力ポンプ	トーハツ	17/05	一段タービン	B3	H20.11
		上中	軽四輪積載車	スバル	32/04	トラックタイプ	－	H05.12
			小型動力ポンプ	トーハツ	00/03	一段タービン	B3	R08.01
	9	古川	積載車	ニッサン	29/04	――――――	－	H08.12
			小型動力ポンプ	トーハツ	17/04	一段タービン	B3	H20.12
		実楽	軽四輪積載車	スバル	21/02	トラックタイプ	－	H17.02
			小型動力ポンプ	ラビット	21/01	一段タービン	B3	H17.02
		古市	小型動力ポンプ	ラビット	30/05	一段タービン	B2	H07.11
		有安	小型動力ポンプ	ラビット	33/04	一段タービン	B2	H04.12
	吉川機動隊		救助資機材搭載	イスズ	13/01	――――――	－	H25.03
			小型動力ポンプ	トーハツ	13/01	一段タービン	B2	H25.03

消防団員報酬・退職 ・新任状況

報　　酬

（令和８年４月１日現在）

役　職	団　長	副団長	専任分団長・分団長 機動隊長	副分団長	部長・班長	団　員
報酬額(円/年)	207,000	126,000	50,500	45,500	37,000	36,500

退職事由

（令和８年４月１日現在）

退職団員数	退職事由						
	自己都合	定年等	傷病		死亡		統合整理
			公務	その他	公務	その他	
73	72					1	

退職団員の在職年数

（令和８年４月１日現在）

退職団員数	退職団員在職年数						
	５年未満	５年以上 10年未満	10年以上 15年未満	15年以上 20年未満	20年以上 25年未満	25年以上 30年未満	30年以上
73	8	10	7	7	12	10	19

年齢別新入団員数

（令和８年４月１日現在）

新任団員数	入団年齢								新入団員の中で41歳以上の再入団
	21歳 未満	21 ～25	26 ～30	31 ～35	36 ～40	41 ～45	46 ～50	51歳 以上	
50	1	4	8	5	4	5	4	19	22

消防団員出動状況

火災出動及び火災シーズン中における警戒、各種災害への対応、並びに各種教養訓練等を行っています。

（令和７年中）

種別／区分	火　災	水　防	警戒	訓練等
回　　数	278			1,144
人　　員	506			4,289
平均出動人員	1.8	0.0	0.0	3.7

消防団員関係表彰状況

郷土愛護の精神に基づき、崇高かつ重大な責務に対し特に自ら進んで、その使命達成に努められた功績により表彰を授与されました。

（令和７年度）

種別＼階級		団長	副団長	分団長	副分団長	部長	班長	団員	計
消防庁長官表彰	永年勤続功労章		1						1
日本消防協会長表彰	特別功労賞								0
	功績章		1						1
	精績章							2	2
	勤続章					1	1	11	13
兵庫県知事表彰	功労章								0
	永年勤続功労章		1	1		2	1	6	11
	親子二代の賞								0
	家族の賞		1	2	1			7	11
兵庫県消防協会長表彰	功績章		1	2	1				4
	精績章			1	2			2	5
	勤続章		2	1	3	2	2	28	38
	精勤章			1	1			9	11
	家族の賞 30年							2	2
北播消防協議会長表彰	優良綬	口吉川第2分団槙班							
	功績章		1		1			1	3
	功労章			2	1	1	1	7	12
三木市長表彰			1	2	1			3	7
三木市長家族の賞					3			2	5
三木市消防長表彰				3		1	1	1	6
三木市消防署長表彰				2	1	1		2	6
三木市消防団長表彰				2	6	2		7	17
三木市消防団長分団表彰		久留美、東這田、窟屋、細川第3、西中、豊岡							
計		0	9	19	21	10	6	90	155

令和7年版　消防年報

〒673-0433
兵庫県 三木市福井1933番15
三木市 消防本部

ＴＥＬ　0794-82-0119
ＦＡＸ　0794-82-9167